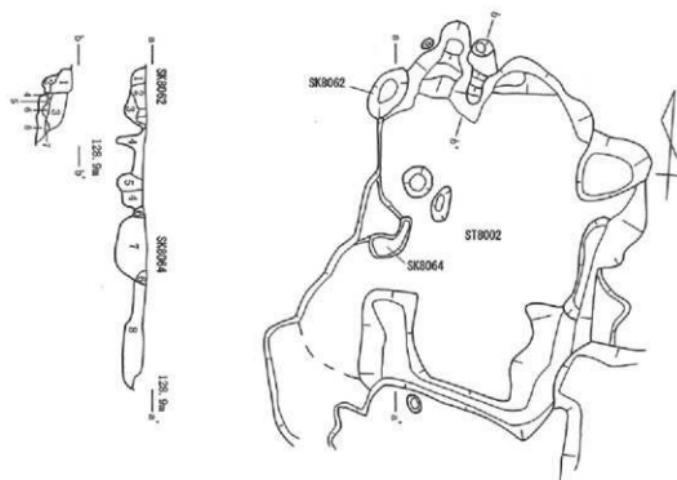
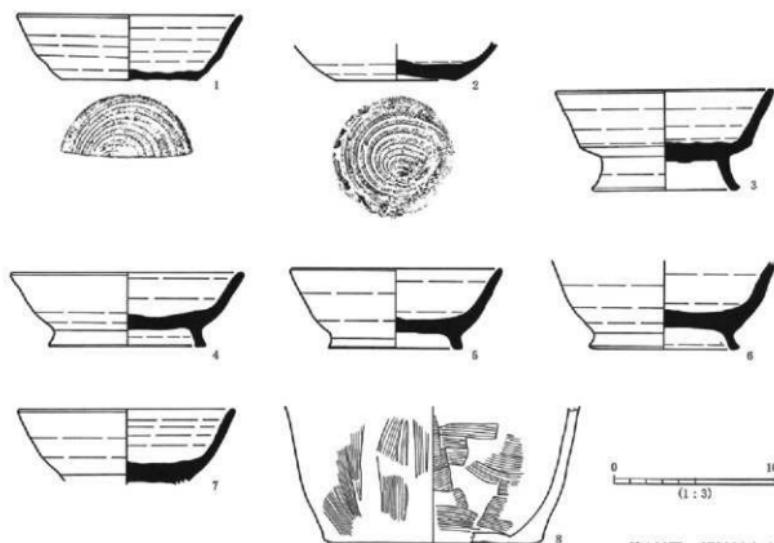


IV 検出された遺構と遺物



0 2m
(1 : 60)

第143図 ST8002



第144図 ST8002出土遺物

形態 西側を SK8062、SK8064 に切られる。カマドが北壁の西端に付属し、ソデが東側のみ良好な状態で検出されたが、西側は検出されなかった。周溝は、東壁の南半から南壁の東半にかけて検出された。柱穴は検出されなかった。

出土遺物 須恵器壺（1、2）・有台壺（3～7）、土師器甕（8）などが出土した。須恵器壺はすべて回転糸切りである。有台壺は、高台高が高く、壺部の下部に屈曲部を持つ、いわゆる稜擁といわれるタイプ（3）と、高台高が低く壺部が直線的にハの字状に立ち上がるタイプ（4～7）がある。有台壺の（3～6）は正位に重なった状態で、住居西壁の中央付近で出土した。年代は 8 世紀後半から 9 世紀初頭であると思われる。

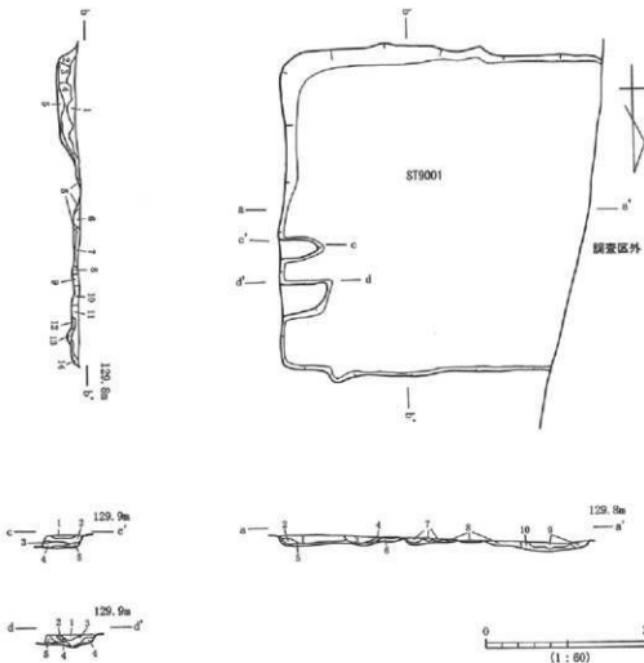
ST9001（第145図）

位置 18-17 グリッド。

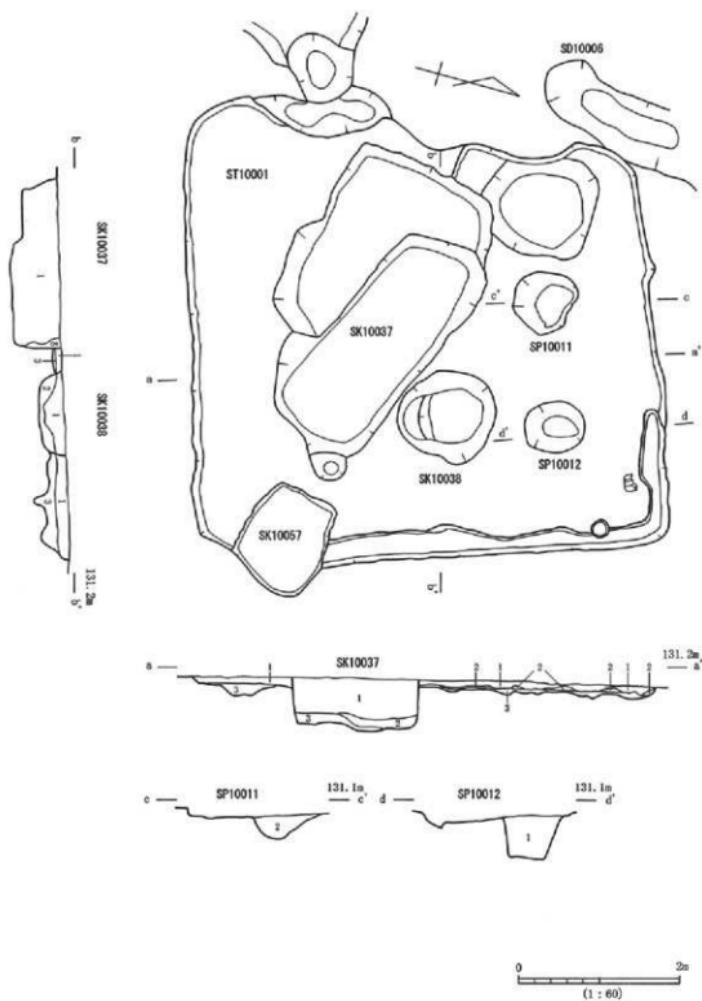
規模 長軸 3.93 m、検出面からの深さ 15 cm。

形態 西側が調査区外にかかる。カマドが東壁のやや北よりの部分に付属し、ソデが良好な状態で検出された。柱穴は検出されなかった。

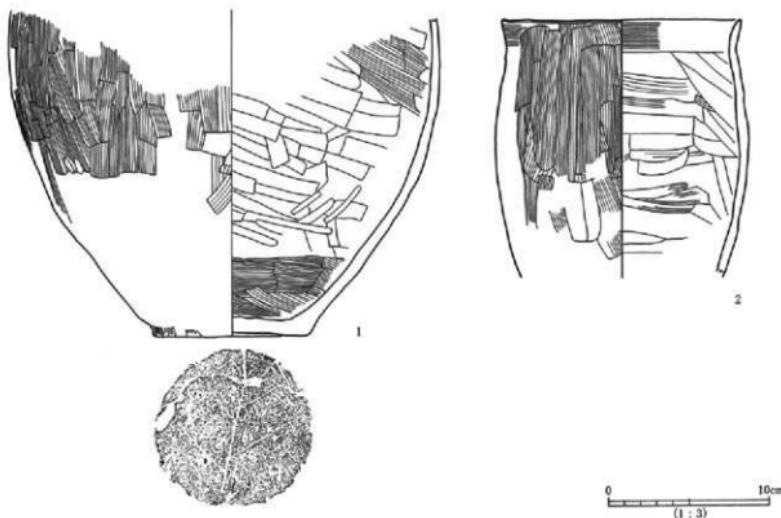
出土遺物 出土した遺物はなかった。年代も不明である。



第145図 ST9001



第146図 ST10001



第147図 ST10001出土遺物

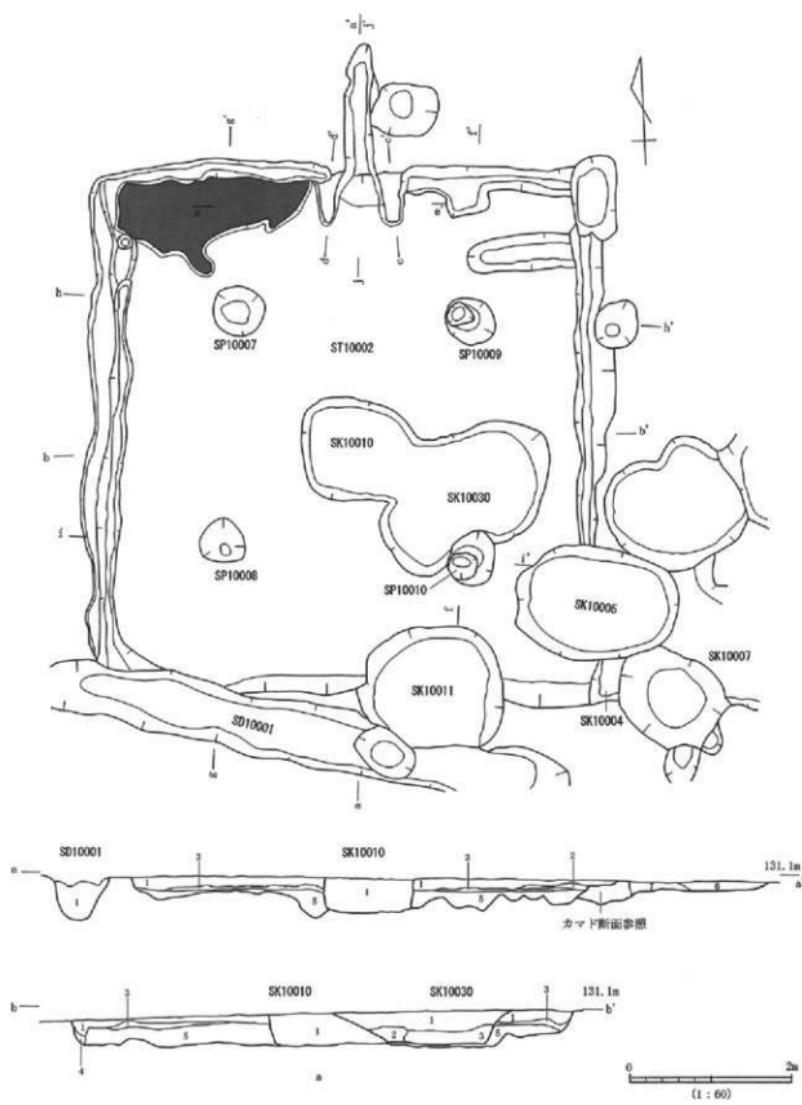
ST10001 (第146~147図)

位 置 17-16~17-17グリッド。

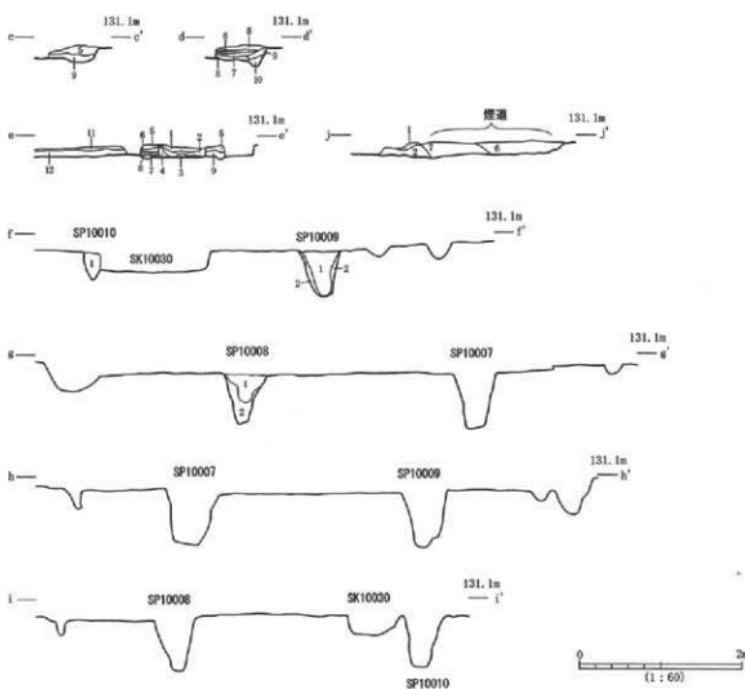
規 模 長軸 5.85 m、短軸 5.68 m、検出面から床面までの深さ 12 cm、検出面から掘り方までの深さ 17 cm。

形 態 西側を SD10006 に、中央を SK10037、SK10038、SP10011 に、南東を SK10057 に切られる。3 層が掘り方の覆土で、その上層との境が住居の床面である。カマドは検出されなかった。周溝は、北壁の東端から東壁にかけて検出された。主柱穴は SP10012 の 1 基が検出された。

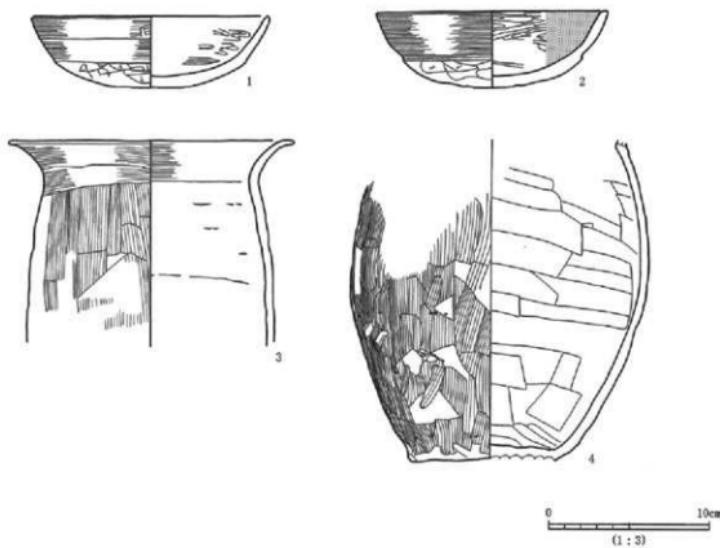
出土遺物 土師器壺 (1, 2)・壺、須恵器壺・有台壺などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は 7~8 世紀であると思われる。



第148図 ST10002(1)



第149図 ST10002(2)



第150図 ST10002出土遺物

ST10002 (第148~150図)

位置 17-16グリッド。

規模 長軸 6.68 m、短軸 6.32 m、検出面から床面までの深さ 11 cm、検出面から掘り方までの深さ 26 cm。

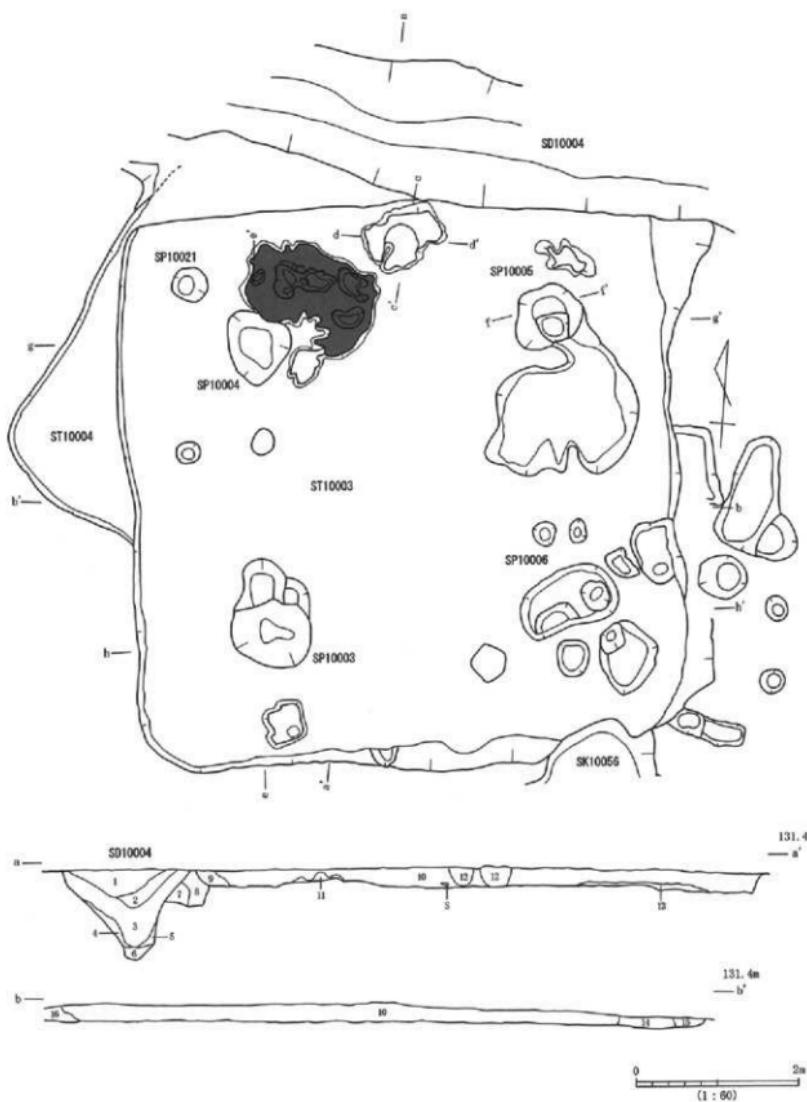
形態 南側を SD10001、SK10011に、東側を SK10005に、中央を SK10010、SK10030に切られる。5層が掘り方の覆土で、その上層との境が住居の床面である。カマドは北壁の中央で検出され、長さ 1.10 m、中央の幅 30 cm の煙道が付属し、ソデが良好な状態で検出された。また、カマドから挿き出したと思われる焼土が北西隅で確認された。周溝が南壁を除いて、北東西壁で検出された。主柱穴は SP10007、SP10008、SP10009、SP10010 の 4 基が検出された。

出土遺物 土師器壺(1、2)・壺(3、4)などが出土した。壺(1、2)は丸底で、外面の下部に稜を持つが内面には稜がなく、口縁部が緩やかに内湾しながら立ち上がる。壺(3、4)は長胴形のタイプで、外面にハケメ、内面にナデ、口縁部にナデが施される。年代は 7 世紀であると思われる。

ST10003 (第151~159図)

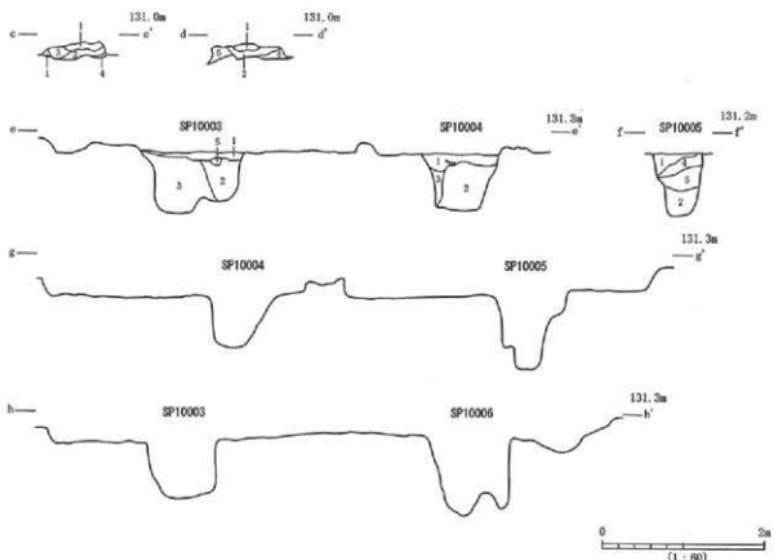
位置 17-15~18-16グリッド。

規模 長軸 7.13 m、短軸 6.74 m、検出面から床面までの深さ 25 cm、検出面から掘り方までの深さ 50 cm。



第151図 ST10003・ST10004(1)

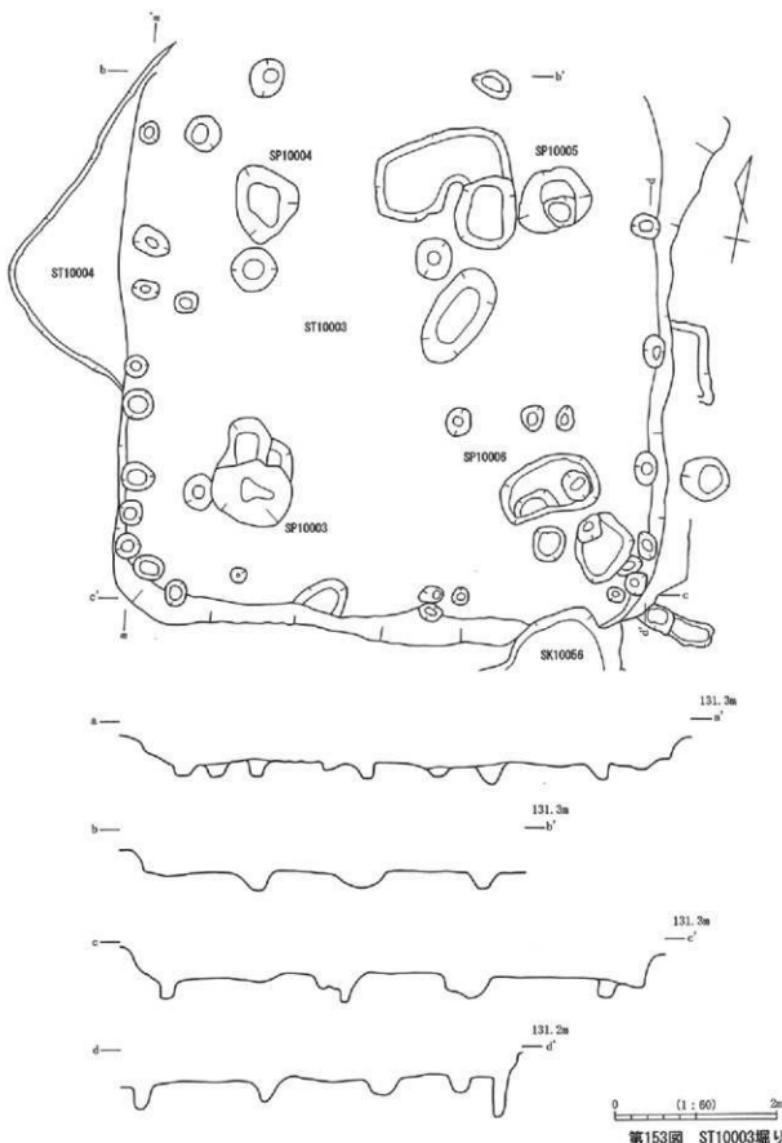
IV 検出された遺構と遺物

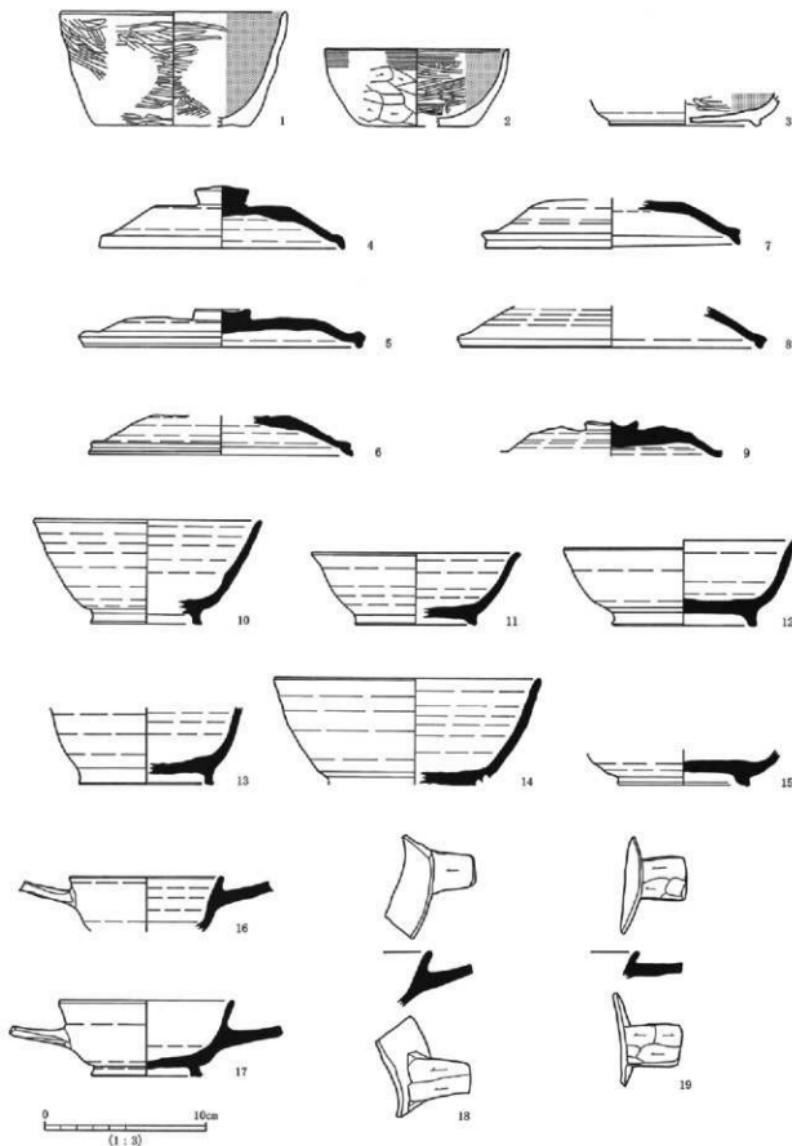


第152図 ST10003・ST10004(2)

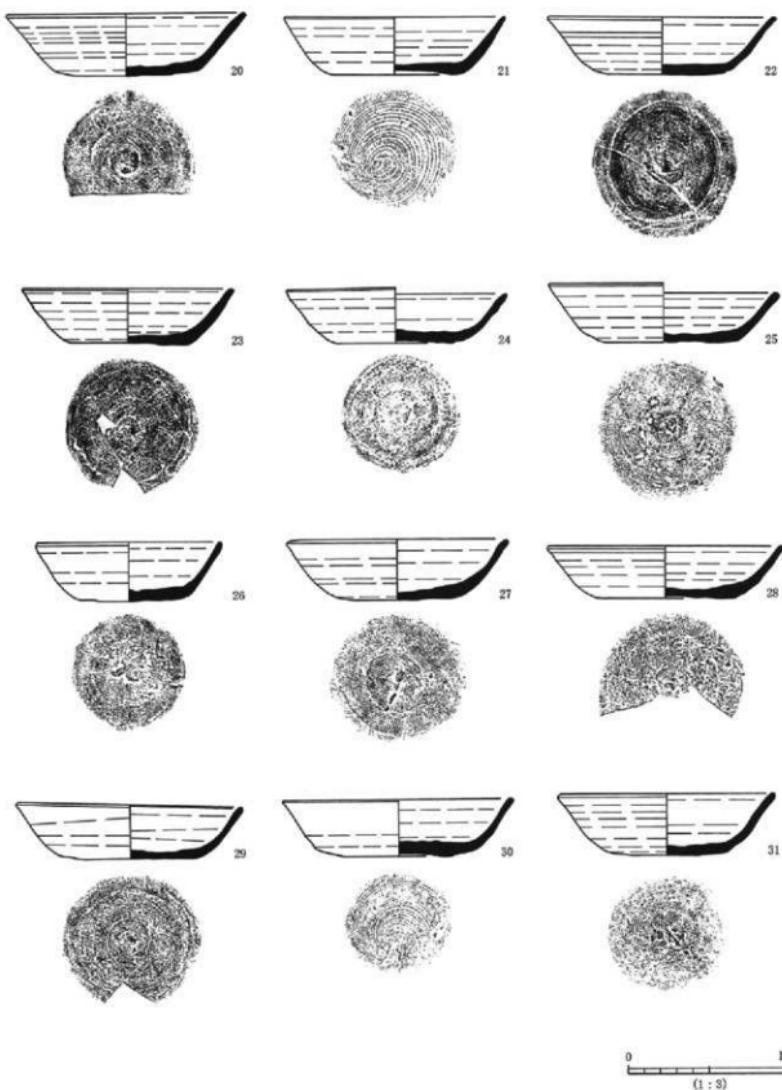
形態 北側を SD10004 に、南側を SK10056 に切られる。また、ST10004 を切る。住居は二つの時期が確認された。新しい時期の形態は、第 151～152 図に示している。9～13 層が住居の覆土で、その下の層の境が住居の床面となる。カマドは北壁の中央に付属し、ソデが上からつぶされたような状態で検出された。カマドから掘り出したと思われる焼土がカマドの南西側で確認された。主柱穴は SP10003、SP10004、SP10005、SP10006 の 4 基が検出された。

古い時期の形態は、第 153 図に示している。床面や掘り方覆土は新しい時期の住居を建設する際に破壊されているよう、検出されなかった。カマドは検出されなかった。壁柱穴が東壁、南壁、西壁で検出された。
出土遺物 出土した遺物は新旧どちらの時期の住居に帰属するか判別できなかった。土師器壺 (1～3)・甕 (48～52)、須恵器蓋 (4～9)・有台壺 (10～15)・双耳壺 (16～19)・壺 (20～47)・甕 (53～56)・横瓶 (57)・壺 (58)、赤焼甕 (59～61) などが出土した。土師器壺は非ロクロ成形 (1, 2) とロクロ成形 (3) に大別される。須恵器蓋は天井部が平坦になるタイプ (4, 6, 7) と、中央が凹むタイプ (5, 9) がある。ツマミは宝珠形のタイプ (4) と擬宝珠形のタイプ (5, 9) がある。有台壺は、口径が大きく深いタイプ (10, 14) と、口径がやや小さく浅いタイプ (11, 12) があり、回転ヘラ切りと回転糸切りが混在する。壺は、ほぼすべて体部がハの字状に傾きながら立ち上がるタイプであり、底部切離しは回転ヘラ切りが回転糸切りより圧倒的に多い。土師器甕は長胴形のタイプ (51) と、中型のタイプ (48, 50, 52)、小型のタイプ (49) がある。須恵器甕は、口径が大きく体部の肩の張りが明瞭でないタイプ (53～55) と、体部の肩の張りが明瞭なタイプ (56) がある。赤焼甕は、口径がやや大きく中型のタイプ (60) と口径が小さい小型のタイプ (59) がある。年代は出土遺物にやや幅があるが、およそ 9 世紀初頭頃であると思われる。

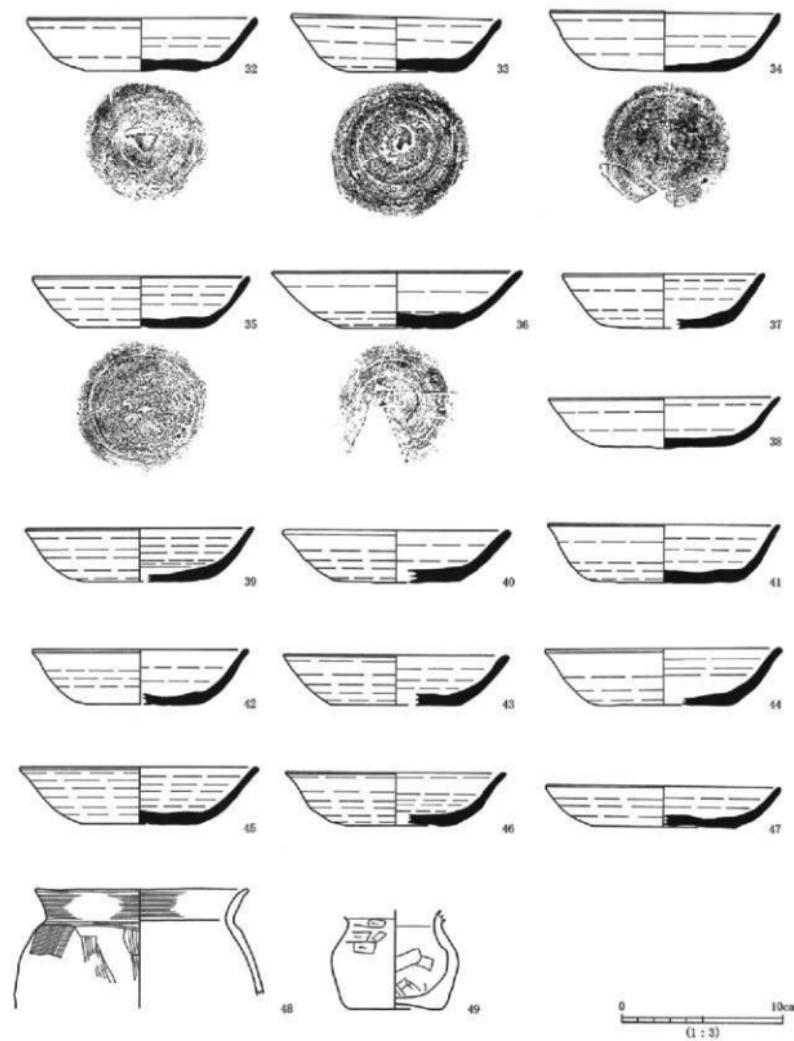




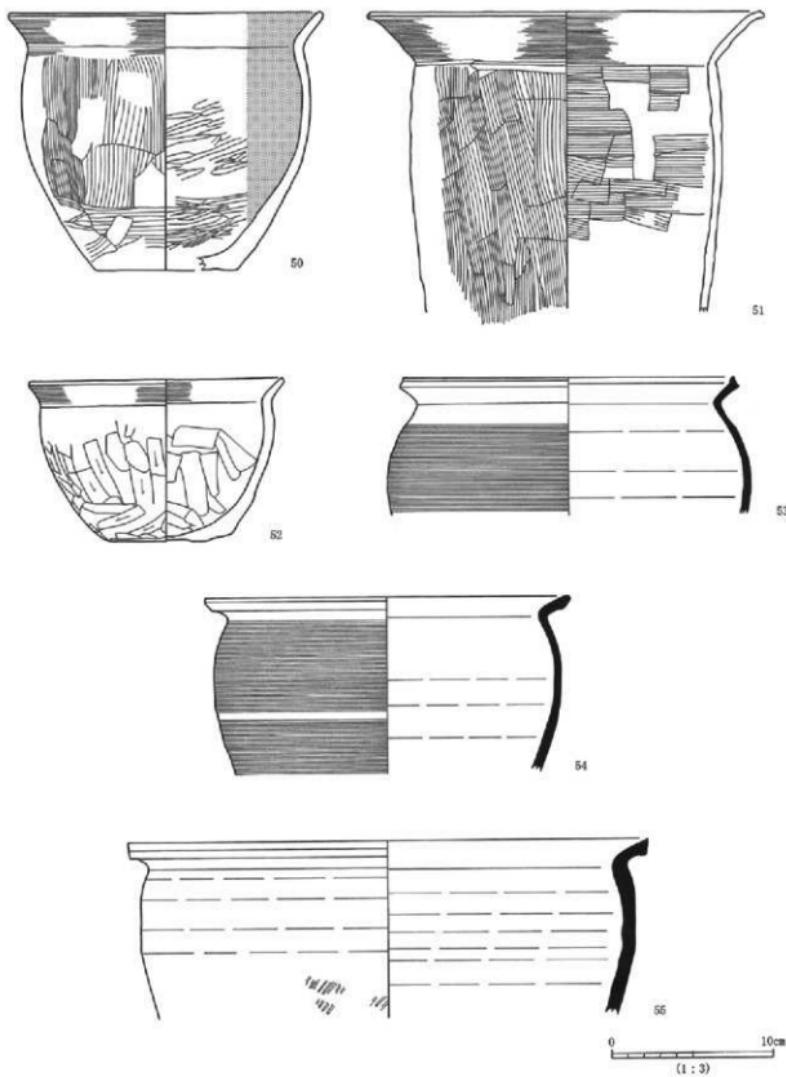
第154図 ST10003出土遺物(1)



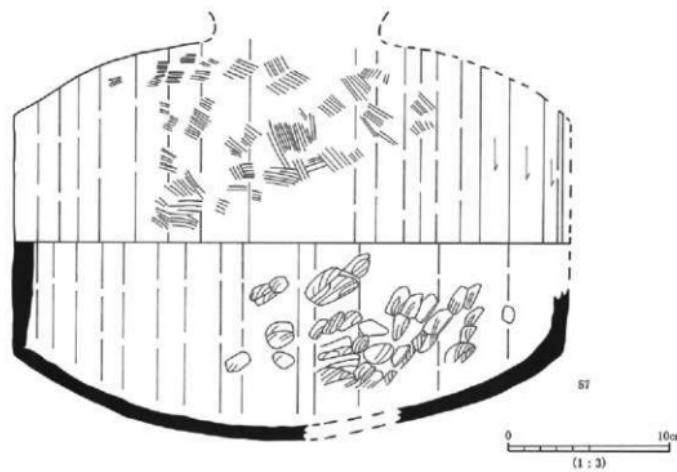
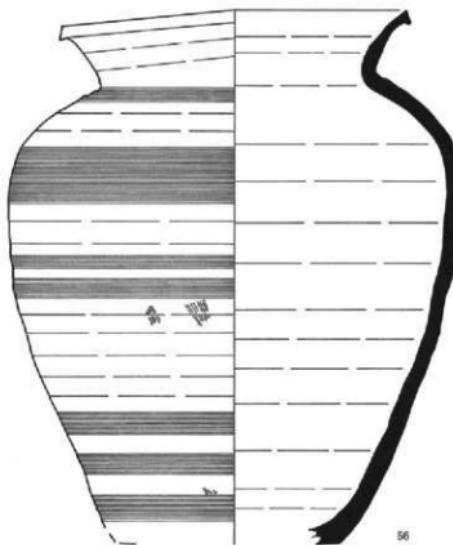
第155図 ST10003出土遺物(2)



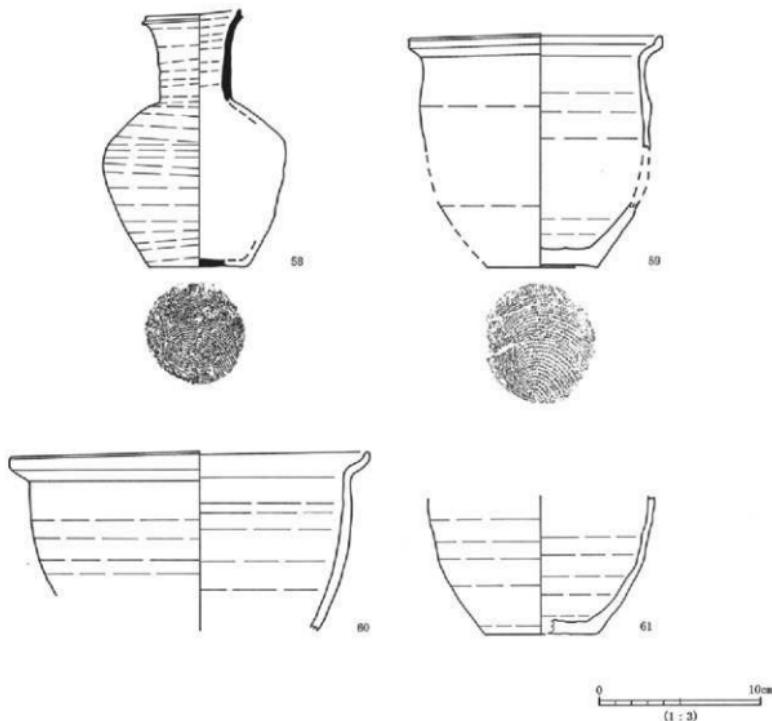
第156図 ST10003出土遺物(3)



第157図 ST10003出土遺物(4)



第158図 ST10003出土遺物(5)



第159図 ST10003出土遺物(6)

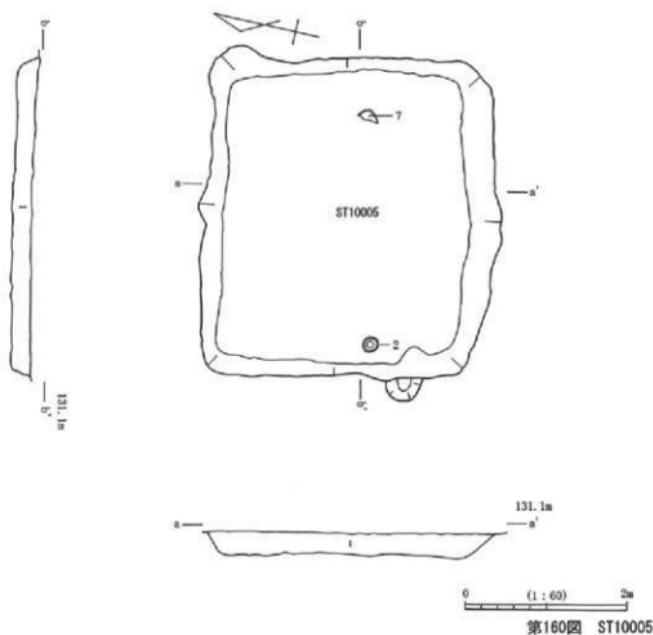
ST10004(第151~152図)

位 置 17-15~17-16グリッド。

規 模 長軸4.0m以上、検出面からの深さ18cm。

形 態 東側をST10003に、北側をSD10004に切られる。検出面からの深さが浅く、遺存状態は悪い。カマド、柱穴などは検出されなかった。

出土遺物 出土遺物はなく、年代が特定できなかった。



第160図 ST10005

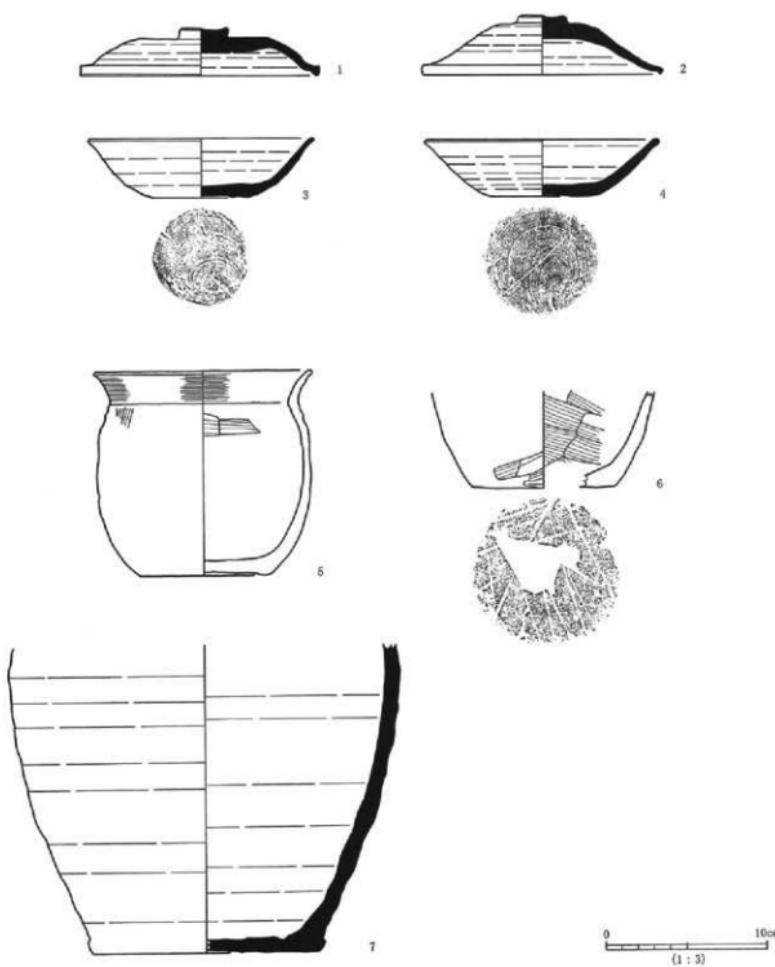
ST10005 (第160~161図)

位 置 17-15 グリッド。

規 模 長軸 3.90 m、短軸 3.69 m、検出面からの深さ 27 cm。

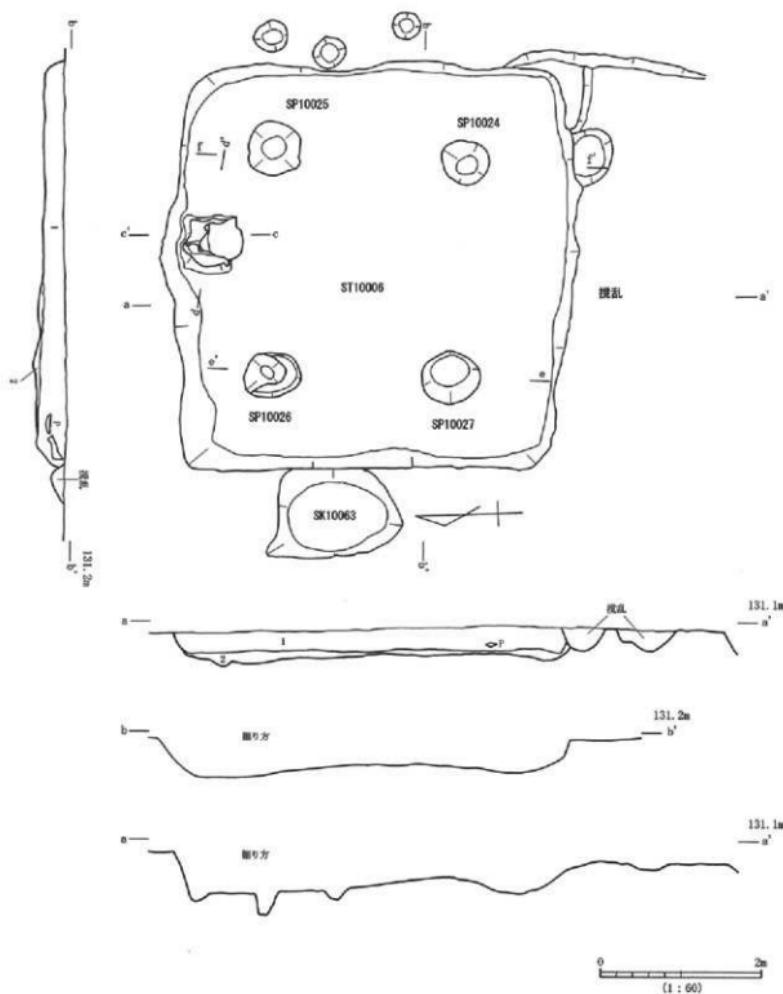
形 態 カマド、柱穴は検出されなかった。やや規模の小さい住居であるので、住居外柱穴である可能性がある。

出土遺物 須恵器蓋(1、2)・壺(3、4)・壺(7)、土師器壺(5、6)などが出土した。須恵器蓋は天井部が平坦なタイプ(1)と、器高がやや高く天井部が丸みを帯びるタイプ(2)がある。壺(3、4)はともに体部がハの字状に開きながら立ち上がり、回転糸切りのタイプである。年代は8世紀後半から9世紀初頭であると思われる。

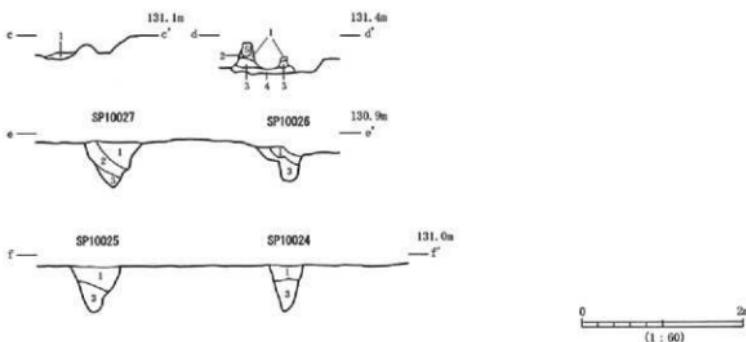


第161図 ST10005出土遺物

IV 検出された遺構と遺物



第162図 ST10006 (1)



第163図 ST10006(2)

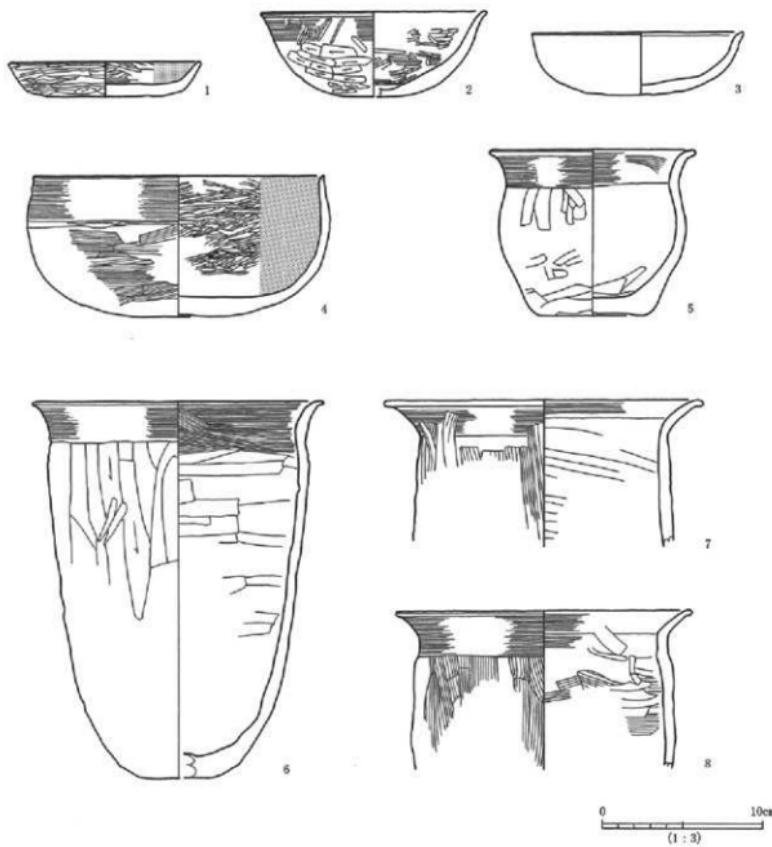
ST10006 (第162~166図)

位置 17-15グリッド。

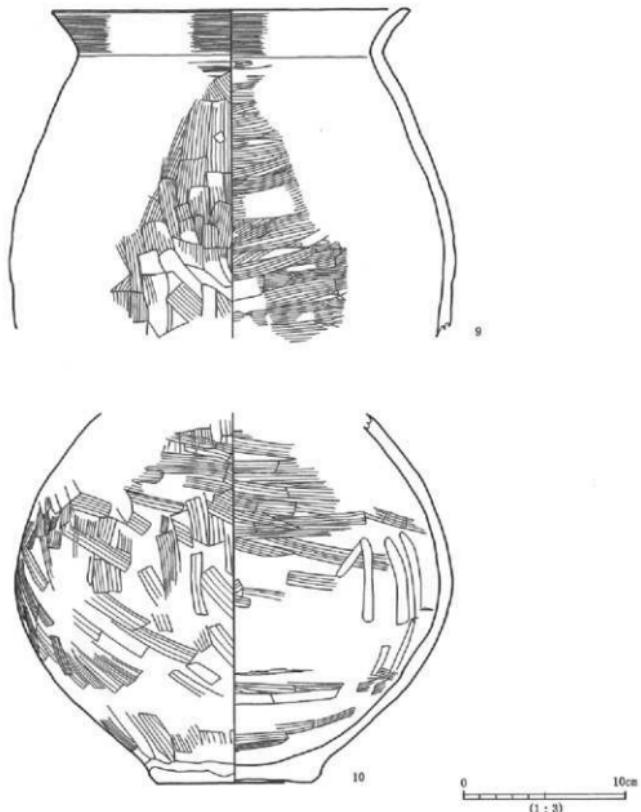
規模 長軸 5.14 m、短軸 4.90 m、検出面から床面までの深さ 23 cm、検出面から掘り方までの深さ 42 cm。

形態 南側を搅乱に切られる。2層が貼床で、ほぼ住居の全域で検出された。カマドは北壁のやや東よりの部分に付属し、ソデが検出された。主柱穴は SP10024、SP10025、SP10026、SP10027 の 4 基が検出された。

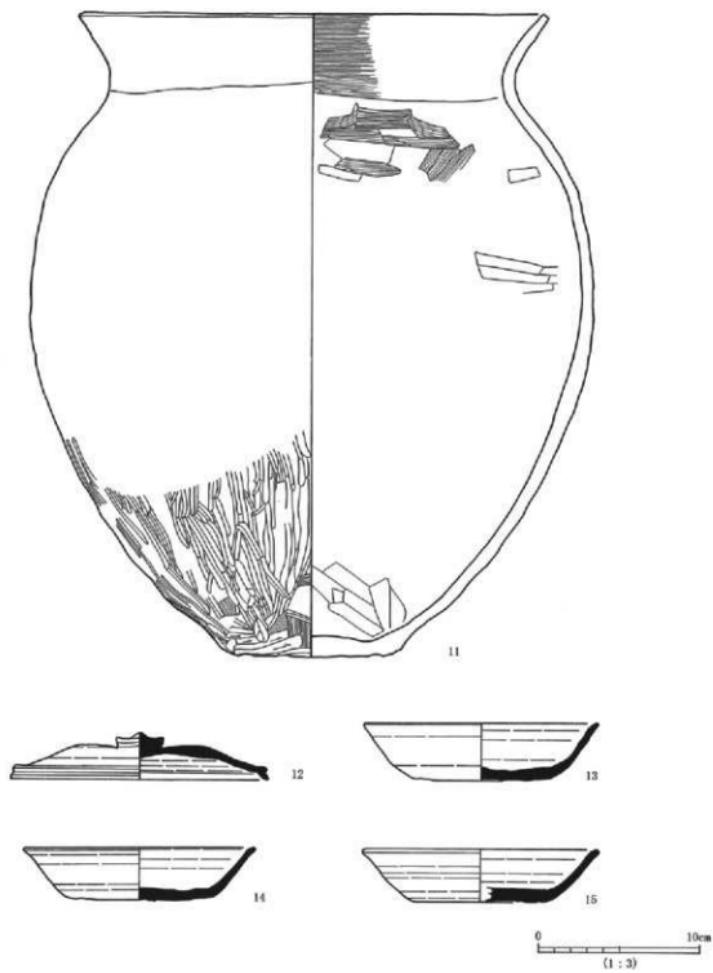
出土遺物 土師器壺 (1~3)・碗 (4)・甕 (5~11) などが出土した。須恵器蓋 (12)・壺 (13~15) は土師器類 (1~11) と明らかに年代が異なるが、住居を切る搅乱から出土したものを、取り上げる際に混同し、誤って ST10006 に登録してしまった資料であると思われる。土師器壺は平底で深さの浅い偏平なタイプ (1) と、丸底でやや深く口縁部がやや外反するタイプ (2)、丸底で浅く口縁部が直線的に立ち上がるタイプ (3) がある。甕は長胴形のタイプ (6~8) と、体部がやや丸みを帯びるタイプ (9~11) がある。年代は 7 世紀であると思われる。



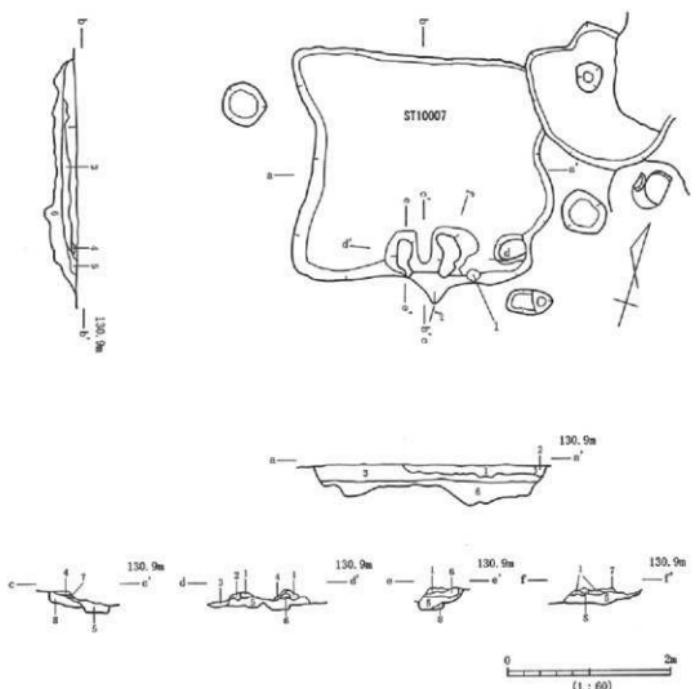
第164図 ST10006出土遺物(1)



第165図 ST10006出土遺物(2)



第166図 ST10006出土遺物(3)



第167図 ST10007

ST10007 (第167~168図)

位 置 16-16グリッド。

規 模 長軸 2.89 m、短軸 2.80 m、検出面から床面までの深さ 13 cm、検出面から掘り方までの深さ 29 cm。

形 態 6層が掘り方の覆土で、その上層との境が住居の床面である。カマドは南壁の中央に付属し、ソデが良好な状態で検出された。柱穴は検出されなかった。

出土遺物 須恵器壺(1)、土師器壺などが出土した。年代は8世紀後半から9世紀初頭であると思われる。

ST10008 (第169~170図)

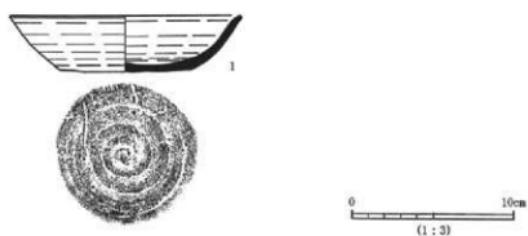
位 置 16-15~16-16グリッド。

規 模 長軸 4.56 m、短軸 4.54 m、検出面からの深さ 10 cm。

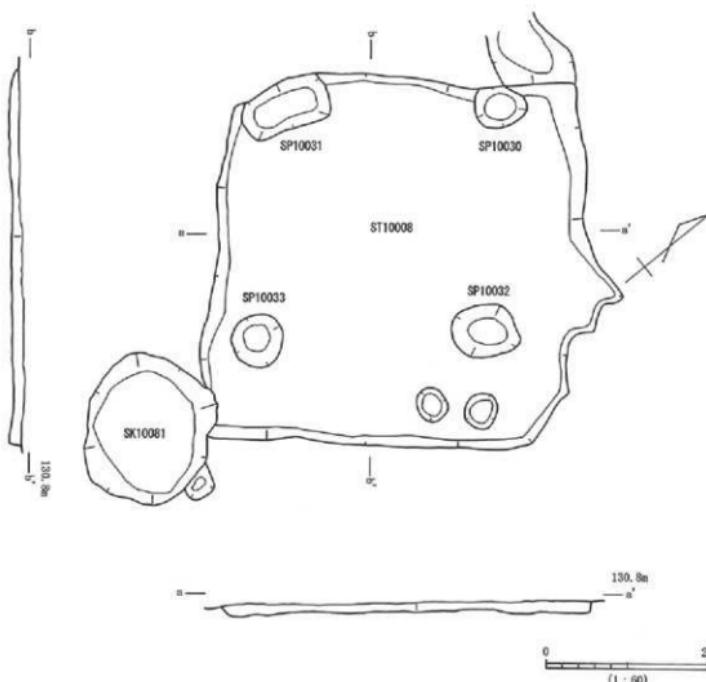
形 態 南隅をSK10081に切られる。カマドは検出されなかった。主柱穴はSP10030、SP10031、SP10032、SP10033の4基が検出された。

出土遺物 土師器壺(1)などが出土した。年代の判別はできなかった。

IV 検出された遺構と遺物



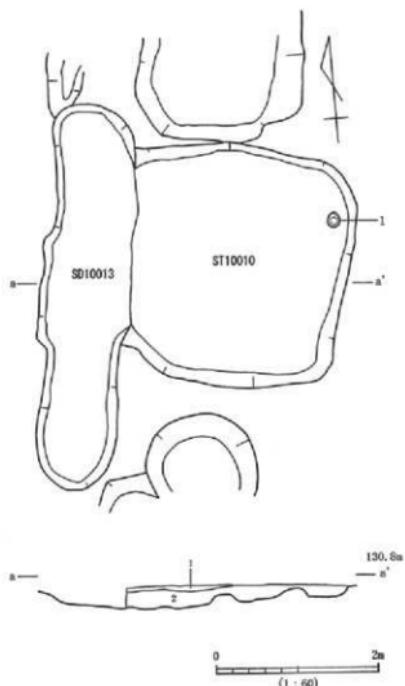
第168図 ST10007出土遺物



第169図 ST10008



第170図 ST10008出土遺物



第171図 ST10010



第172図 ST10010出土遺物

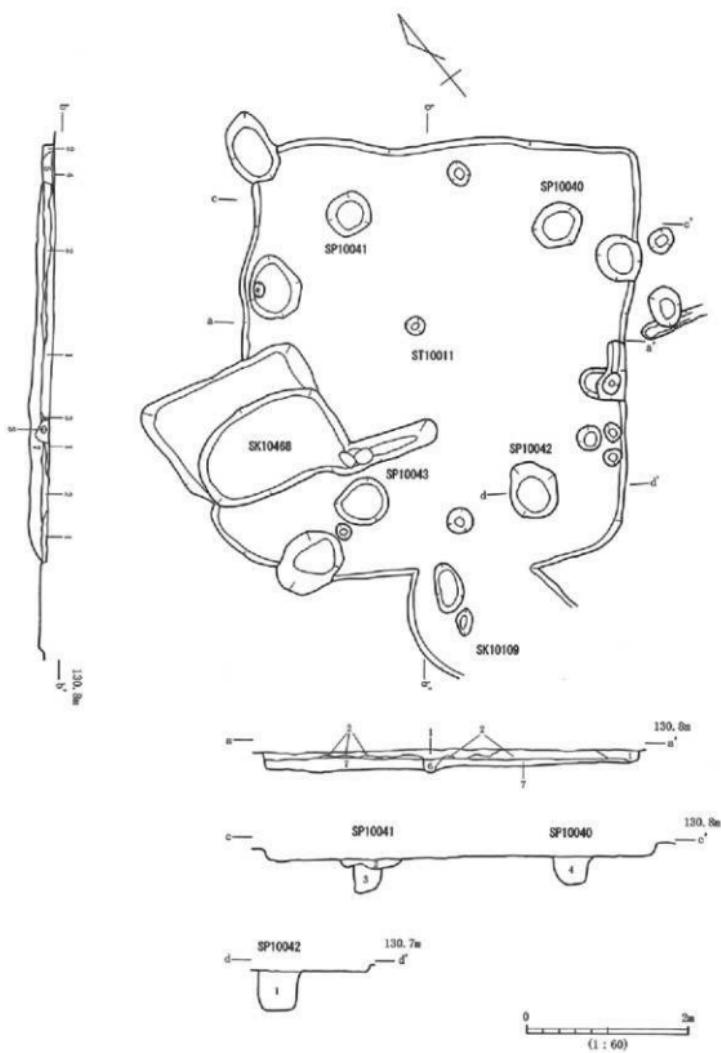
ST10010(第171~172図)

位 置 16-15グリッド。

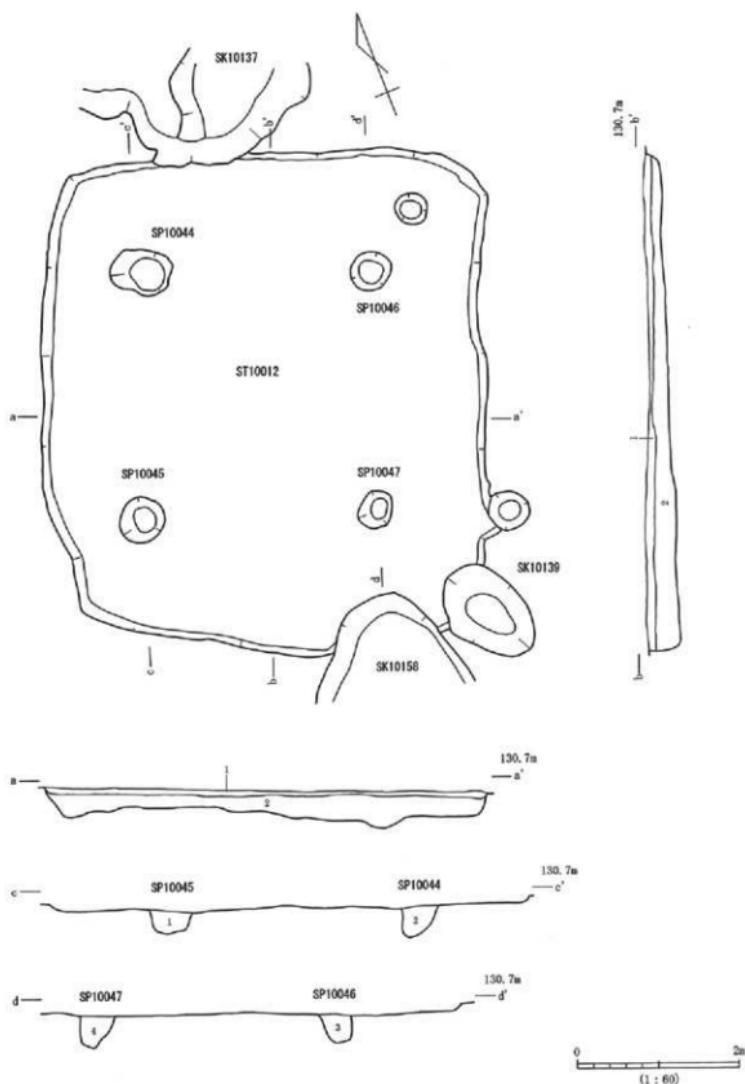
規 模 長軸2.94m、短軸2.88m、検出面からの深さ14cm。

形 態 西側をSD10013に切られる。カマド、柱穴は検出されなかった。

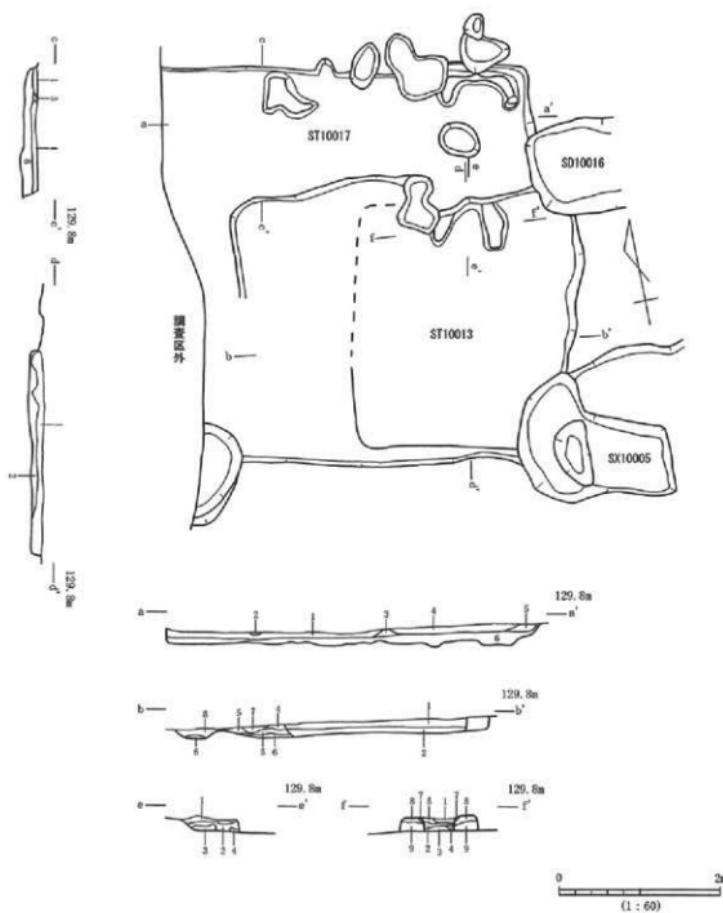
出土遺物 須恵器蓋(1)・壺(2)などが出土した。図化しなかったが、土師器甕の二重口縁壺など古墳時代の古い様相を示す遺物も出土しているが、須恵器壺(2)が住居床面で検出されているので、前者は混入である。住居の年代は8世紀後半から9世紀初頭であると思われる。



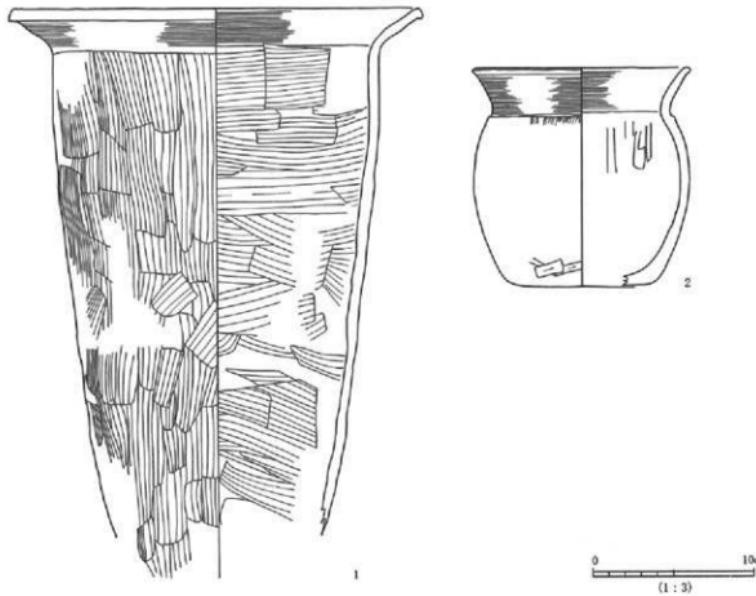
第173図 ST10011



第174図 ST10012



第175図 ST10013・ST10017



第176図 ST10013出土遺物



第177図 ST10017出土遺物

S T 1 0 0 1 1 (第 1 7 3 図)

位 置 15-16 ~ 16-17 グリッド。
規 模 長軸 5.22 m、短軸 4.72 m、検出面から床面までの深さ 10 cm、検出面から掘り方までの深さ 21 cm。
形 態 西側を SK10468 に、南側を SK10109 に切られる。7 層が掘り方の覆土で、その上層との境が住居の床面である。カマドは検出されなかった。主柱穴は SP10040、SP10041、SP10042、SP10043 の 4 基が検出された。
出土遺物 土師器甕が 1 破片のみ出土した。年代の判別はできなかった。

S T 1 0 0 1 2 (第 1 7 4 図)

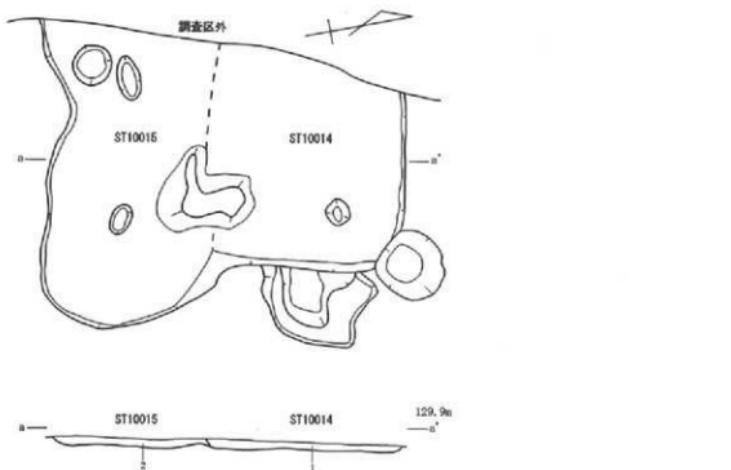
位 置 15-15 グリッド。
規 模 長軸 6.15 m、短軸 5.48 m、検出面から床面までの深さ 8 cm、検出面から掘り方までの深さ 30 cm。
形 態 南側を SK10158 に、北側を SK10137 に切られる。2 層が掘り方の覆土で、1 層との境が住居の床面である。カマドは検出されなかった。主柱穴は SP10044、SP10045、SP10046、SP10047 の 4 基が検出された。
出土遺物 須恵器甕や、混入と思われる繩文土器が出土した。年代の判別はできなかった。

S T 1 0 0 1 3 (第 1 7 5 ~ 1 7 6 図)

位 置 11-16 ~ 12-16 グリッド。
規 模 長軸 3.06 m、短軸 2.72 m、検出面からの深さ 20 cm。
形 態 南東隅を SX10005 に、北東隅を SD10016 に切られる。また、ST10017 を切る。カマドは北壁の中央に付属し、ソデが良好な状態で検出された。柱穴は検出されなかった。
出土遺物 土師器甕 (1, 2) などが出土した。甕は長胴形のタイプ (1) と小型のタイプ (2) がある。年代は 8 世紀後半から 9 世紀初頭であると思われる。

S T 1 0 0 1 7 (第 1 7 5, 1 7 7 図)

位 置 11-16 グリッド。
規 模 長軸 4.81 m、検出面から床面までの深さ 8 cm、検出面から掘り方までの深さ 12 cm。
形 態 西側が調査区外にかかり、南東側を ST10013 に、東側を SD10016 に切られる。6 層が掘り方の覆土で、その上層との境が住居の床面である。北壁付近で、カマドの構築材と思われる粘土が所々で検出されたが、ソデなどは確認できず、カマドの位置は特定できなかった。柱穴は検出されなかった。
出土遺物 土師器高壺 (1)・甕などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は 6 ~ 7 世紀であると思われる。



第178図 ST10014・ST10015



第179図 ST10014出土遺物

ST10014 (第178~179図)

位 置 11-17グリッド。

規 模 長軸2.66m以上、検出面からの深さ10cm。

形 態 西側が調査区外にかかる。また、ST10015を切る。カマド、柱穴は検出されなかった。

出土遺物 須恵器壺(1)、土師器甕(2)などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は8世紀後半から9世紀初頭であると思われる。

ST10015 (第178図)

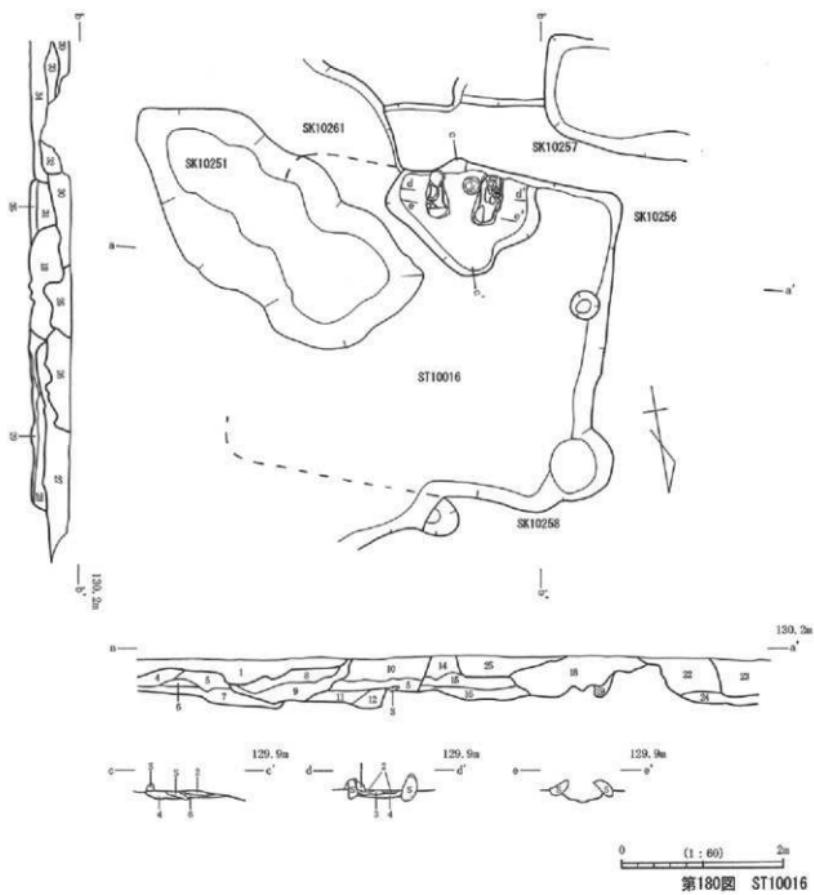
位 置 11-17グリッド。

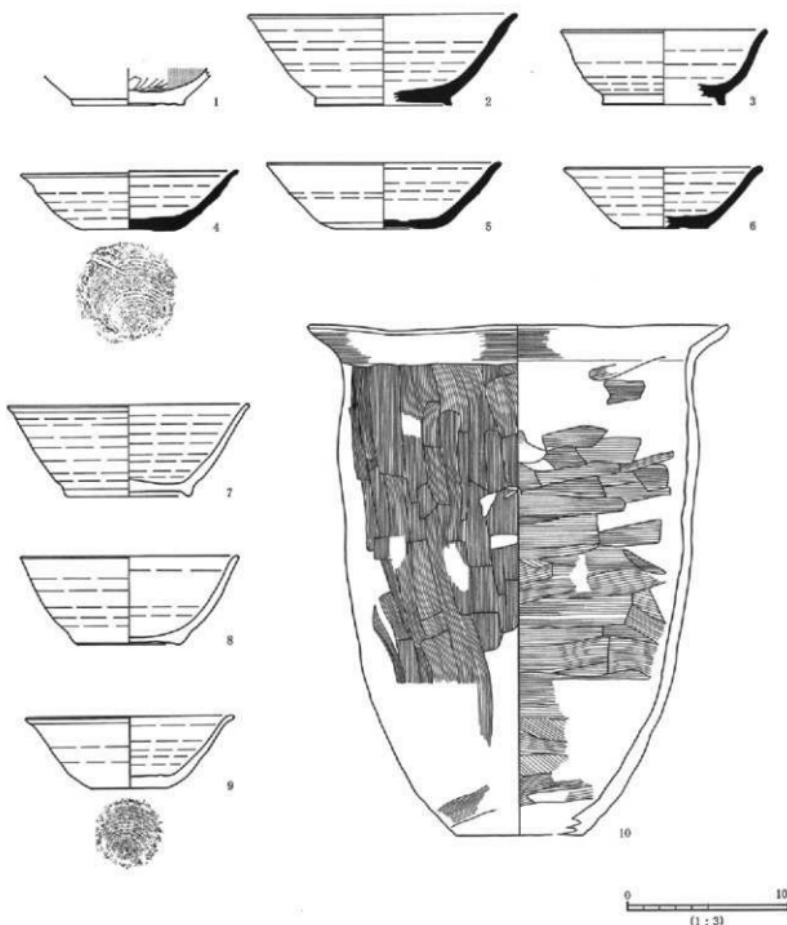
規 模 長軸3.06m、検出面からの深さ10cm。

形 態 西側が調査区外にかかり、北側がST10014に切られる。検出面からの深さが浅く、壁面は明瞭でない。カマド、柱穴は検出されなかった。

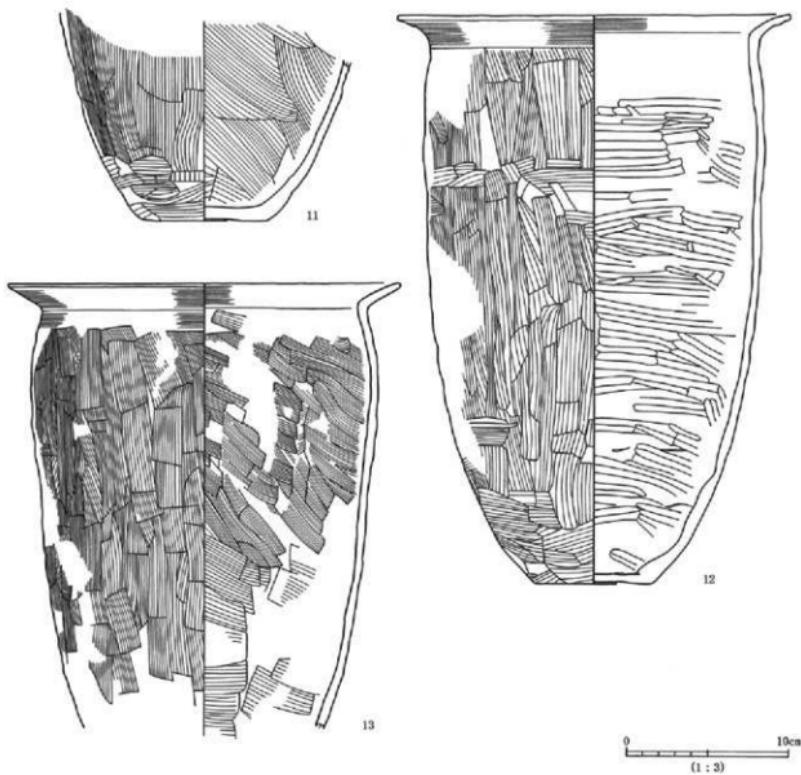
出土遺物 土師器甕1点のみ出土した。年代の判別はできなかった。

IV 検出された遺構と遺物

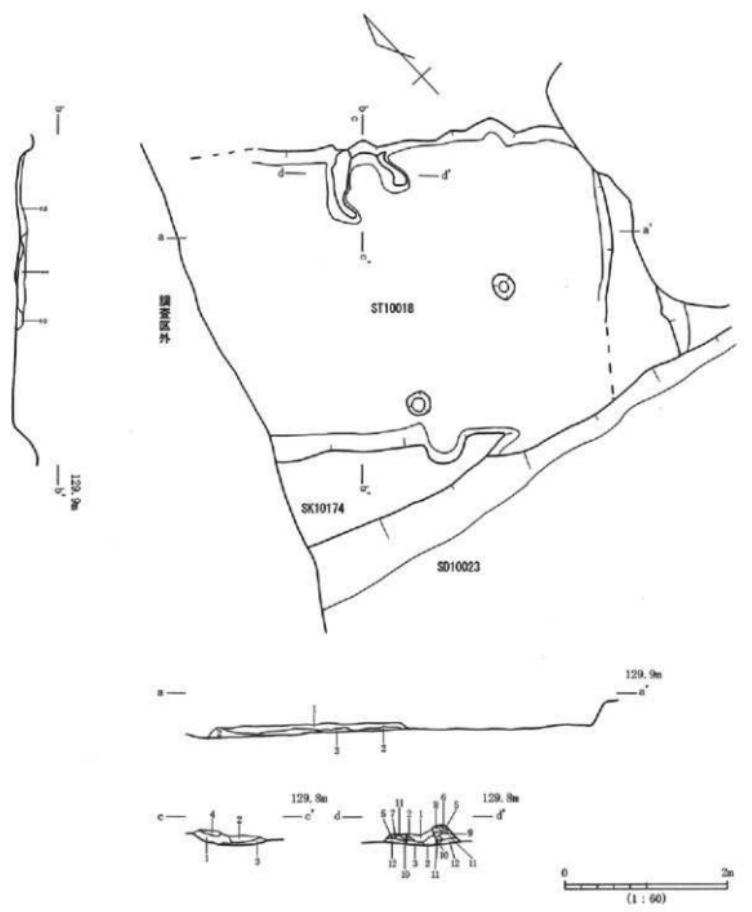




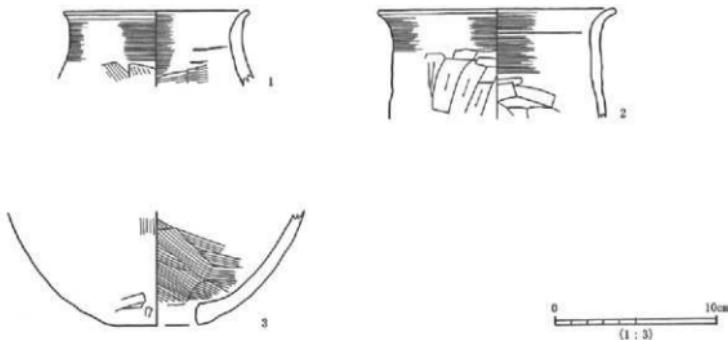
第181図 ST10016出土遺物(1)



第182図 ST10016出土遺物(2)



第183図 ST10018



第184図 ST10018出土遺物

ST10016 (第180~182図)

位置 12-15グリッド。

規模 長軸4.40m、短軸4.06m、検出面からの深さ50cm。

形態 東側をSK10251に、南側をSK10257、SK10261に、西側をSK10256に、北側をSK10258に切られる。カマドは南壁の中央に付属し、ソデが良好な状態で検出された。ソデの先端は縫で補強されている。柱穴は検出されなかった。

出土遺物 土師器有台壺(1)・甕(10~13)、須恵器有台壺(2、3)・壺(4~6)、赤焼有台壺(7)・壺(8、9)などが出土した。壺類は土師器、赤焼、須恵器を問わず、底部の切離しはすべて回転糸切りである。須恵器有台壺は口径が大きく深いタイプ(2)と、口径が小さくやや浅いタイプ(3)がある。壺は体部がなだらかに立ち上がり浅いタイプ(4~6)である。赤焼有台壺(7)は、須恵器有台壺の口径が大きく深いタイプ(2)に形態が類似する。土師器甕はすべて長胴形のタイプだが、調整は内外面ハケメ調整のタイプ(10、11、13)と、外側がハケメで内側がミガキ調整のタイプ(12)がある。年代は9世紀半ばから後半であると思われる。

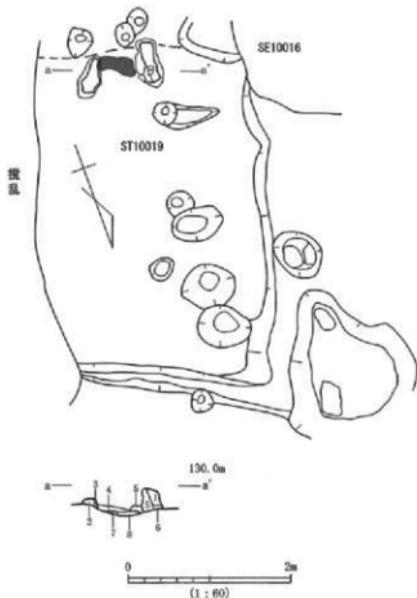
ST10018 (第183~184図)

位置 11-16~12-16グリッド。

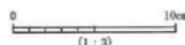
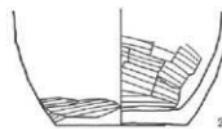
規模 長軸5.10m以上、短軸3.81m、検出面からの深さ15cm。

形態 西側が調査区外にかかり、南側がSD10023に切られる。カマドは北壁に付属し、ソデが良好な状態で検出された。柱穴は検出されなかった。

出土遺物 土師器甕(1、2)・瓶(3)などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は古墳時代であると思われるが、細分はできなかった。



第185図 ST10019



第186図 ST10019出土遺物

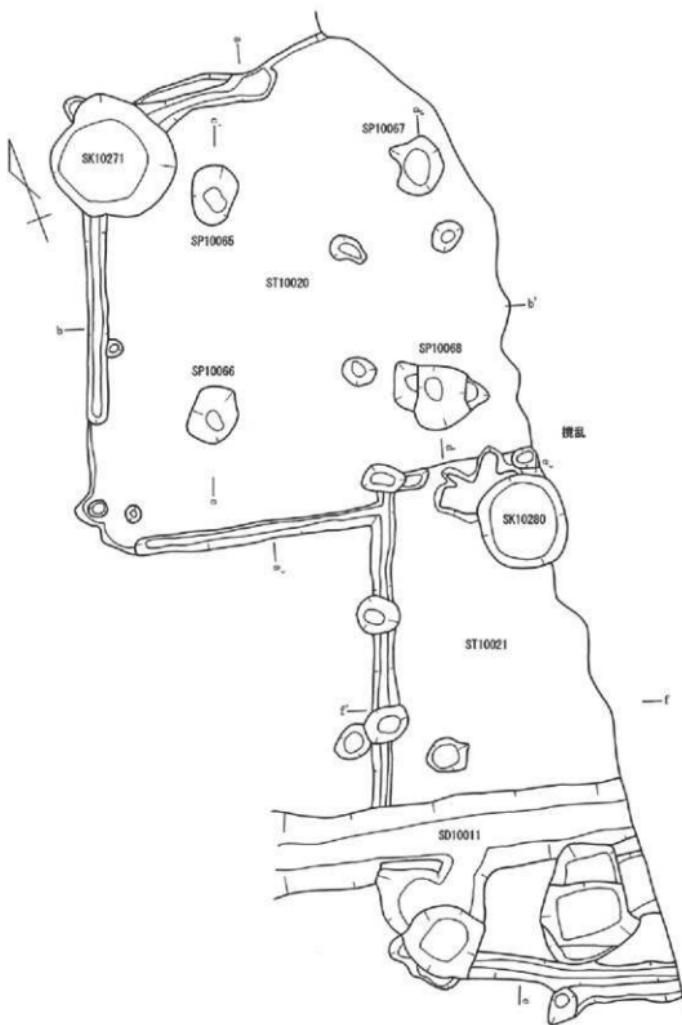
ST10019(第185~186図)

位 置 12-16グリッド。

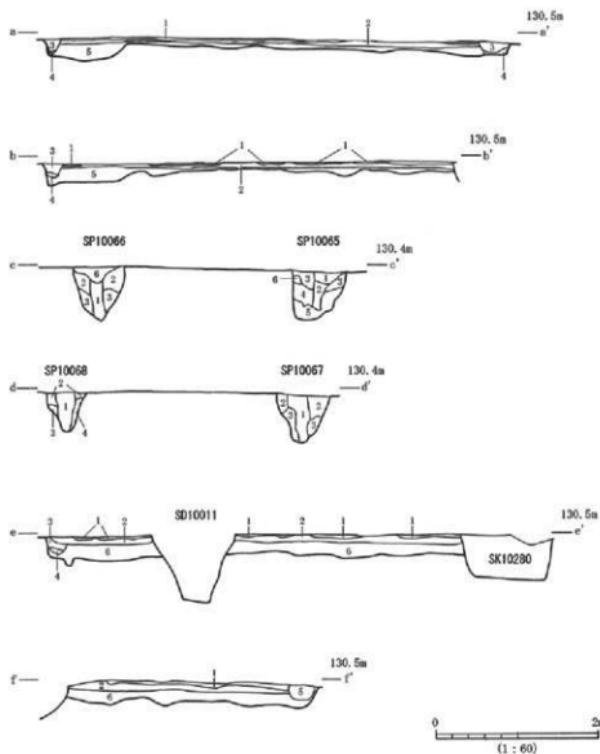
規 模 長軸4.10m、検出面からの深さ10cm。

形 態 東側が搅乱に、南西隅がSE10016に切られる。検出面からの深さが浅く、近世以降の遺構から切られており、西壁は検出できなかった。カマドは南壁に付属し、ソデが検出され、ソデの間に焼土が広がりるのが確認された。周溝は北壁でのみ検出された。柱穴は複数検出されたが、主柱穴がどのように組み合わせられるのかは判明しなかった。

出土遺物 須恵器壺(1)、土師器壺(2)などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は8世紀後半から9世紀初頭であると思われる。



第187図 ST10020・ST1021(I)



第188図 ST10020・ST10021(3)

S T 1 0 0 2 0 (第187~189図)

位 置 14-16グリッド。

規 模 長軸6.05m、検出面から床面までの深さ7cm、検出面から掘り方までの深さ19cm。

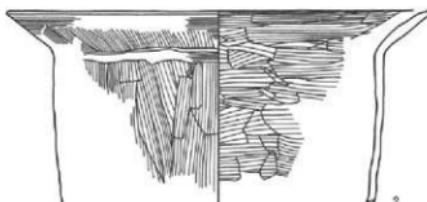
形 態 東側が搅乱に、北西隅がSK10271に、南側がST10021に切られる。2層が貼床でほぼ住居の全域で検出された。5層が掘り方の覆土である。カマドは検出されなかった。周溝は、南壁と、西壁の北半から北壁の西半にかけて検出された。主柱穴はSP10065、SP10066、SP10067、SP10068の4基が検出された。

出土遺物 須恵器壺(1)・有台壺(2, 3)、土師器甕などが出土した。壺(1)は回転糸切りで、外面下部に手持ちヘラケヅリが施される。有台壺(2, 3)はともに回転糸切りがなされたのち、高台が貼り付けられる。年代は8世紀後半から9世紀初頭であると思われる。



0 10cm
(1 : 3)

第189図 ST10020出土遺物



0 10cm
(1 : 3)

第190図 ST10021出土遺物

ST10021(第187~188、190図)

位置 14-16 ~ 14-17 グリッド。

規模 長軸 6.54 m。検出面から床面までの深さ 9 cm、検出面から掘り方までの深さ 26 cm。

形態 東側が搅乱に、北側が SK10280 に、南側が SD10011 に切られる。また、ST10020 を切る。6 層が掘り方の覆土で、その上層との境が住居の床面である。カマドは北壁の西よりの部分に付属するが、カマドの構築材と思われる粘土が破壊されたような状態で検出され、遺存状況は良くなかった。周溝が、西壁から南壁にかけて検出された。柱穴は検出されなかった。

出土遺物 赤焼坏(1)、土師器壺(2)などが出土した。赤焼坏(1)は底部回転糸切り離しのち、外面下部に手持ちヘラケズリが施される。年代は 9 世紀前半から半ばであると思われる。

(2) 堀立柱建物

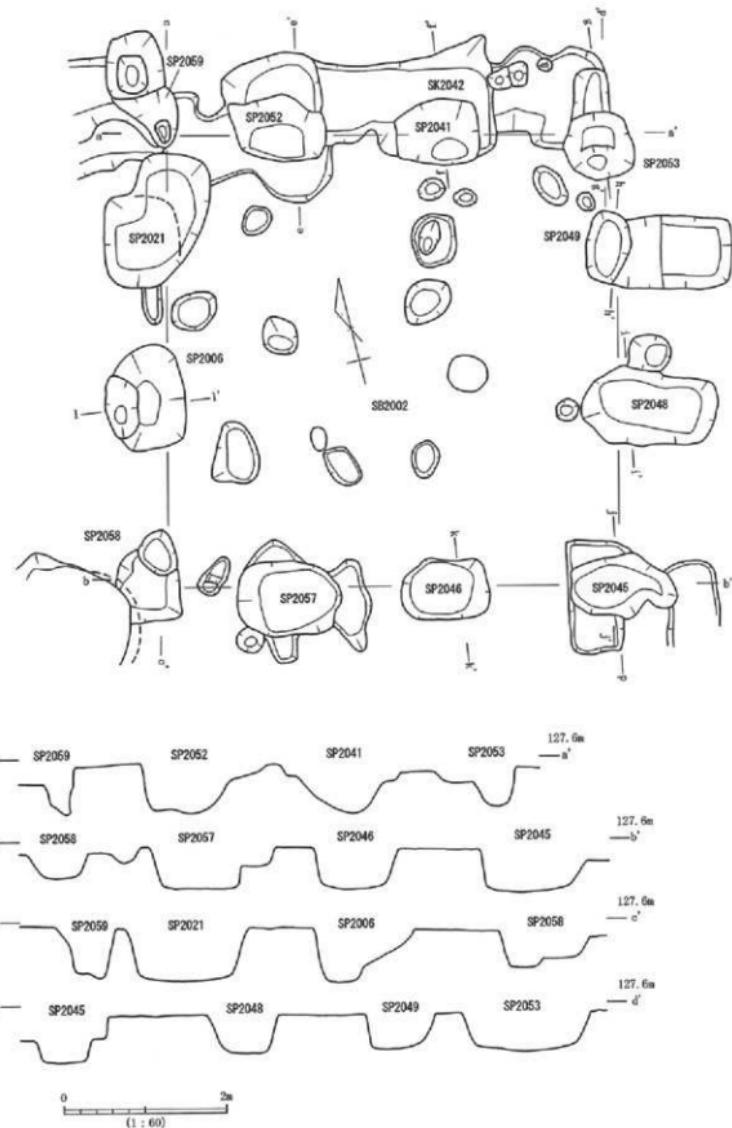
SB2002(第191~193図)

位置 2-20 グリッド。

規模 梁行 5.5 m、桁行 5.5 m。3間×3間。

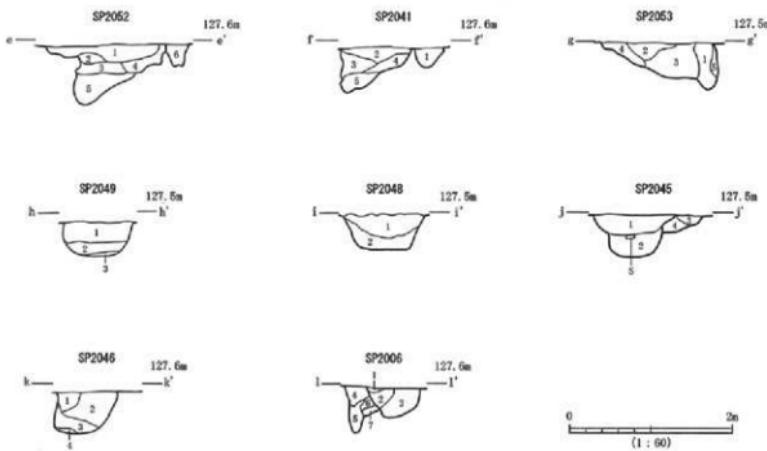
形態 主軸方向は N-13°-E を測る。柱穴は後世の遺構に切られているものが多いが、ほぼ隅丸方形を呈する。検出面からの深さは 45 ~ 60 cm を測る。

出土遺物 年代の判明する遺物は、SP2057 から出土した須恵器坏(1)と赤焼坏(2, 3)がある。3 点とも回転糸切りである。年代は 9 世紀前半から半ばころであると思われる。

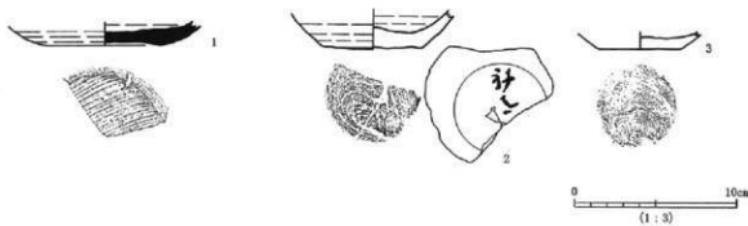


第191図 SB2002(1)

IV 検出された遺構と遺物



第192図 SB2002(2)



第193図 SB2002(3)

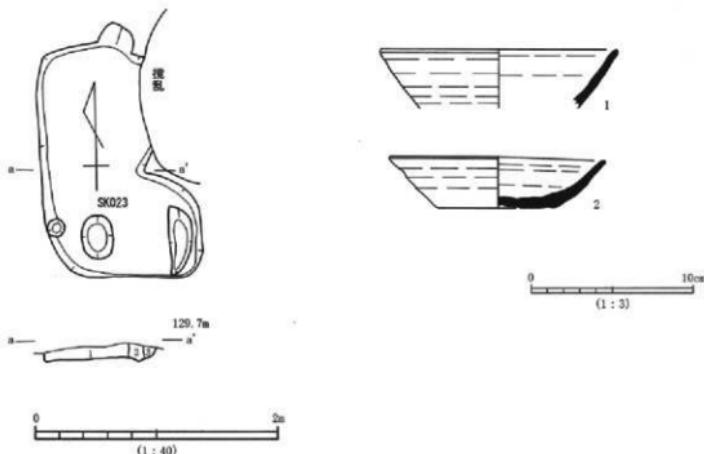
(3) 土坑

SK023 (第194図)

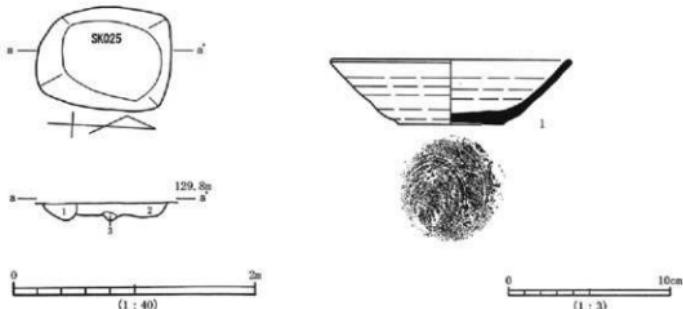
位置 12-22 グリッド。

規模形態 長軸 1.93 m、短軸 0.88 m、検出面からの深さ 10 cm を測る。平面形態はやや崩れた方形を呈する。底面はほぼ平坦で、壁面は垂直に立ち上がる。

出土遺物 須恵器壺(1、2)、土師器甕、赤焼甕などが出土地した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものは少ない。年代は9世紀前半から半ばであると思われる。



第194図 SK023



第195図 SK025

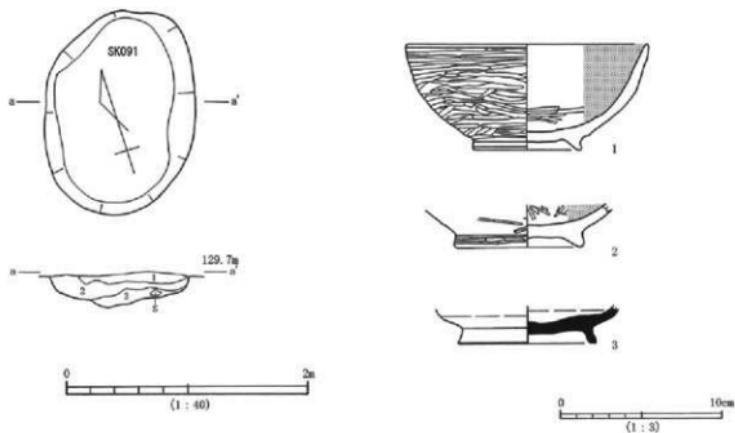
IV 検出された遺構と遺物

SK025 (第195図)

位置 12-21 グリッド。

規模形態 長軸 1.10 m、短軸 0.84 m、検出面からの深さ 10 cm を測る。平面形態は隅丸方形を呈する。底面はほぼ平坦で、壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 須恵器壺 (1)、土師器甕などが出土した。須恵器壺 (1) は外面が直線的にハの字状に立ち上がり、回転糸切りである。図化しなかったが、出土した土師器甕は内外面ハケメ調整が施される。年代は 9 世紀前半頃であると思われる。



第196図 SK091

SK091 (第196図)

位置 11-19 グリッド。

規模形態 長軸 1.69 m、短軸 1.23 m、検出面からの深さ 27 cm を測る。平面形態は梢円形を呈する。底面は緩やかな丸みを帯び、壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 土師器有台壺 (1, 2)、須恵器有台壺 (3) などが出土地。土師器有台壺 (1) は、内外面ミガキが施され、内面はさらに黒色処理される。年代は 9 世紀後半であると思われる。

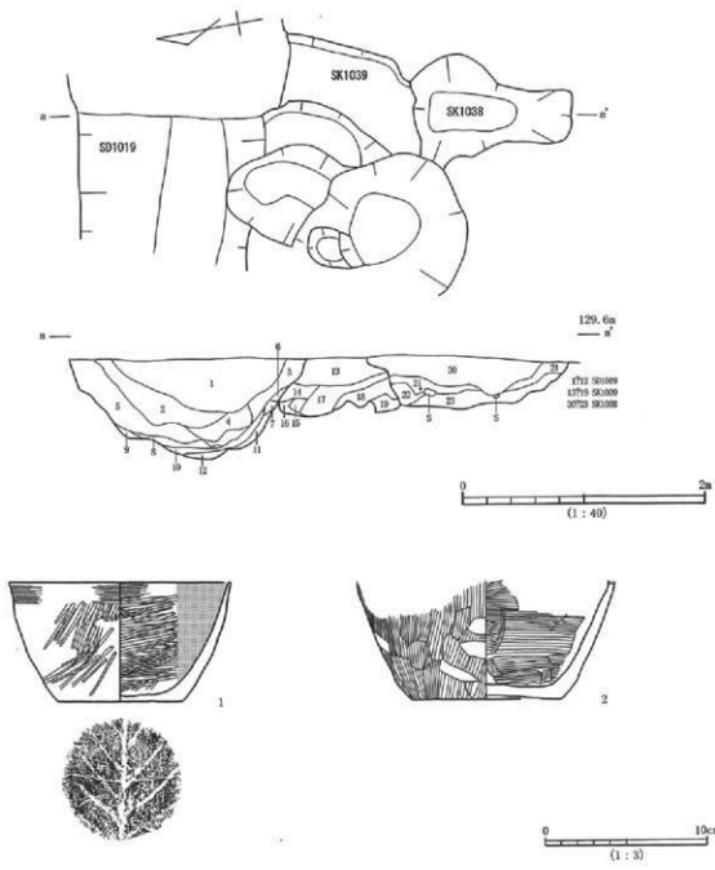
SK1038 (第197図)

位置 11-12 グリッド。

規模形態 長軸 1.29 m、短軸 0.80 m、検出面からの深さ 43 cm を測る。SK1039 を切る。平面形態はやや崩れた長方形を呈する。底面は平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。

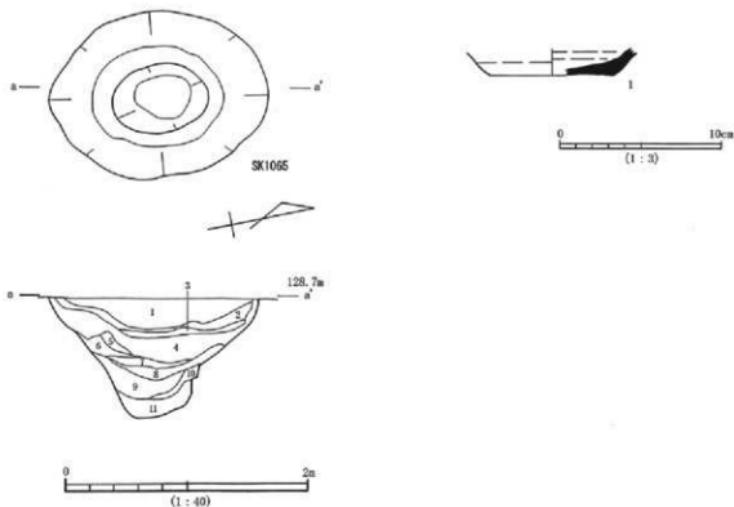
出土遺物 土師器壺 (1)・甕 (2)、須恵器甕などが出土している。土師器壺 (1) は平底で、内外面にミガキが施され、さらに内面は黒色処理される。年代は 8 世紀後半であると思われる。

IV 検出された遺構と遺物

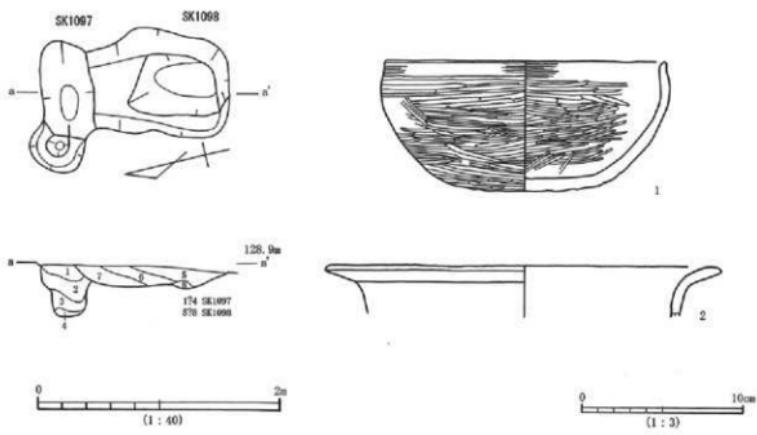


第197図 SK1038

IV 検出された遺構と遺物



第198図 SK1065



第199図 SK1068

SK1065 (第198図)

位置 8-11 グリッド。

規模形態 長軸 1.80 m、短軸 1.36 m、検出面からの深さ 98 cm を測る。平面形態は梢円形を呈する。断面形態は台形を呈する。土坑で登録したが、井戸である可能性がある。

出土遺物 須恵器壺 (1)、土師器甕などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。

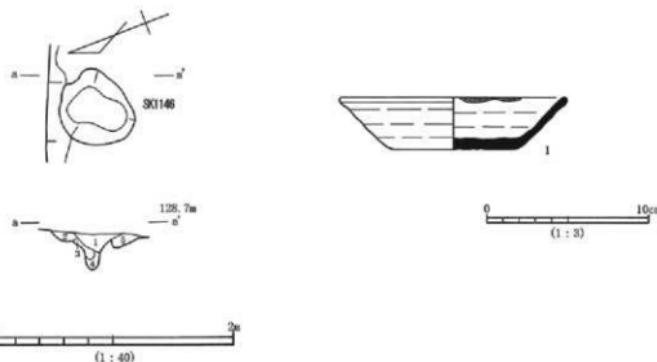
年代は 9 世紀前半頃であると思われる。

SK1098 (第199図)

位置 9-12 グリッド。

規模形態 長軸 1.54 m、短軸 0.86 m、検出面からの深さ 18 cm を測る。SK1097 を切る。平面形態はやや崩れた隅丸方形を呈する。底面はやや起伏を帯び、壁面は緩やかに立ち上がる。

出土遺物 土師器鉢 (1)・甕 (2) などが出土した。土師器鉢 (1) は平底に近い丸底で、内外面にミガキが施される。年代は 8 世紀後半頃であると思われる。



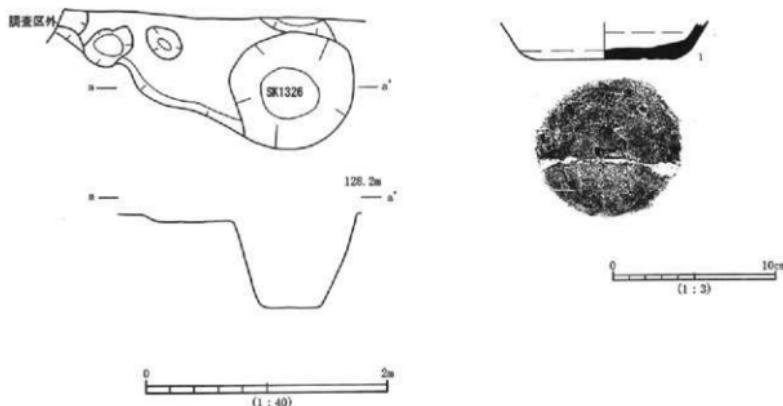
第200図 SK1146

SK1146 (第200図)

位置 8-12 グリッド。

規模形態 長軸 0.61 m、短軸 0.56 m、検出面からの深さ 30 cm を測る。平面形態はやや崩れた円形を呈する。底面は南側が深く北側が浅くなっている、壁面は緩やかに立ち上がる。

出土遺物 須恵器壺 (1)、土師器甕などが出土した。須恵器壺 (1) は外側が直線的にハの字状に立ち上がり、回転ヘラ切りである。年代は 9 世紀前半頃であると思われる。



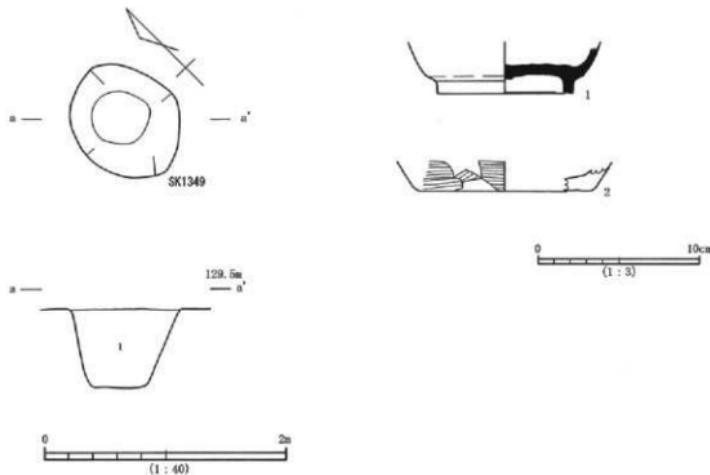
第201図 SK1326

SK1326 (第201図)

位置 6-12グリッド。

規模形態 長軸 1.10 m、短軸 0.99 m、検出面からの深さ 79 cmを測る。平面形態は円形を呈する。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 須恵器壺(1)、土師器壺などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は8世紀後半頃であると思われる。



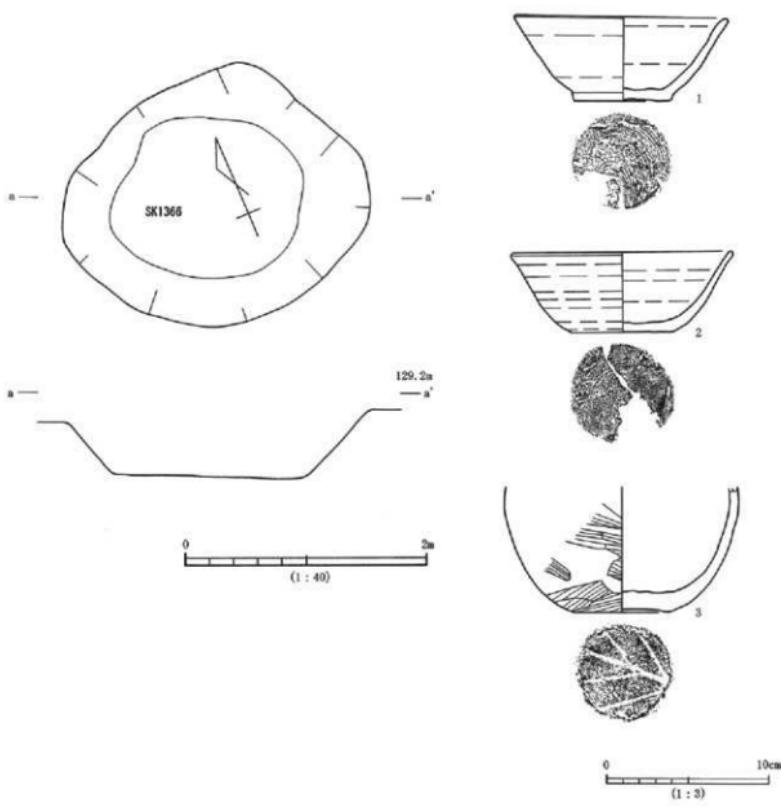
第202図 SK1349

SK1349 (第202図)

位置 11-16グリッド。

規模形態 長軸 1.02 m、短軸 0.85 m、検出面からの深さ 70 cmを測る。平面形態は橢円形を呈する。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 須恵器有台壺 (1)、土師器甕 (2) などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は8世紀後半から9世紀前半であると思われる。



第203図 SK1366

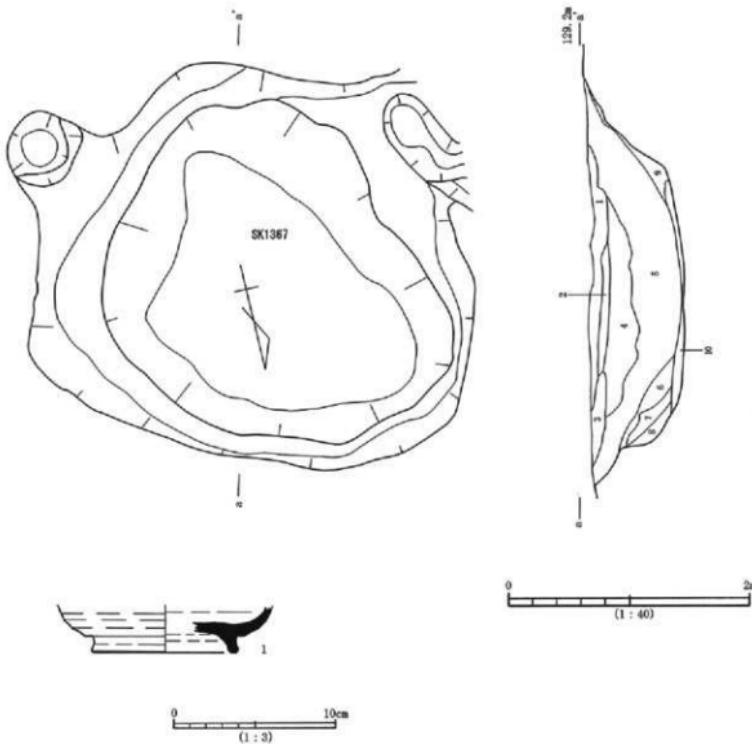
IV 検出された遺構と遺物

SK1366 (第203図)

位 置 10-15グリッド。

規模形態 長軸2.54m、短軸2.10m、検出面からの深さ52cmを測る。平面形態はやや崩れた橢円形を呈する。底面は平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。

出土遺物 赤焼壺(1)、2)、土師器壺(3)、須恵器壺・甕などが出土した。赤焼壺は外面と底部の境界に屈曲部を持ち、底部が高台状に作られるタイプ(1)と、外面がなだらかに立ち上がるタイプ(2)がある。年代は9世紀半ばであると思われる。



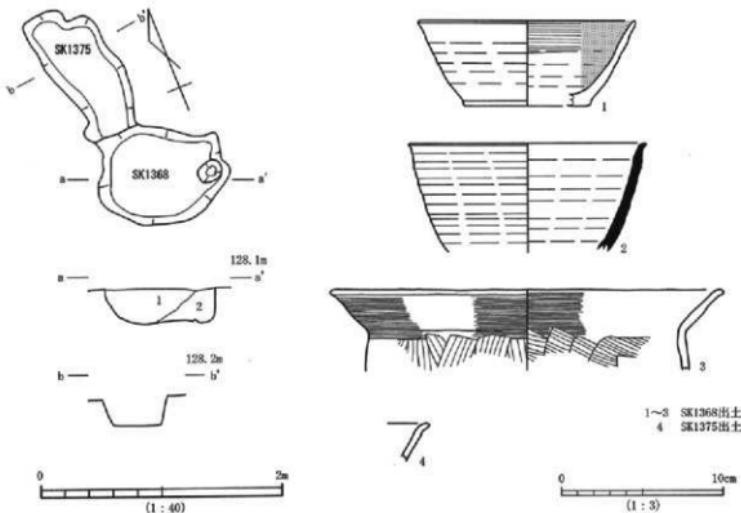
第204図 SK1367

SK1367 (第204図)

位置 9-16 グリッド。

規模形態 長軸 3.60 m、短軸 3.26 m、検出面からの深さ 77 cm を測る。平面形態は崩れた橢円形を呈する。底面は平坦で、壁面は、平坦面を一段作り急に立ち上がる。

出土遺物 須恵器有台坏 (1)・蓋などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は8世紀後半から9世紀前半であると思われる。



第205図 SK1368・SK1375

SK1368 (第205図)

位置 3-17 グリッド。

規模形態 長軸 1.04 m、短軸 0.77 m、検出面からの深さ 27 cm を測る。平面形態はやや崩れた方形を呈する。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。

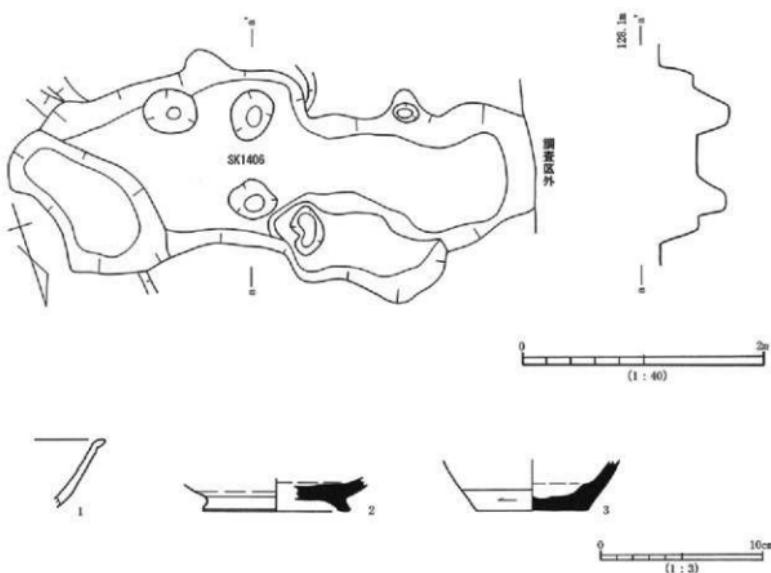
出土遺物 土師器坏 (1)・甕 (3)、須恵器坏 (2) などが出土した。土師器坏 (1) はロクロ成形で内面は回転ミガキが施された後、黒色処理されている。年代は9世紀半ばから後半であると思われる。

SK1375 (第205図)

位置 3-17 グリッド。

規模形態 長軸 1.30 m、短軸 0.51 m、検出面からの深さ 22 cm を測る。平面形態は南北に伸びる構状の形態を呈する。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 灰陶陶器碗 (4)、土師器甕などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は9世紀半ばであると思われる。



第206図 SK1406

SK1406 (第206図)

位置 3-16 グリッド。

規模形態 長軸 4.32 m、短軸 1.42 m、検出面からの深さ 28 cm を測る。平面形態は、東西に伸びる溝状の形態を呈する。西端が調査区外にかかる。底面はやや起伏を帯び、壁面は急に立ち上がる。

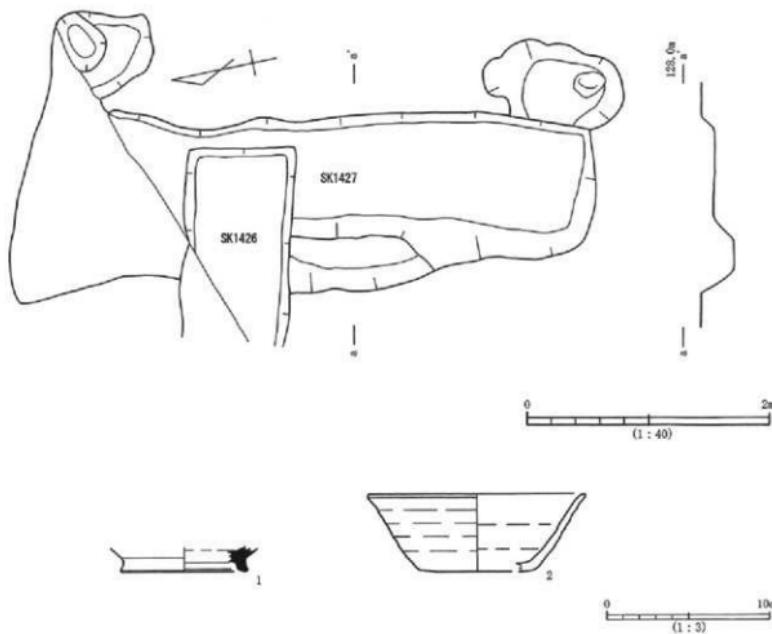
出土遺物 灰釉陶器碗 (1)、須恵器有台坏 (2)・壺 (3) などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は 9 世紀半ばから後半であると思われる。

SK1427 (第207図)

位置 4-15 グリッド。

規模形態 長軸 4.70 m、短軸 1.44 m、検出面からの深さ 30 cm の測る。平面形態は、南北に伸びる溝状の形態を呈する。SK1426 に切られる。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。調査期間の関係で完掘することができなかった。

出土遺物 須恵器有台坏 (1)・壺、赤焼坏 (2)、土師器壺などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は 9 世紀半ば頃であると思われる。



第207図 SK1427

SK1483（第208図）

位 置 6-13グリッド。

規模形態 長軸 2.16 m、短軸 1.89 m、検出面からの深さ 10 cmを測る。平面形態は崩れた方形を呈する。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。

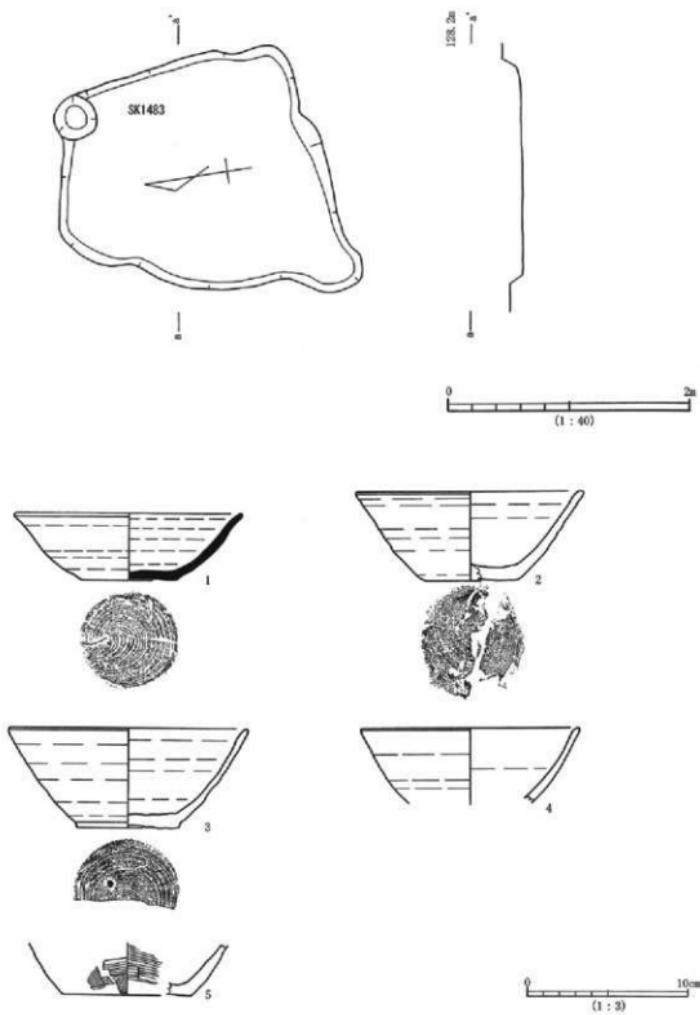
出土遺物 須恵器壺（1）、赤焼壺（2～4）、土師器甕（5）などが出土している。須恵器壺（1）は外面が緩やかに内湾しながら立ち上がり口縁部は外反し、底部切離しは回転糸切りである。赤焼壺（2～4）は須恵器壺（1）よりやや深く、底部切離しは回転糸切りである（2、3）。年代は9世紀半ばであると思われる。

SK1490（第209図）

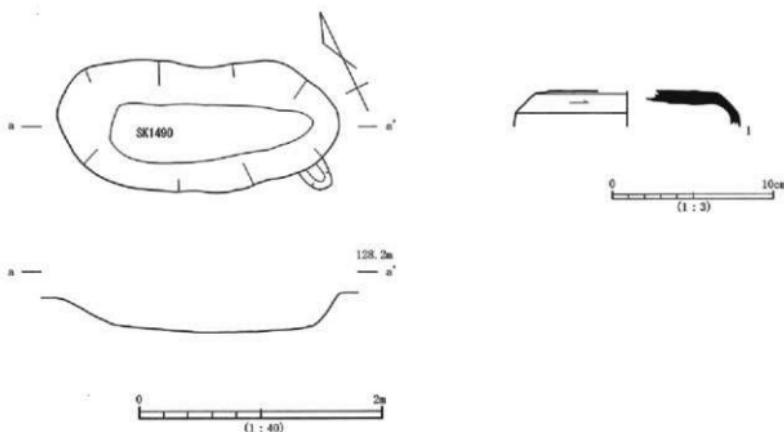
位 置 6-15グリッド。

規模形態 長軸 2.31 m、短軸 1.01 m、検出面からの深さ 28 cmを測る。平面形態は橢円形を呈する。底面は平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。

出土遺物 須恵器蓋（1）・有台壺の各 1 点のみ出土した。須恵器蓋（1）は破片資料だが、天井部が平坦で外面は回転ケズリが施され、口縁部に向かって垂直に成形されるので高さがあると思われる。年代は8世紀頃であると思われる。



第208図 SK1483



第209図 SK1490

SK2142(第210図)

位 置 3-18 グリッド。

規模形態 長軸 3.40 m、短軸 2.46 m、検出面からの深さ 45 cm を測る。平面形態は不整形で規則性のない形状を呈する。SP2092、SD2016、SD2021 に切られる。また、SK2143 を切る。底面はやや起伏を帶び、壁面は急に立ち上がる。

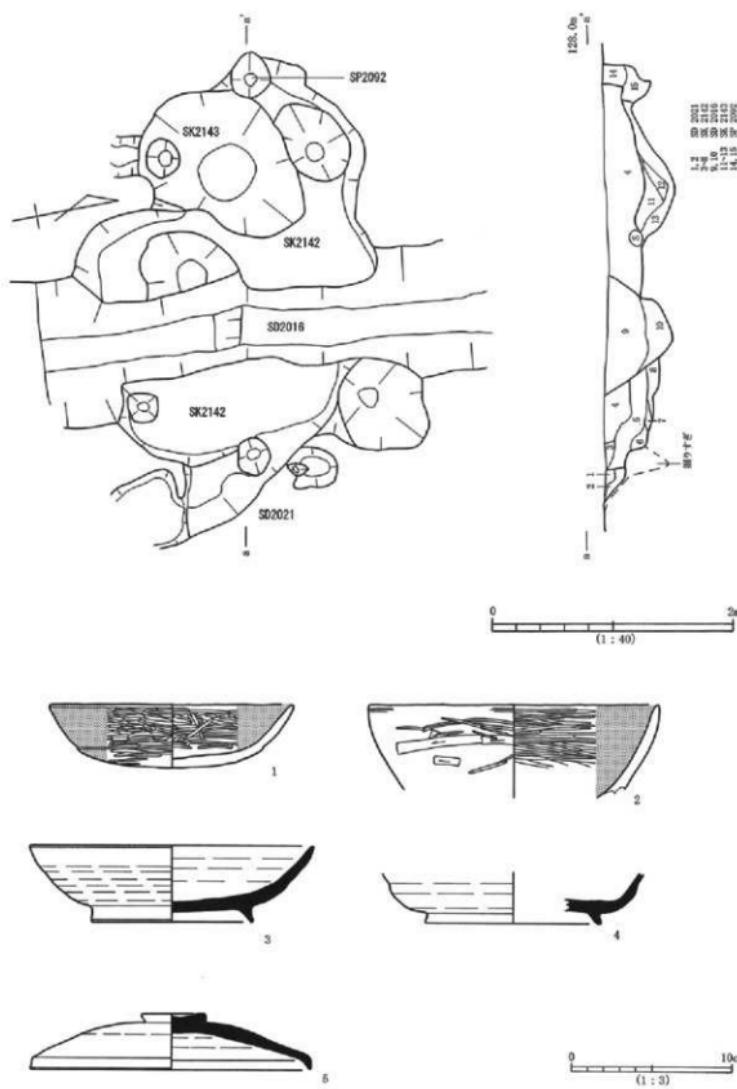
出土遺物 土師器壺(1、2)、須恵器有台壺(3、4)・蓋(5)などが出土した。土師器壺(1)は、丸底で、外縁の下半に稜を有し、内外面ともにミガキが施されたち黒色処理される。須恵器有台壺(3)は、壺部は緩やかに内湾しながら立ち上がり、底部回転糸切り離しのち高台が貼り付けられる。(4)は(3)より体部の立ち上がりが急で、深さがあるタイプであると考えられる。年代は、出土遺物の時期に幅があり、8世紀前半から後半であると思われる。

SK3019(第211図)

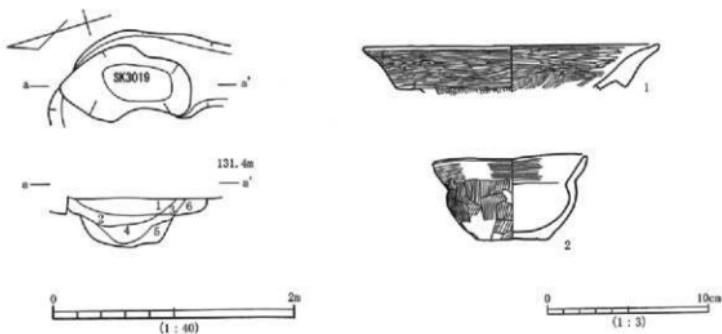
位 置 17-12 グリッド。

規模形態 長軸 1.08 m、短軸 0.41 m、検出面からの深さ 40 cm を測る。平面形態は崩れた橢円形を呈する。底面はほぼ平坦で、壁面は急に立ち上がる。

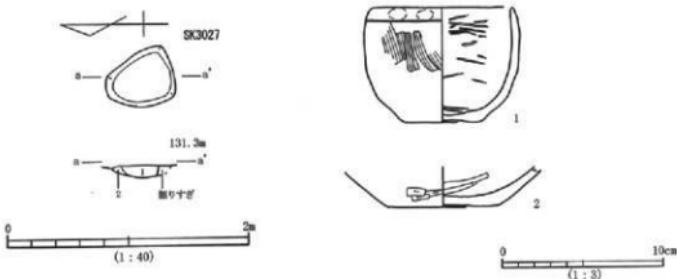
出土遺物 土師器壺(1)・甕(2)などが出土した。土師器甕(1)は、口縁部が内外面とともに非常に細かいミガキが施され、朱が塗られる。土師器甕(2)は小型で口縁部が外反し、外面にハケメ、内面にナデ、口縁部にナデが施される。年代は4世紀であると思われる。



第210図 SK2142



第211図 SK3019



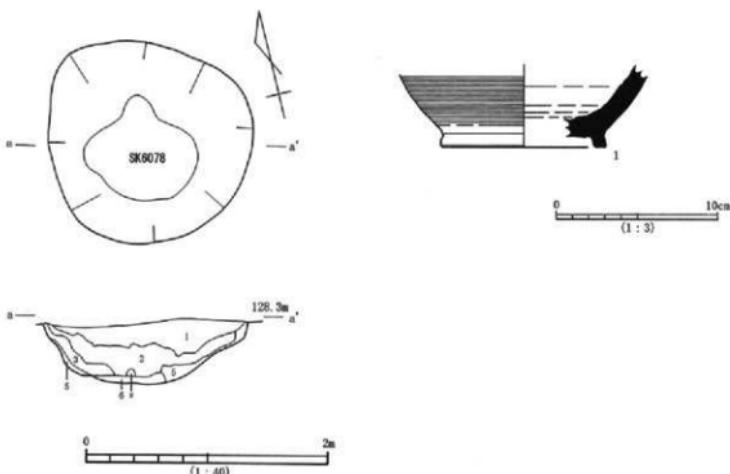
第212図 SK3027

SK3027(第212図)

位置 16-14グリッド。

規模形態 長軸 0.57 m、短軸 0.45 m、検出面からの深さ 10 cmを測る。平面形態は崩れた楕円形を呈する。底面は平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。

出土遺物 土師器壺(1,2)などが出土した。土師器壺(1)は小型で、体部が緩やかに内湾しながら立ち上がり、外側にハケメ、内側にヘラナデが施される。年代は古墳時代と思われるが、細分はできなかった。



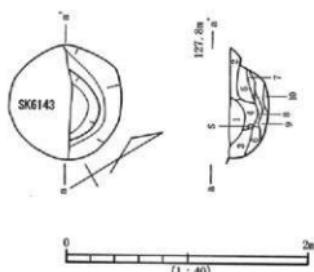
第213図 SK6078

SK6078 (第213図)

位 置 13-8 グリッド。

規模型態 長軸 1.79 m、短軸 1.69 m、検出面からの深さ 50 cm を測る。平面形態は円形を呈する。底面はやや丸みを帯び、壁面は緩やかに立ち上がる。

出土遺物 須恵器瓶(1)、土師器甌などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は8世紀から9世紀であると思われるが、細分はできなかった。



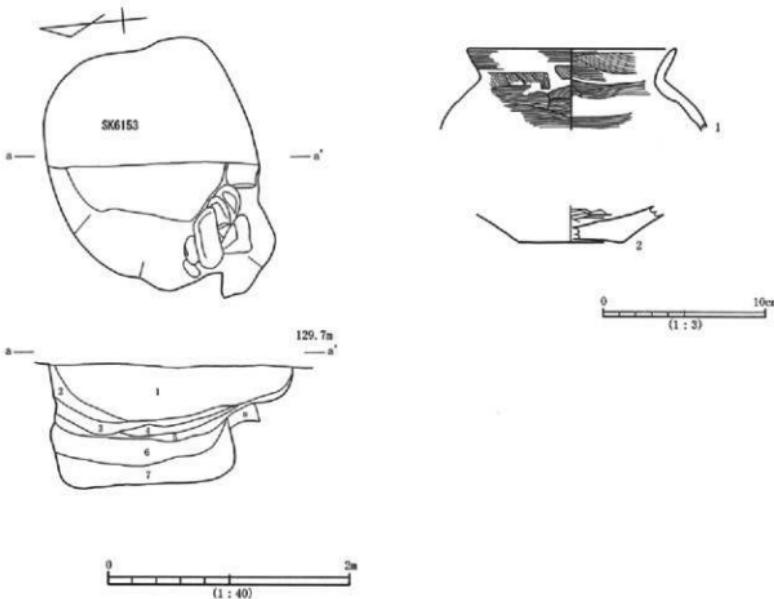
第214図 SK6143

SK6143 (第214図)

位置 14-9 グリッド。

規模形態 長軸 0.96 m、短軸 0.91 m、検出面からの深さ 31 cm を測る。平面形態は円形を呈する。底面はやや丸みを帯び、壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 土師器壺などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は不明である。



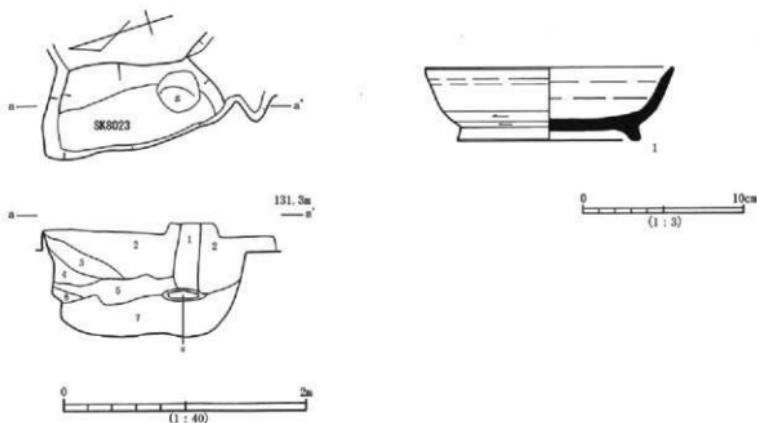
第215図 SK6153

SK6153 (第215図)

位置 15-10 グリッド。

規模形態 平面形態は円形を呈する。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。土層は砂粒が交互に混じるような様相を呈し、水性堆積と思われる。土坑で登録したが、井戸である可能性がある。調査期間の関係で完掘することができなかった。

出土遺物 土師器壺(1, 2)などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は、古墳時代であると思われるが、細分はできなかった。



第216図 SK8023

SK8023 (第216図)

位置 17-19グリッド。

規模形態 長軸 1.65 m、短軸 0.70 m、検出面からの深さ 82 cmを測る。平面形態は方形を呈する。底面は平坦で、壁面は垂直に立ち上がる。

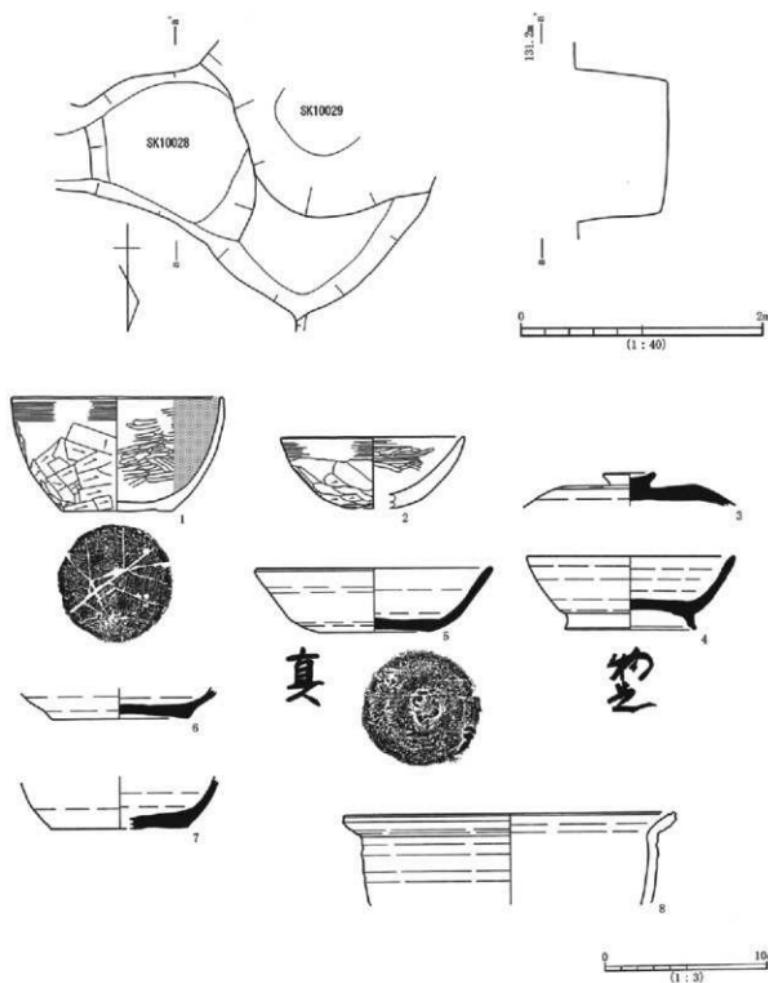
出土遺物 須恵器有台坏(1)などが出土した。須恵器有台坏(1)は坏部が直線的にハの字状に立ち上がり、外面下部から底部にかけて回転ケズリが施された後、高台が貼り付けられる。年代は8世紀後半から9世紀前半であると思われる。

SK10028 (第217図)

位置 17-17グリッド。

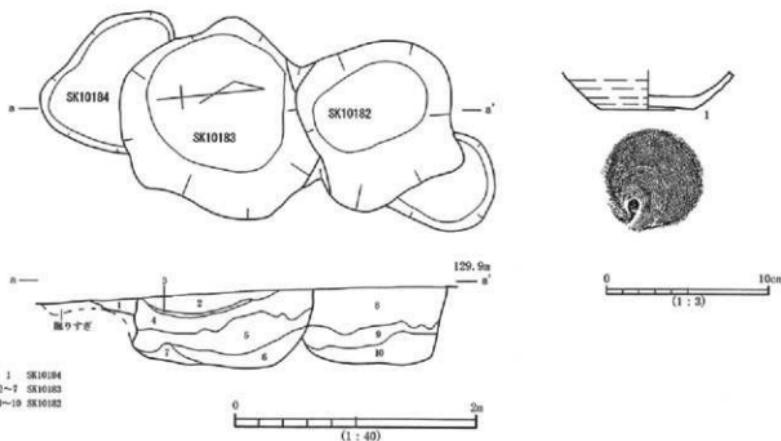
規模形態 長軸 1.54 m、短軸 1.27 m、検出面からの深さ 77 cmを測る。SK10029に切られる。平面形態は崩れた円形を呈する。底面は平坦で、壁面は垂直に立ち上がる。

出土遺物 土師器坏(1, 2)・甕、須恵器蓋(3)・有台坏(4)・坏(5~7)、赤焼甕(8)などが出土した。土師器坏はすべて非ロクロで、平底のタイプ(1)と丸底のタイプ(2)がある。須恵器坏および有台坏で、底部切り離しの判明するものは、回転糸切りのタイプ(4, 6, 7)と回転ヘラ切りのタイプ(5)が混在する。年代は8世紀後半から9世紀初頭であると思われる。



第217図 SK10028

IV 検出された遺構と遺物



第218図 SK10183

SK10183 (第218図)

位 置 12 - 17 グリッド。

規模形態 長軸 1.67 m、短軸 1.60 m、検出面からの深さ 63 cm を測る。SK10182 および SK10184 を切る。平面形態は円形を呈する。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 赤焼坏 (1)、土師器甕などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は9世紀半ばから後半であると思われる。

SK10248 (第219図)

位 置 13 - 15 グリッド。

規模形態 長軸 2.08 m、検出面からの深さ 165 cm を測る。西側が擾乱に切られる。平面形態は梢円形を呈する。底面はやや丸みを帯び、壁面は垂直に立ち上がる。

出土遺物 須恵器蓋 (1 ~ 3)・坏 (4 ~ 6)・有台坏 (7 ~ 9)、土師器甕 (10) などが出土した。出土遺物は比較的多いが、破片資料が多い。年代は9世紀前半から半ばと思われる。

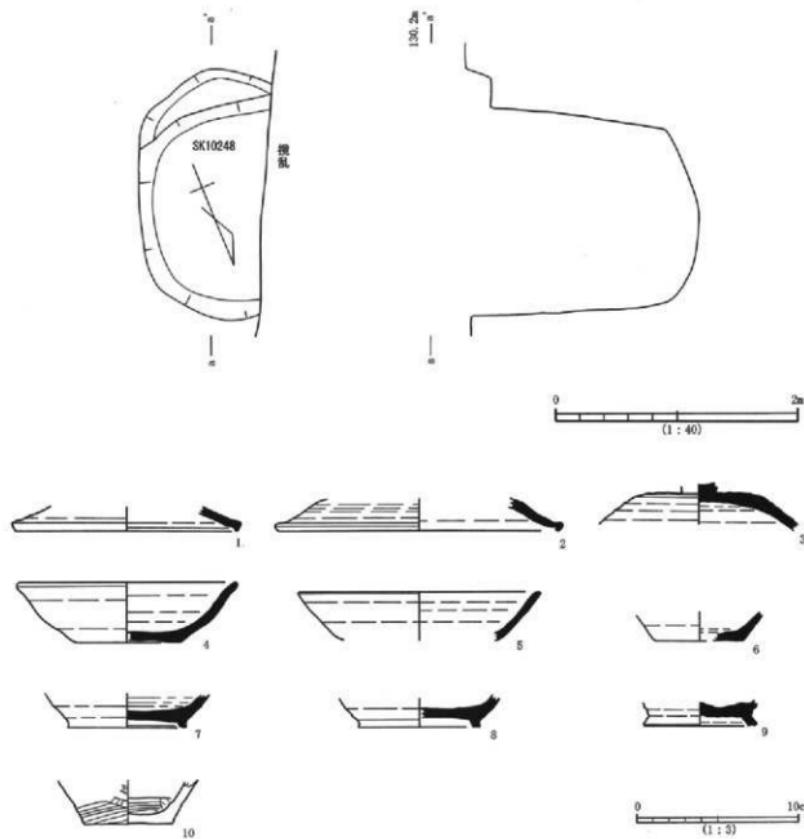
SK10280 (220図・遺構平面図、断面図は第187~188図参照)

位 置 14 - 16 グリッド。

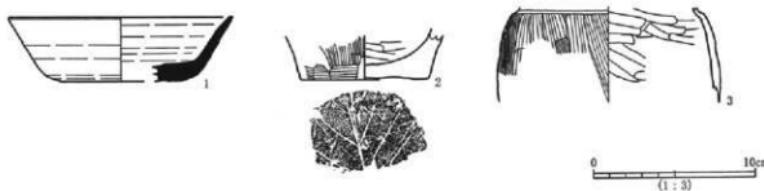
規模形態 長軸 1.15 m、短軸 1.05 m、検出面からの深さ 42 cm を測る。ST10021 を切る。平面形態は円形を呈する。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 須恵器坏 (1)、土師器甕 (2, 3) などが出土した。須恵器坏 (1) は体部がやや外反しながらハの字状に立ち上がり、底部切離しは回転糸切りである。土師器甕 (2, 3) は全体の形状は分からぬが、ともに外面にハケメが施される。年代は9世紀前半から半ばであると思われる。

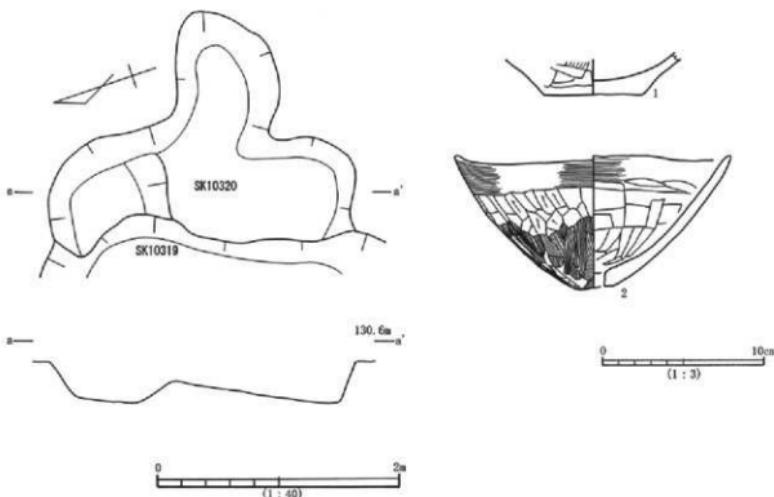
IV 検出された遺構と遺物



第219図 SK10248



第220図 SK10280



第221図 SK10320

SK10320(第221図)

位置 14-17グリッド。

規模形態 長軸2.51m、検出面からの深さ35cmを測る。SK10319に切られる。平面形態は不整形で規則性のない形を呈する。底面は北側が一段低くなっている。壁面は急に立ち上がる。

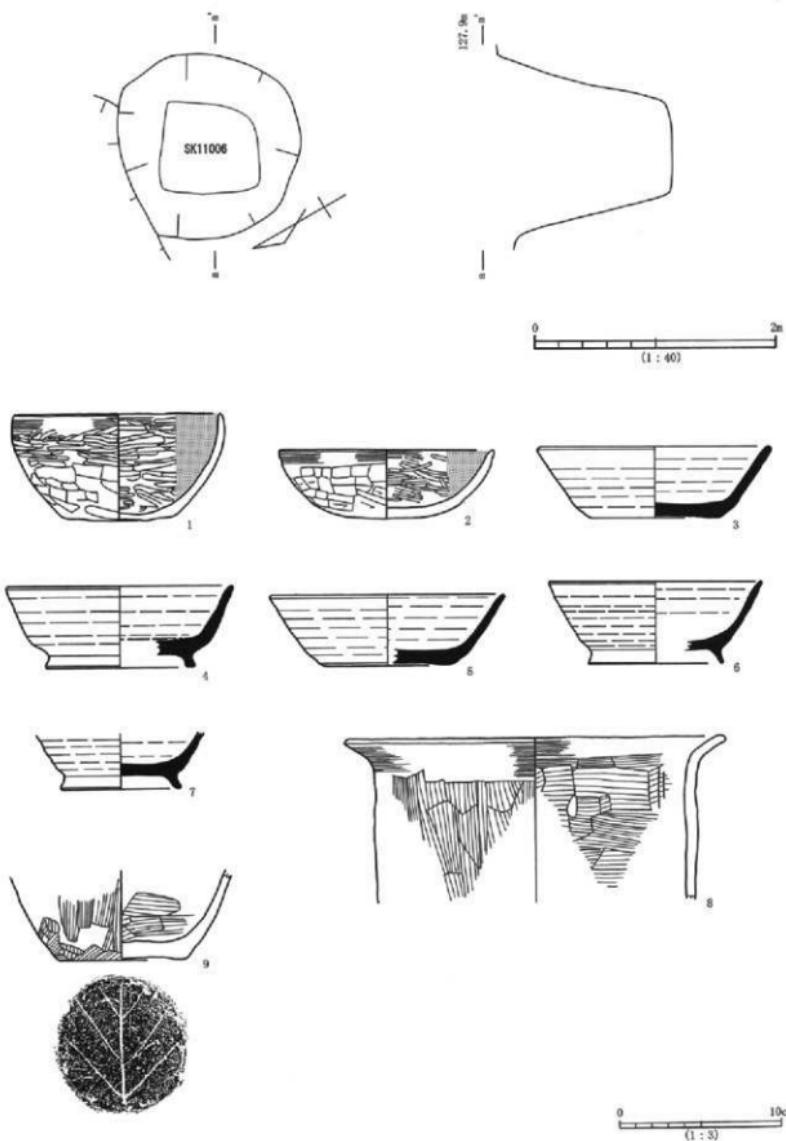
出土遺物 土師器壺(1)・瓶(2)などが出土した。瓶(2)は体部がやや内湾しながら立ち上がる浅鉢状の形態を呈し、焼成前に1個穿孔される。年代は4世紀であると思われる。

SK11006(第222図)

位置 5-9グリッド。

規模形態 長軸1.59m、短軸1.50m、検出面からの深さ141cmを測る。平面形態は円形を呈する。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 土師器壺(1,2)・甕(8,9)・須恵器壺(3,5)・有台壺(4,6,7)などが出土した。土師器壺(1,2)はともに平底だが、器高の高いタイプ(1)と低いタイプ(2)がある。須恵器壺(3,5)はともに底部は回転ヘラ切りである。有台壺は(4)は高台貼付の際の再調整で底部切離しは分からぬが、(6,7)は回転糸切りのち高台を貼付けている。年代は8世紀後半から9世紀初頭であると思われる。



第222図 SK11006

(4) ピット

SP2079 (第223図)

位置 3-19 グリッド。

規模形態 長軸 0.58 m、短軸 0.36 m、検出面からの深さ 27 cm を測る。平面形態は橢円形を呈する。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。土層は一括埋土で、1 層から土師器甕 (1) が出土した。

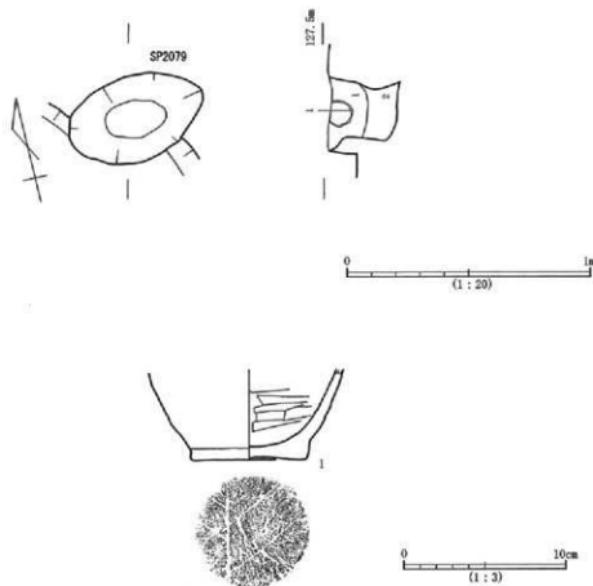
出土遺物 土師器甕 (1) などが出土地した。出土遺物は少なく、また破片資料が多く全体の形状がわかるものはない。年代は、古墳時代であると思われるが、細分はできない。

SP3015 (第224図)

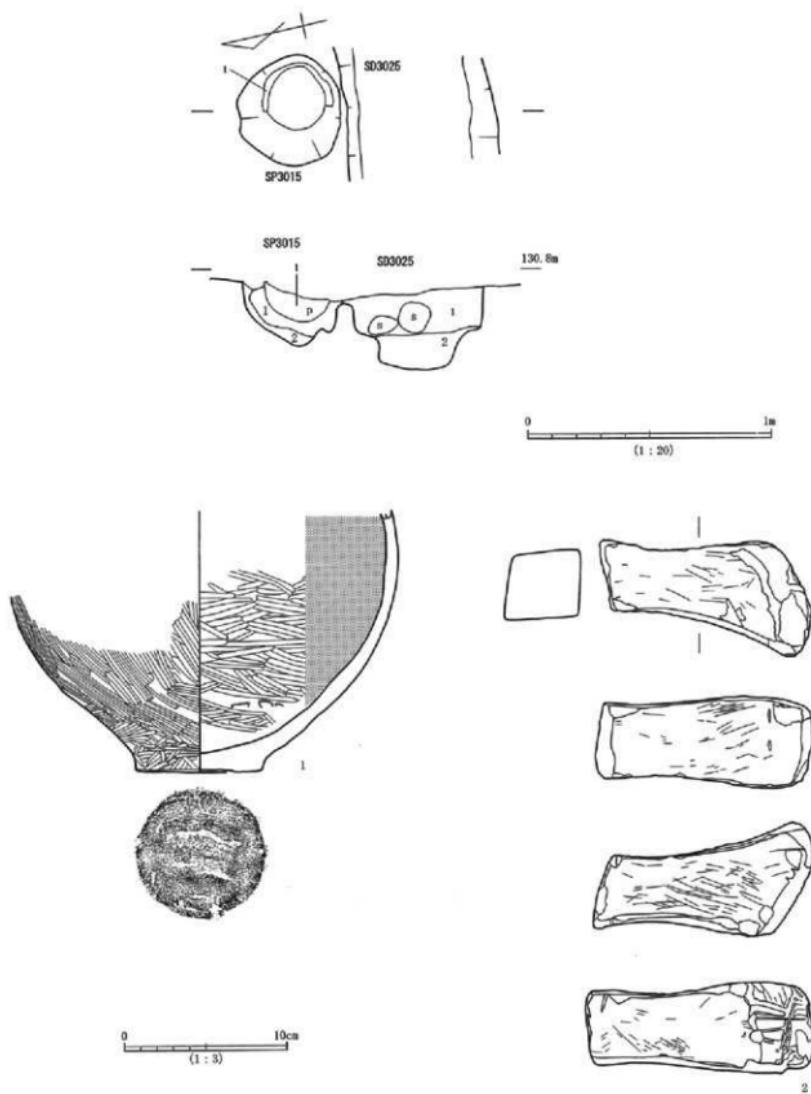
位置 16-13 グリッド。

規模形態 長軸 0.45 m、短軸 0.42 m、検出面からの深さ 20 cm を測る。平面形態は円形を呈する。底面はやや起伏があるが丸みを帯び、壁面は急に立ち上がる。土師器甕 (1) が正位の状態で埋設されており、甕の内部から砥石 (2) が出土した。

出土遺物 土師器甕 (1)、砥石 (2) が出土した。土師器甕は体部が球形を呈し、内外面にミガキが施され、内面は黒色処理される。砥石は 4 面が使用され、石材は薄黄緑色で青粒の混入物が認められる。年代は古墳時代と思われるが細分できない。



第223図 SP2079



第224図 SP3015

IV 検出された遺構と遺物

(5) 井戸

SE 1034 (第225図)

位置 7-13 グリッド。

規模形態 挖り方 2.21 m × 2.11 m、木組一辺約 0.90 m 方、検出面からの深さ 130 cm を測る。ST1011 を切る。平面形態は方形を呈する。掘り方を有し、11～15 層が掘り方の土層である。木組みの井戸で、部材を縦に組んでいる様相は把握できたが、それ以外の構造は遺存状態が悪く確認できなかった。

出土遺物 須恵器坏 (1、2)・有台坏 (3～5)・甕・壺、赤焼坏 (6～10)、土師器甕などが出土した。須恵器坏 (1、2) は、口縁部がやや外反し、底部切離しは回転糸切りである。須恵器有台坏 (3、5) は坏部が直線的にハの字状に立ち上がり、底部切離しは回転糸切りである。赤焼坏 (6、7) は須恵器坏と同様に口縁部がやや外反し、底部切離しは回転糸切りである。年代は 9 世紀半ばから後半であると思われる。

SE 1041 (第226～231図)

位置 3-16 グリッド。

規模形態 挖り方 2.45 m × 2.16 m、木組 0.70 m × 0.69 m、検出面からの深さ 196 cm を測る。SK1403 に切られる。平面形態は方形を呈する。掘り方を有し、7～14 層が掘り方の土層である。木組みの井戸で、部材は板の片方に溝状の切込みをつけて、横方向に組んでいる。

出土遺物 土師器有台坏 (1、2)、須恵器坏 (3～7)・有台坏 (8～10)・甕 (14)・三耳壺？ (15)、赤焼坏 (11、12)・有台坏 (13) などが出土した。土師器有台坏 (1、2) はロクロ成形で、内面がミガキ調整のち黒色処理される。須恵器坏は回転糸切りのタイプ (3～6) と回転ヘラ切りのタイプ (7) がある。また、底部に墨書きが認められるものがある (3、5、7)。須恵器有台坏 (8～10) は回転糸切りのち高台が貼り付けられる。赤焼坏は、須恵器坏と類似する法量を持つタイプ (11) と、より小型のタイプ (12) がある。赤焼坏・有台坏とともに底部は回転糸切りである。年代は、出土した遺物にやや幅があり、9 世紀前半から後半であると思われる。

SE 1044 (第232図)

位置 4-15 グリッド。

規模形態 長軸 1.01 m、短軸 0.86 m、検出面からの深さ 97 cm を測る。平面形態は円形を呈する。底面はやや起伏を帶び、壁面は垂直に立ち上がる。

出土遺物 土師器甕などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は 9 世紀頃であると思われる。

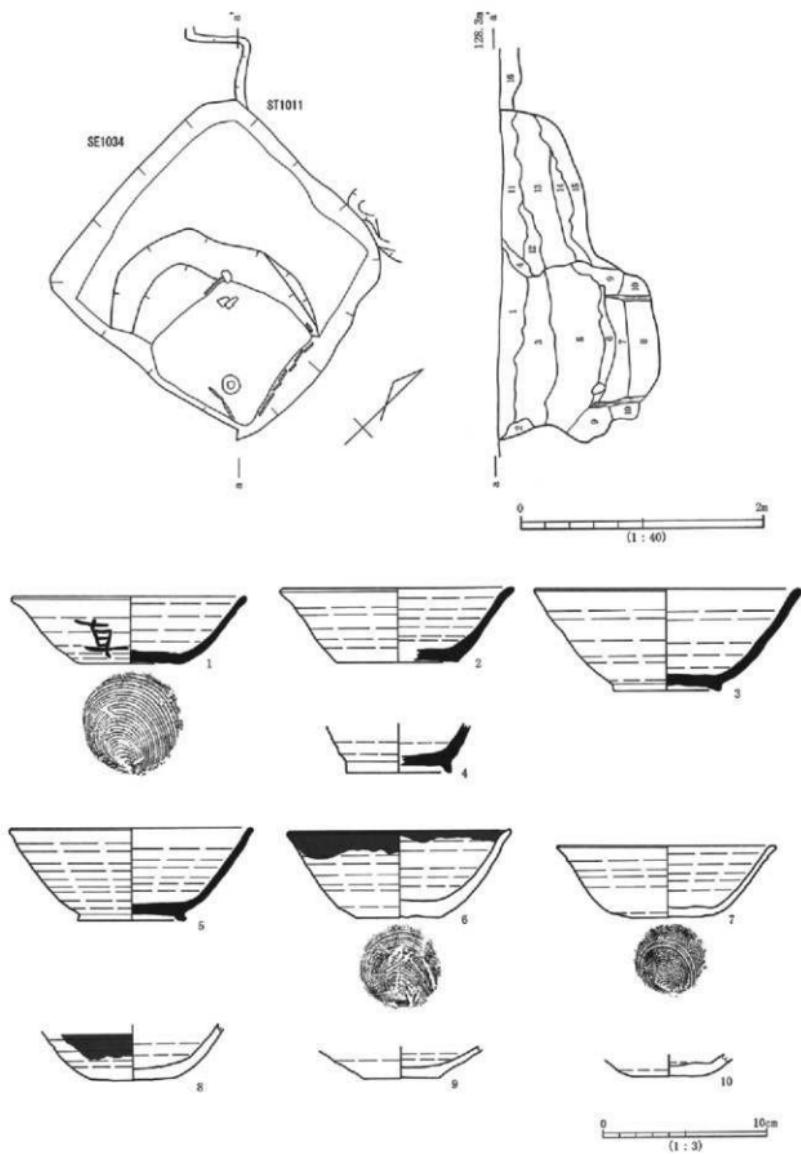
SE 1046 (第233図)

位置 5-14 グリッド。

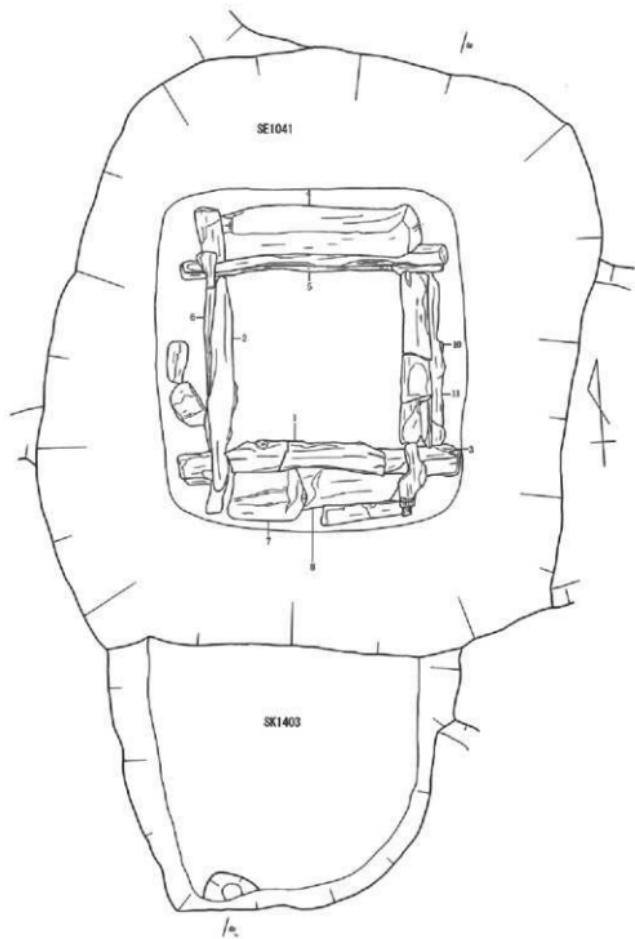
規模形態 長軸 1.41 m、短軸 1.16 m、検出面からの深さ 140 cm を測る。平面形態は梢円形を呈する。底面は丸みを帶び、壁面は崩落が激しかったようでオーバーハンプする。

出土遺物 土師器坏 (1) などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は、特定できなかった。

IV 検出された遺構と遺物

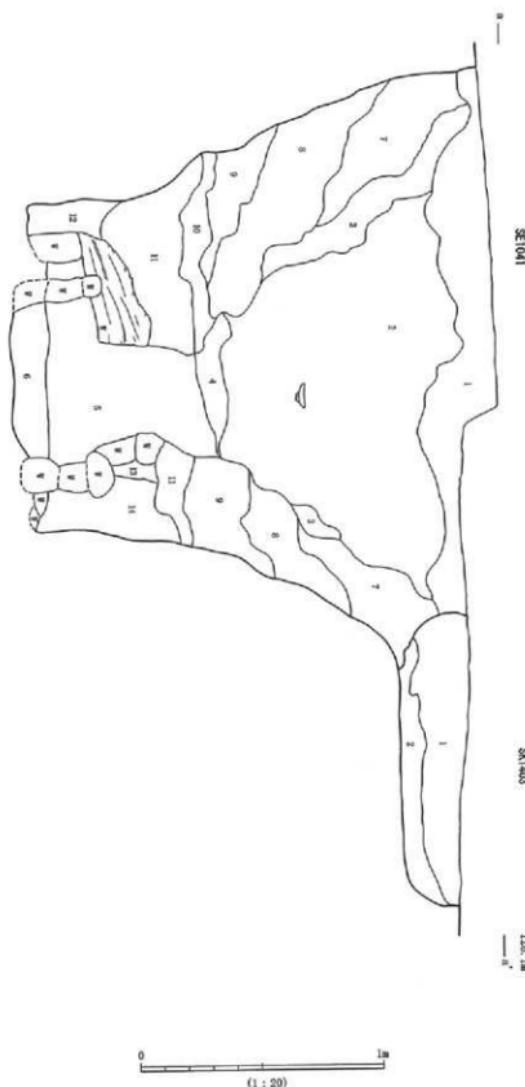


第225図 SE1034

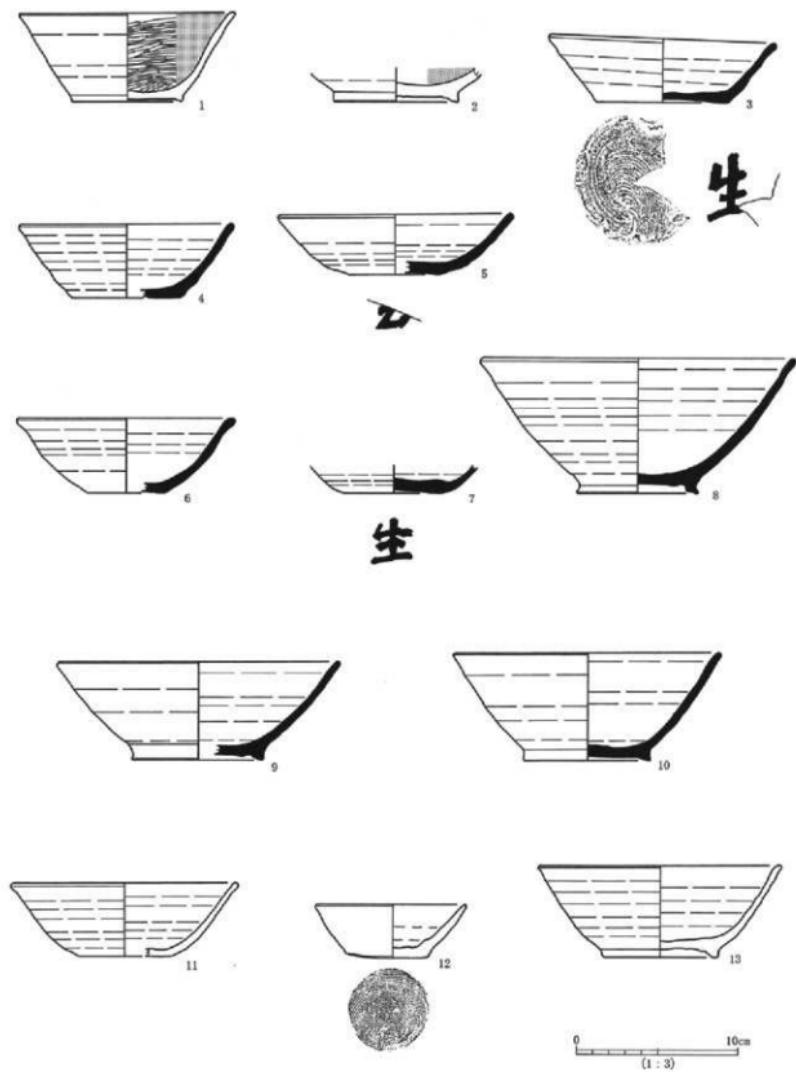


0 In
(1 : 20)

第226図 SE1041(I)



第227図 SE1041(2)



第228図 SE1041(3)



第229図 SE1041(4)

SE1048 (第234~240図)

位置 4-14 グリッド。

規模形態 挖り方 $3.33\text{ m} \times 3.21\text{ m}$ 、木組 $1.21\text{ m} \times 1.20\text{ m}$ 、検出面からの深さ 172 cm を測る。平面形態は方形を呈する。木組みの井戸で、部材は板の両方に溝状の切込みをつけて、横方向に組んでいる。また、木組みの底面にも部材を南北方向に敷き並べている。

出土遺物 須恵器壺 (1~5)・有台壺 (6~9)・蓋 (10, 11)・甕 (11)、土師器壺 (12)・甕などが出土した。須恵器壺は口縁部が外反するタイプ (1, 3) と、直線的に立ち上がるタイプ (2, 4, 5) がある。須恵器有台壺は底部切離しが回転糸切りのタイプ (6, 9) と、回転ヘラ切りのタイプ (7) がある。土師器壺 (1) は非クロ成形で、平底のタイプである。年代はやや幅があり、8世紀後半から9世紀半ばであると思われる。

SE2009 (第241図)

位置 2-19 グリッド。

規模形態 長軸 1.29 m 、短軸 1.14 m 、検出面からの深さ 138 cm を測る。SK2159 に切られる。平面形態は円形を呈する。底面は平坦で、壁面は下半が垂直に、上半がロート状に広がりながら立ち上がる。

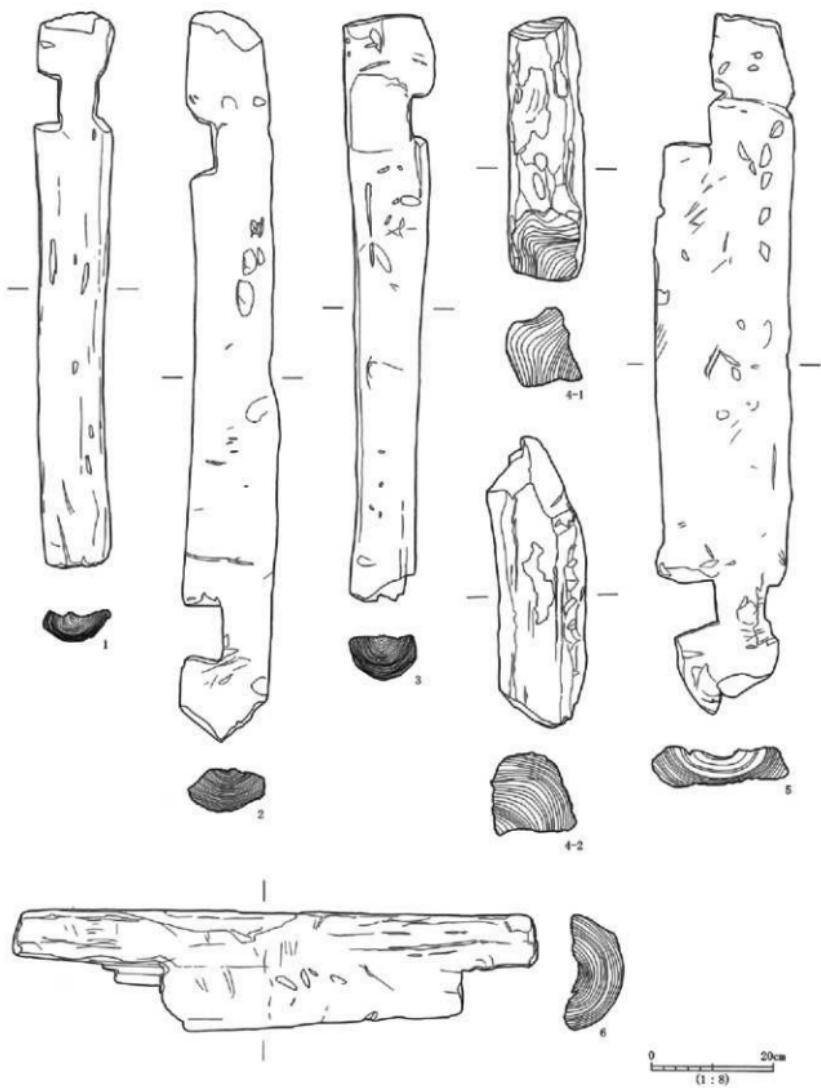
出土遺物 土師器ミニチュア (1) のみ出土した。年代は古墳時代と考えられるが、細分はできなかった。

SE10001 (第242図)

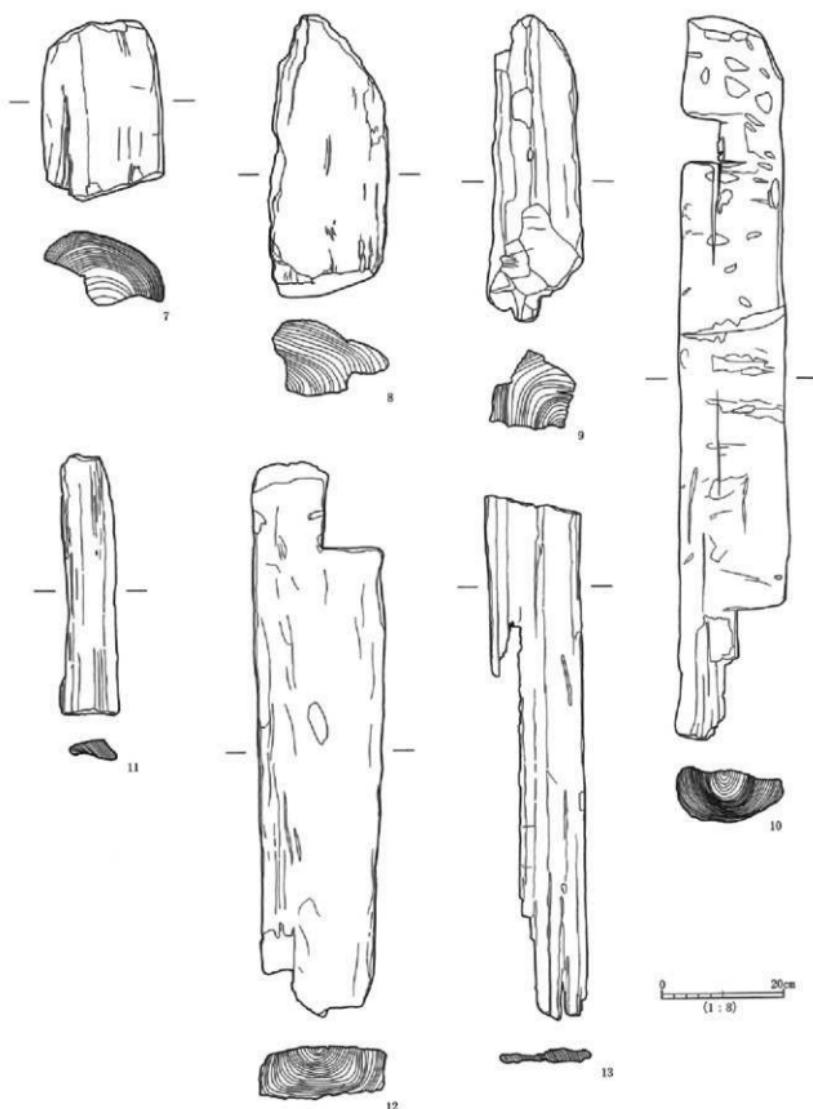
位置 17-16 グリッド。

規模形態 長軸 1.87 m 、短軸 1.68 m 、検出面からの深さ 138 cm を測る。平面形態は円形を呈する。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 須恵器壺・蓋、土師器甕などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は8世紀後半から9世紀前半であると思われる。

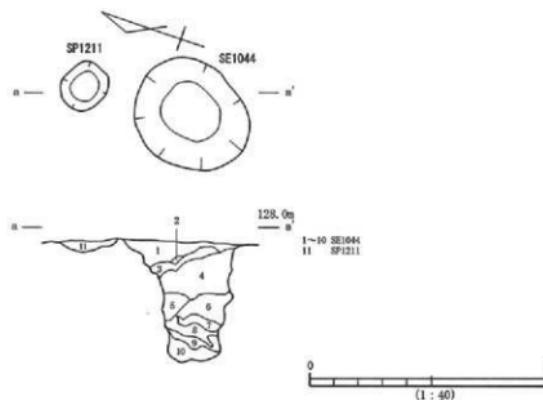


第230図 SE1041井戸枠部材(1)

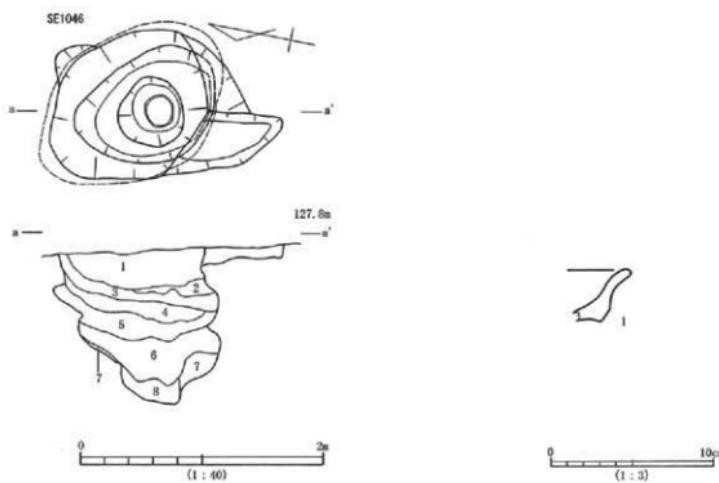


第231図 SE1041井戸枠部材(2)

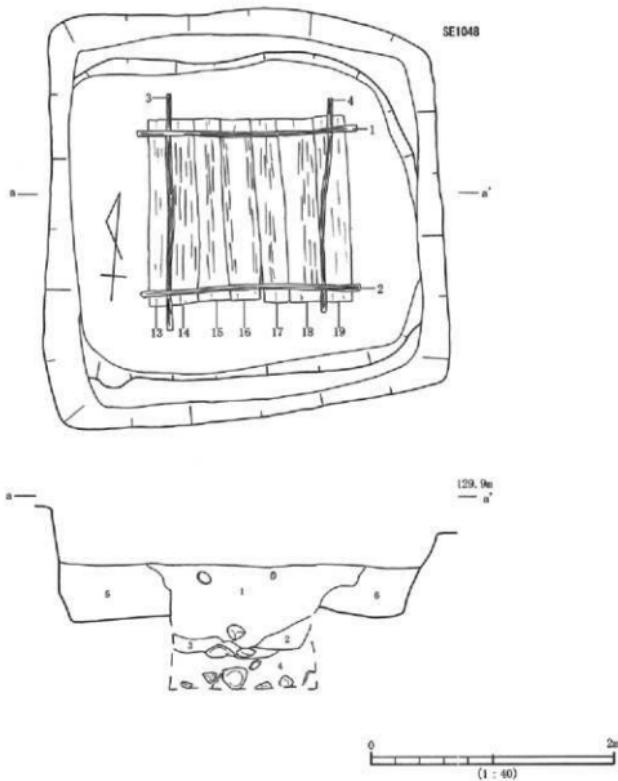
IV 検出された遺構と遺物



第232図 SE1044

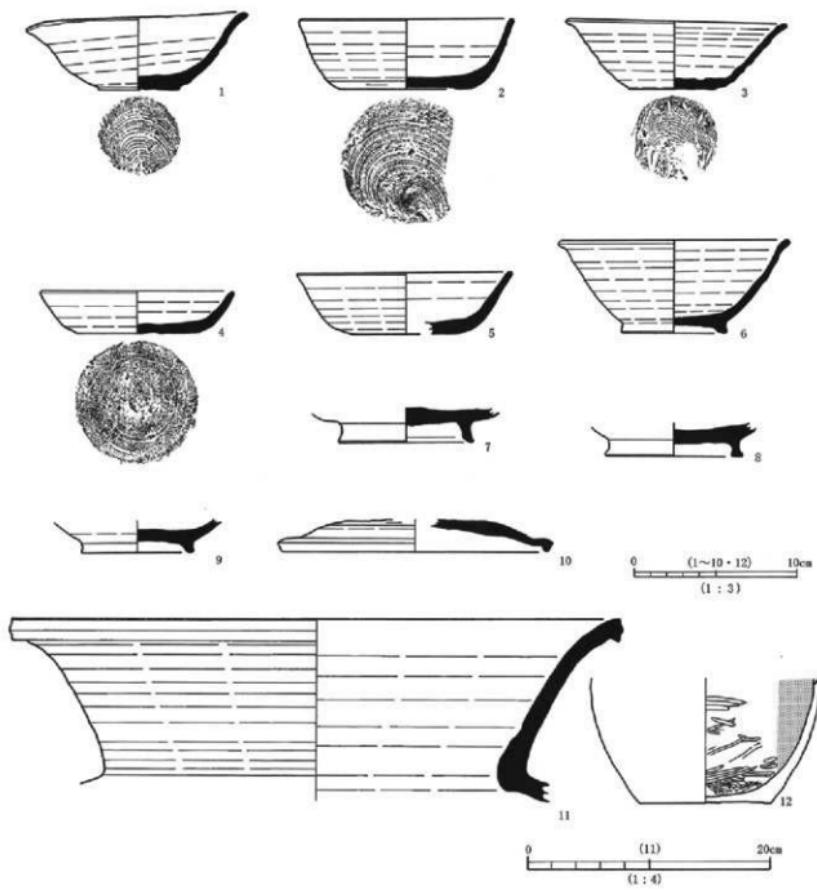


第233図 SE1046



第234図 SE1048(1)

IV 検出された遺構と遺物



第235図 SE1048(2)



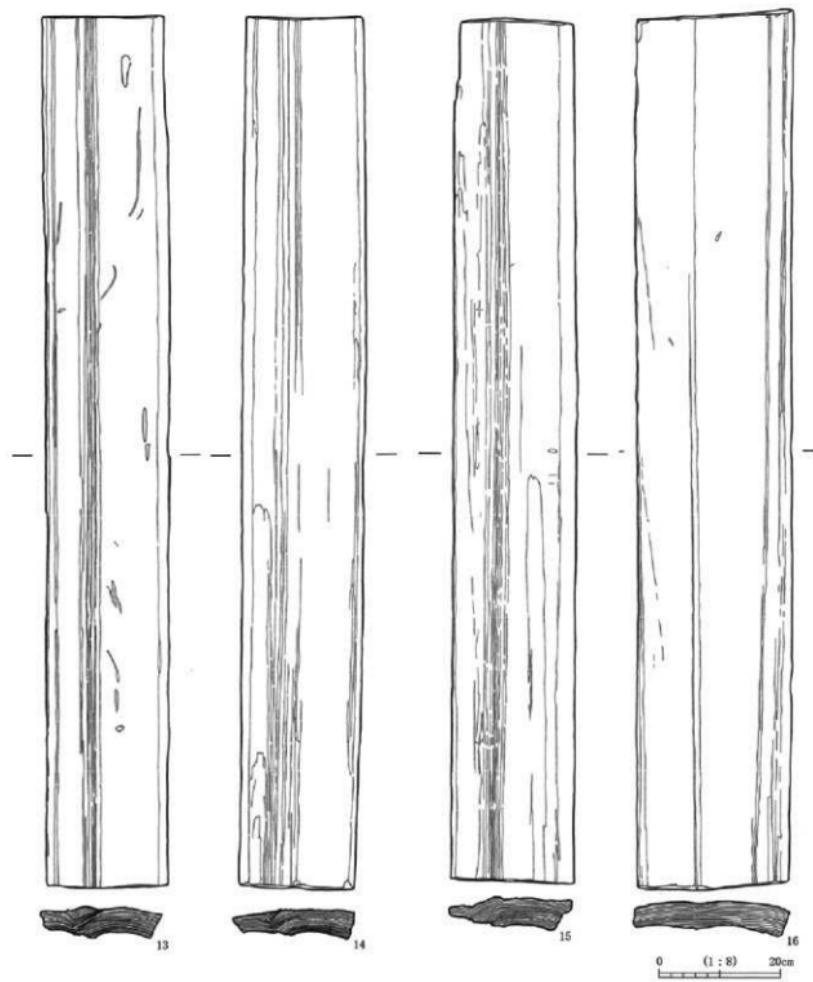
第236図 SE1048井戸枠部材(1)



第237図 SE1048井戸枠部材(2)



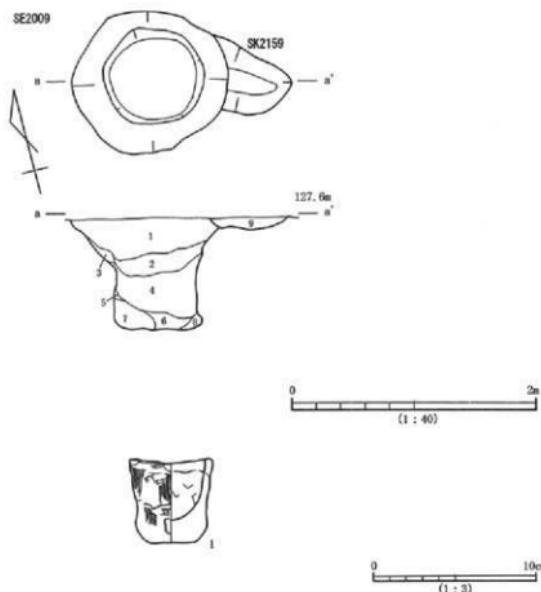
第238図 SE1048井戸棒部材(3)



第239図 SE1048井戸枠部材 (4)



第240図 SE1048井戸枠部材(5)



第241図 SE2009

S E 1 0 0 0 4 (第242図)

位 置 17-16グリッド。

規模形態 長軸 0.92 m、短軸 0.84 m、検出面からの深さ 117 cmを測る。SD10004、SK10032、SK10033に切られる。平面形態は崩れた円形を呈する。底面は起伏を帶び、壁面はややオーバーハングする。

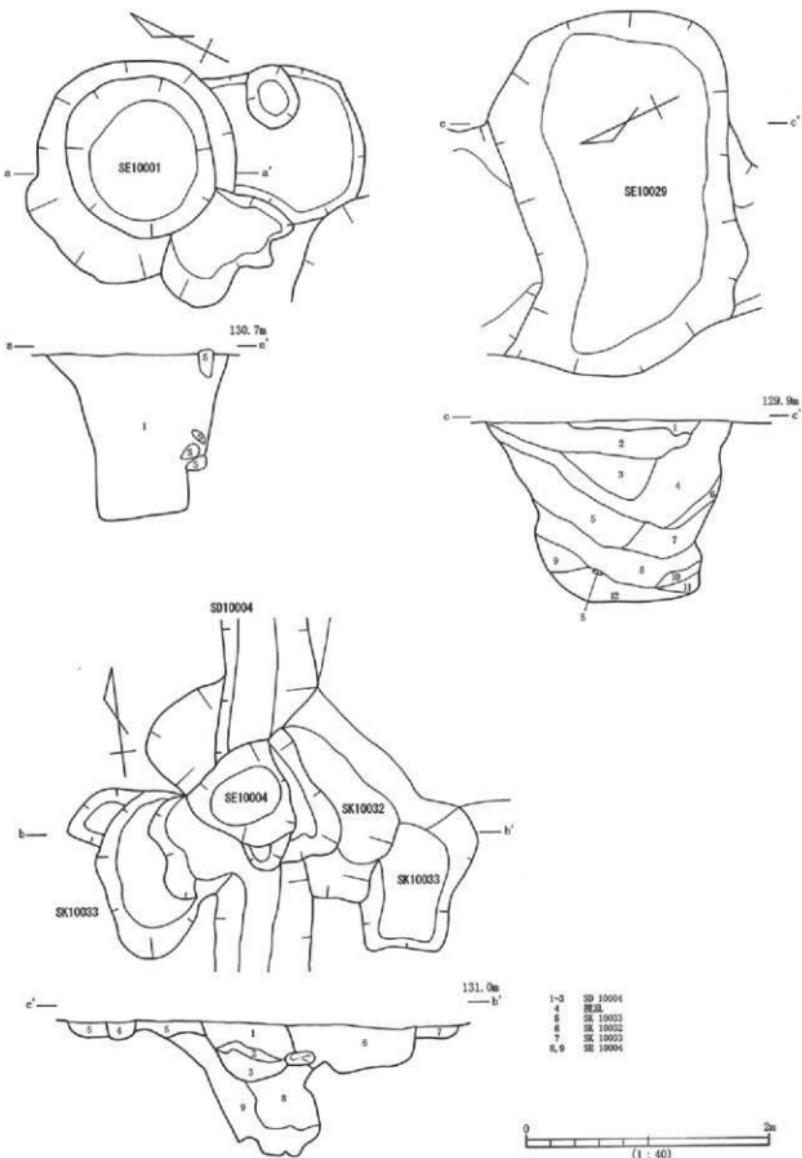
出土遺物 出土した遺物はない。年代は17世紀に遺構であるSK10033に切られるのでそれ以前だが、それ以上の細分はできなかった。便宜的に本節に掲載した。

S E 1 0 0 2 9 (第242図)

位 置 14-15グリッド。

規模形態 長軸 2.97 m、短軸 1.76 m、検出面からの深さ 162 cmを測る。平面形態はやや崩れた隅丸方形を呈する。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 出土した遺物はない。年代も不明である。便宜的に本節に掲載した。



第242図 SE10001・SE10029・SD10004・SK10032, SK10033, SK10034

IV 検出された遺構と遺物

(6) 溝

SD309 (第243図、遺構平面図は付図参照)

位置 7-6 ~ 7-8 グリッド。

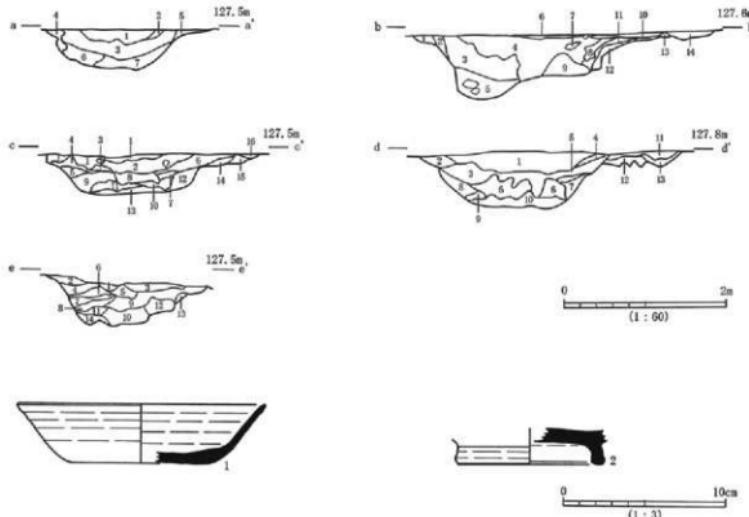
規模形態 検出された長さ 42.3 m、幅 1.0 ~ 3.1 m、検出面からの深さ 50 ~ 80 cm を測る。南北に直線的に走る溝である。SD303 に切られる。溝の南端は検出面が低かったため途切れているが、さらに南に伸びる可能性がある。底面はほぼ平坦で、壁面は急に立ち上がる。調査期間の関係で完掘することができなかった。出土遺物 須恵器壺 (1)・有台壺 (2)・甕、土師器甕などが出土した。破片資料が多く、全体の形状がわかるものは少ない。年代は、8世紀後半から9世紀前半であると思われる。

SD1117 (第244図、遺構平面図は付図参照)

位置 7-13 ~ 8-13 グリッド。

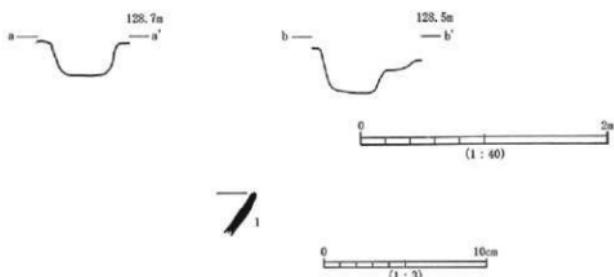
規模形態 検出された長さ 20.0 m、幅 0.6 m、検出面からの深さ 25 ~ 30 cm を測る。東西に直線的に走る溝である。SK1494 に切られる。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 須恵器壺 (1)、土師器壺・甕などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は、8世紀後半から9世紀前半であると思われる。

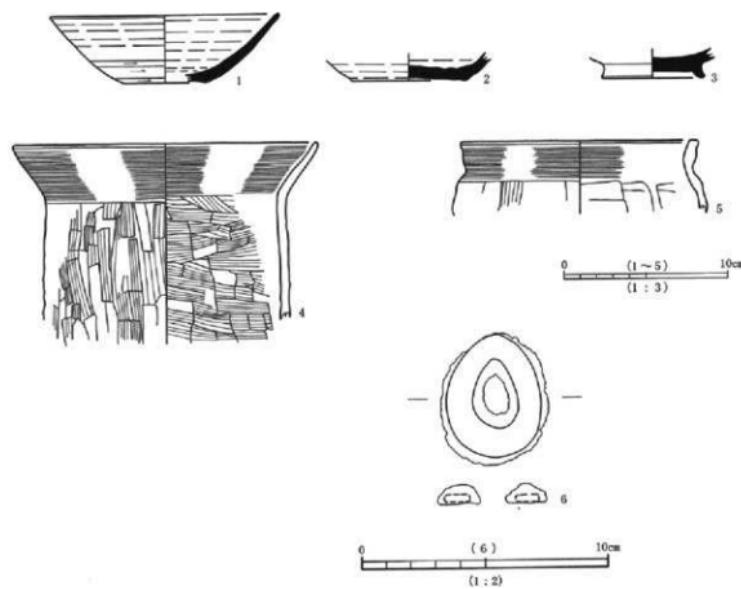
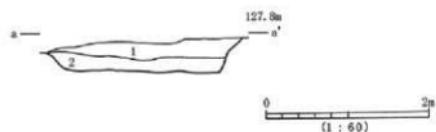


第243図 SD309

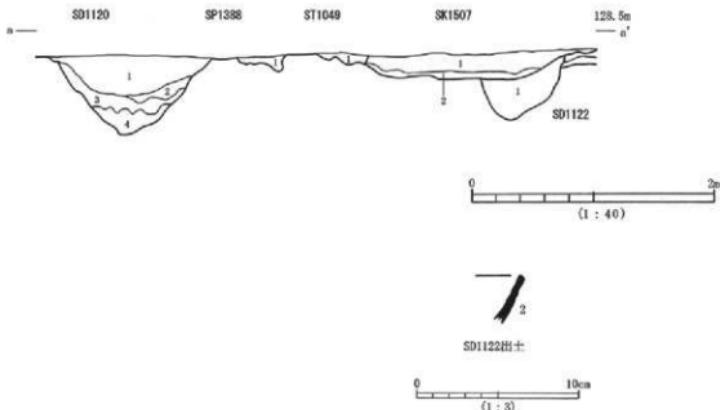
IV 検出された遺構と遺物



第244図 SD1117



第245図 SD1118



第246図 SD1122

SD1118（第245図、遺構平面図は付図参照）

位置 5-12~8-15グリッド。

規模形態 溝の北西端は調査区外にかかる。北西端から南東方向に15.6m伸び、搅乱やSD1070に切られ、さらにSD1070に切られる箇所から南東方向に29.7m伸びて、ここでいたん土橋状の施設で区切られる。この土橋状の施設から南東方向に12.4m伸びたところで、SD1115および搅乱に切られる。他にST1052に切られる。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。調査期間の関係で完掘することができなかった。

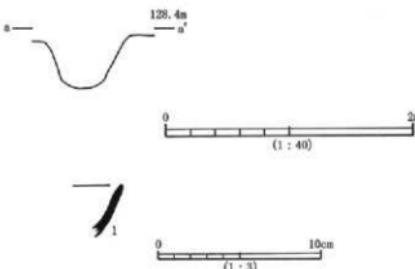
出土遺物 須恵器壺(1,2)・有台壺(3)、土師器甕(4,5)・壺、金属製品(6)などが出土した。破片資料が多く、全体の形状がわかるものは少ない。年代は、9世紀半ばと推定されるST1052に切られることや出土遺物から、8世紀後半から9世紀前半であると思われる。

SD1122（第246図、遺構平面図は付図参照）

位置 7-13~9-15グリッド。

規模形態 検出された長さ48.4m、幅0.8m、検出面からの深さ40~70cmを測る。南東から北西に直線的に走る溝である。SD1119、SD1120、SK1507に切られる。底面は非常に狭くまた起伏が激しい。断面形態は三角形を呈する。

出土遺物 須恵器壺(1)・甕、土師器甕などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は、SD1118と平行に走ることなどから同時期であると考えられ、出土遺物の年代も齟齬がないことから、8世紀後半から9世紀前半であると思われる。



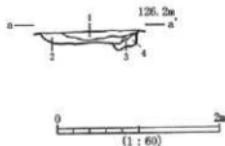
第247図 SD1138

SD1138 (第247図、造構平面図は付図参照)

位置 8-15グリッド。

規模形態 検出された長さ 10.7m、幅 0.9m、検出面からの深さ 40~50cm を測る。北北西から南南東に直線的に走る溝である。SD1118 を切る。SD1115 に切られる。底面はやや丸みを帯び、壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 須恵器壺(1)、土師器壺などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は、9世紀前半であると思われる。



第248図 SD2007

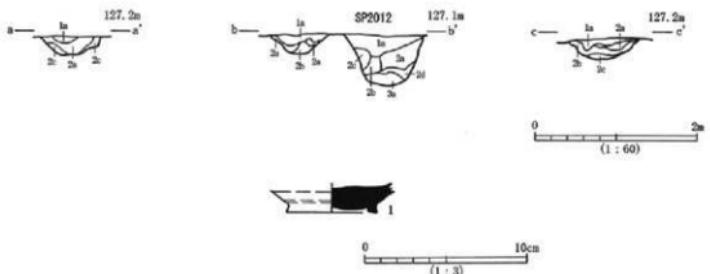
SD2007 (第248図、造構平面図は付図参照)

位置 1-21~2-21グリッド。

規模形態 検出された長さ 18.3m、幅 1.0m、検出面からの深さ 20cm を測る。東西に直線的に走る溝である。底面は起伏を帶び、壁面は急に立ち上がる。調査期間の関係で完掘することができなかった。

出土遺物 土師器壺、須恵器壺などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものは少ない。年代は 8世紀後半から 9世紀半ばであると思われる。

IV 検出された遺構と遺物



第249図 SD2014

SD2014 (第249図、遺構平面図は付図参照)

位置 2-21 グリッド。

規模形態 検出された長さ 10.0 m、幅 0.9 m、検出面からの深さ 20 ~ 30 cm を測る。南北に直線的に走る溝である。底面は丸みを帯び、壁面は緩やかに立ち上がる。

出土遺物 須恵器有台壺(1)、土師器壺などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は 8 世紀後半から 9 世紀半ばであると思われる。



第250図 SD10018

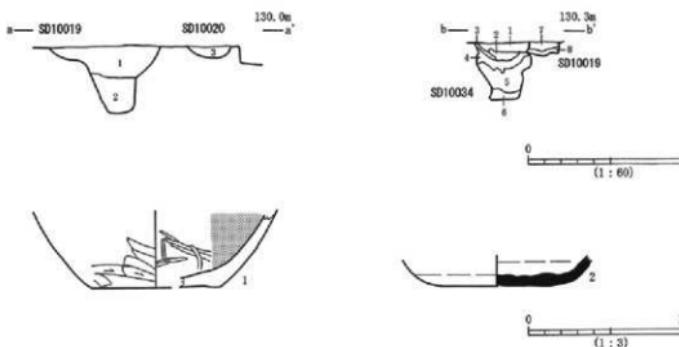
SD10018 (第250図、遺構平面図は付図参照)

位置 12-15 グリッド。

規模形態 検出された長さ 11.5 m、幅 0.6 ~ 1.1 m、検出面からの深さ 10 ~ 30 cm を測る。南北に直線的に走る溝である。SD10031 を切る。底面はやや起伏を帯び、壁面は緩やかに立ち上がる。

出土遺物 土師器壺(1)、須恵器壺(2)などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は 8 世紀後半から 9 世紀半ばであると思われる。

IV 検出された遺構と遺物



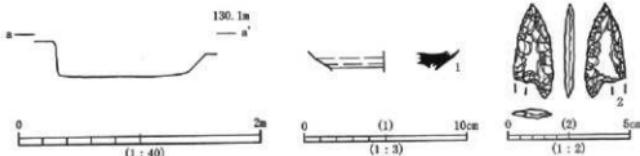
第251図 SD10019

SD10019 (第251図、遺構平面図は付図参照)

位置 13-15グリッド。

規模形態 検出された長さ 12.1 m、幅 0.9 m、検出面からの深さ 10 ~ 80 cmを測る。南北に直線的に走る溝である。SD10020、SE10023に切られる。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 土師器壺(1)・甕、須恵器壺(2)などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は8世紀後半から9世紀前半であると思われる。



第252図 SD10031

SD10031 (第252図、遺構平面図は付図参照)

位置 12-15 ~ 13-15グリッド。

規模形態 検出された長さ 19.9 m、幅 1.2 m、検出面からの深さ 30 cmを測る。東西に直線的に走る溝である。SD10018に切られる。溝の中央付近で検出面が低く、プランがはっきりしない部分がある。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 須恵器有台壺(1)、土師器甕、石礫(2)などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は、8世紀後半から9世紀前半であると思われる。

(7) 性格不明遺構

S X 1 0 1 9 (第253図)

位 置 11-14 グリッド。

規模形態 長軸 8.58 m、短軸 2.30 m、検出面からの深さ 34 cm を測る。平面形態は東西に長い溝状の形態を呈する。底面は起伏が大きく、複数の土坑が絡んだような様相を呈するが、切り合いは認められなかった。

出土遺物 土師器甕 (1) などが出土している。年代は古墳時代中期から後期であると思われるが、細分はできなかった。

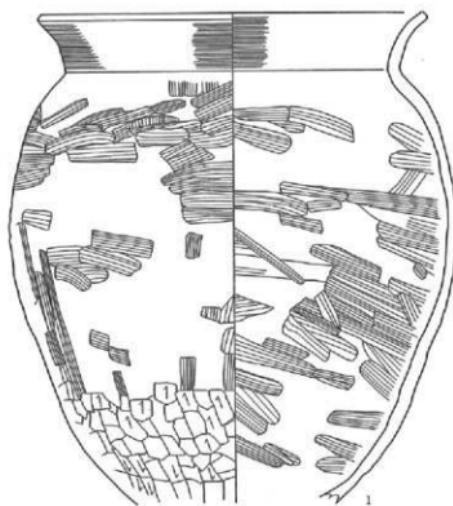
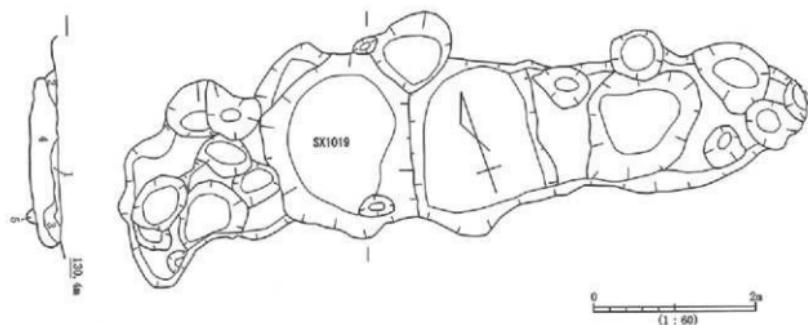
(8) 河川

S G 7 0 0 1 (第254図、遺構平面図は付図参照)

位 置 23-4 ~ 22-8 グリッド。

規模形態 調査区の南端に位置し、河川の北側のプランのみ確認できた。南側のプランは調査区外にかかると思われる。河川覆土中に地山が縦に崩落した層序が確認できる (III、IV、VI~VII、X、XI 層)。これは、河川の侵食により、オーバーハングした河岸が倒壊したことを示す土層であると考えられる。出土した遺物はすべて 1 ~ 3 層から検出された。

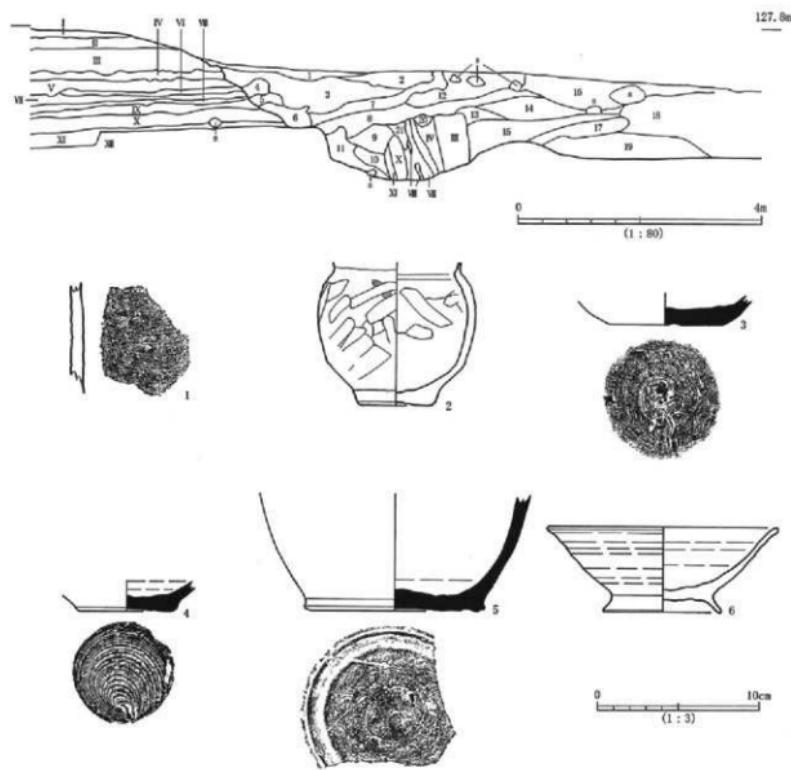
出土遺物 弥生土器壺 (1)、土師器甕 (2)、須恵器坏 (3、4)・壺 (5)、赤焼有台坏 (6) などが出土した。弥生土器壺 (1) は平行沈線をめぐらしている。土師器甕 (2) は非ロクロ成形の小型甕で外面にハケメ、内面にナデが施される。須恵器坏は回転ヘラ切り (3) と回転糸切り (4) が混在する。赤焼有台坏 (6) は坏部、高台がともにハの字状に開くタイプで、ロクロナデが強く施される。河川の埋没年代は 9 世紀後半であると思われる。



0 10cm
(1 : 3)

第253図 SX1019

IV 検出された遺構と遺物



第254図 SG7001

2 中世

(1) 据立柱建物

SB2001 (第255~257図)

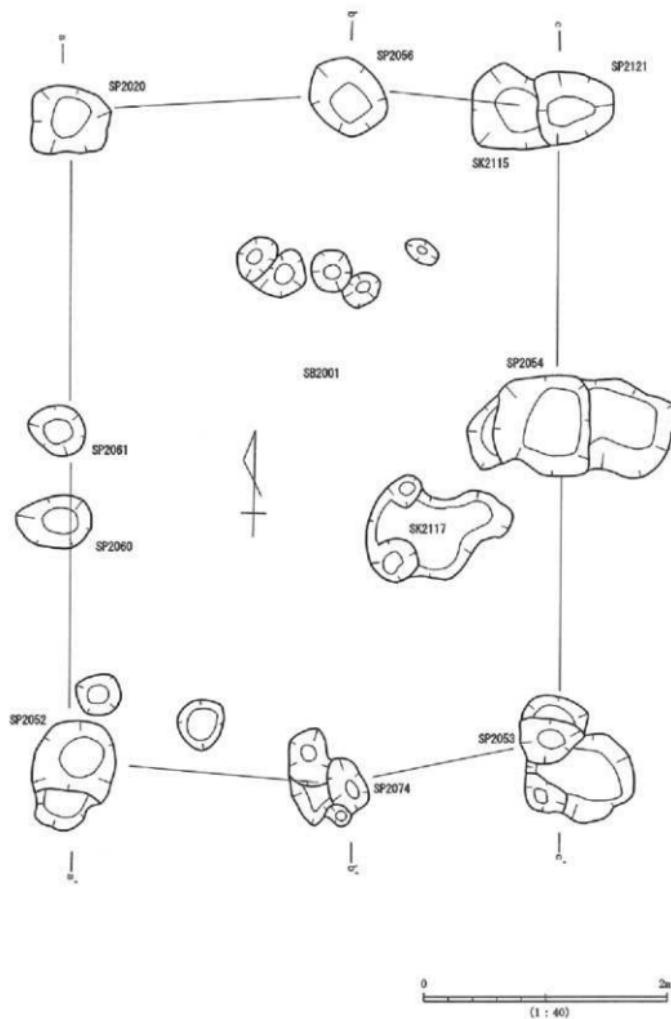
位置 20-3グリッド。

規模 梁行4.1m、桁行7.2~7.7m。2間×2間。

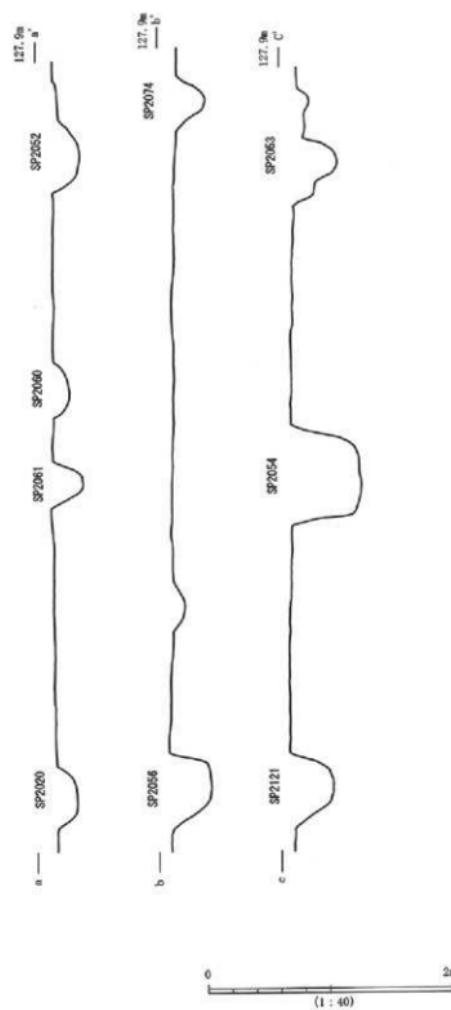
形態 主軸方向はN-2°-Wを測る。柱穴は隅丸方形を呈すものと、円形を呈するものがある。検出面からの深さは15~30cmを測る。

出土遺物 年代の判明する遺物では、SK2115から出土した手づくねかわらけ(1)がある。いわゆるコースター型かわらけである。年代は13世紀頃であると思われる。なお、須恵器壺(2)は混入であると思われるが、参考までに掲載した。

IV 検出された遺構と遺物



第255図 SB2001 (1)



第256図 SB2001(2)



第257図 SB2001(3)

(2) 土坑

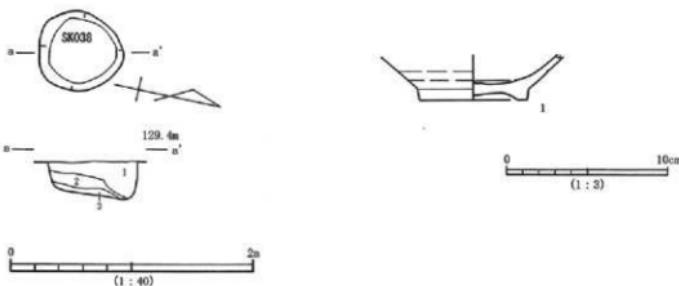
SK038 (第258図)

位置 11-21 グリッド。

規模形態 長軸 0.69 m、短軸 0.66 m、検出面からの深さ 28 cm を測る。平面形態は円形を呈する。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 白磁碗(1)などが出土した。白磁碗II類もしくはIV類の底部と考えられる。年代は12~13世紀であると思われる。

SK167 (第259図)

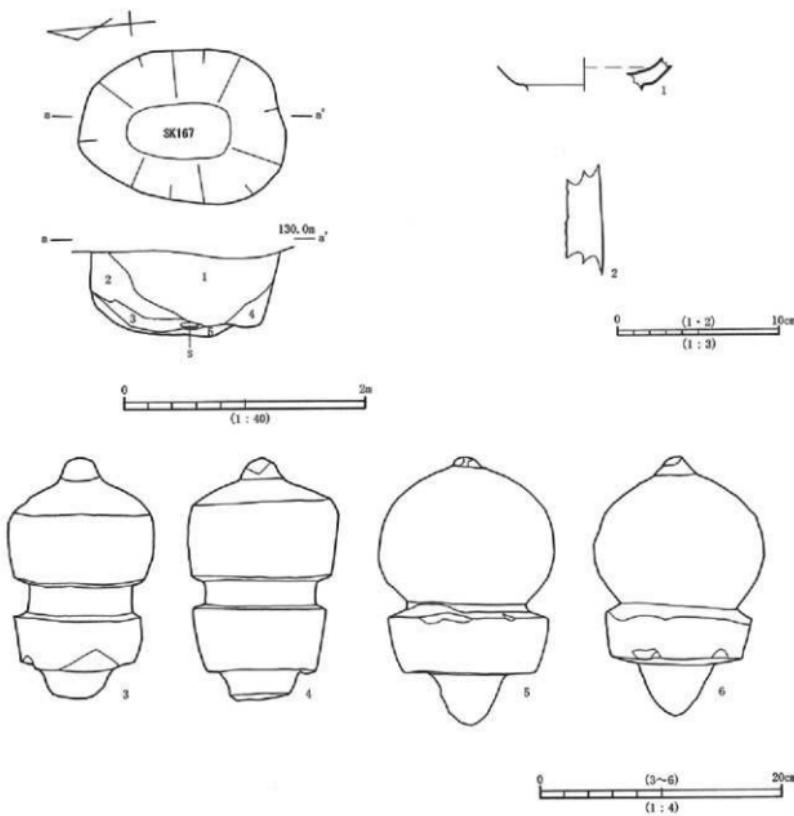


第258図 SK038

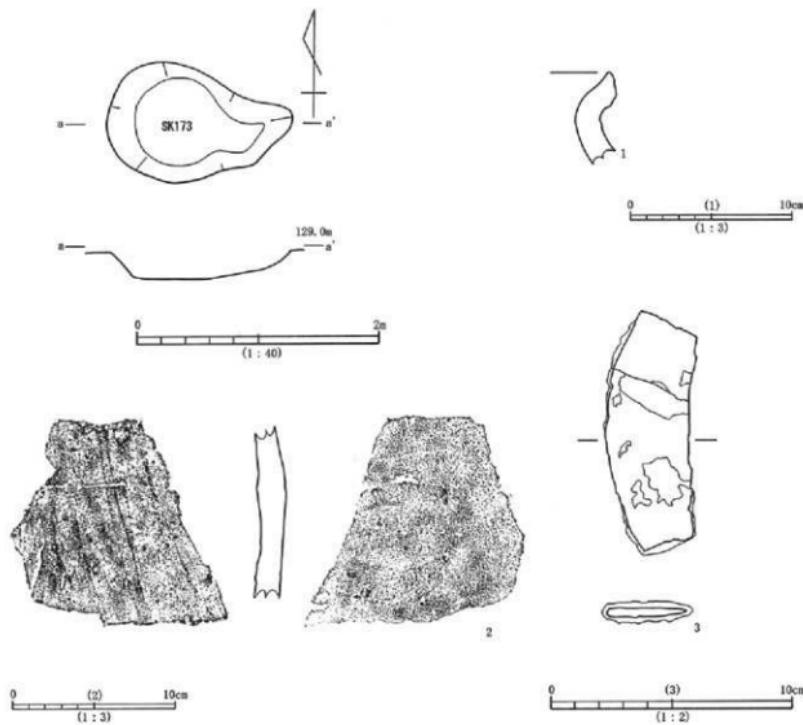
位置 12-18 グリッド。

規模形態 長軸 1.66 m、短軸 1.23 m、検出面からの深さ 68 cm を測る。平面形態は梢円形を呈する。底面はほぼ平坦で、壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 龍泉窯系青磁碗(1)、瓷器系陶器壺(2)、五輪塔空風輪(3~6)などが出土した。龍泉窯系青磁碗(1)は、残存している部分に関しては施文が見られない。五輪塔空風輪は空輪の肩が張り、空輪と風輪の間に幅広で浅い溝を設けるタイプ(3、4)と、空輪が球形で空輪と風輪が隙間なく連続するタイプ(5、6)がある。年代は13~14世紀であると思われる。



第259図 SK167



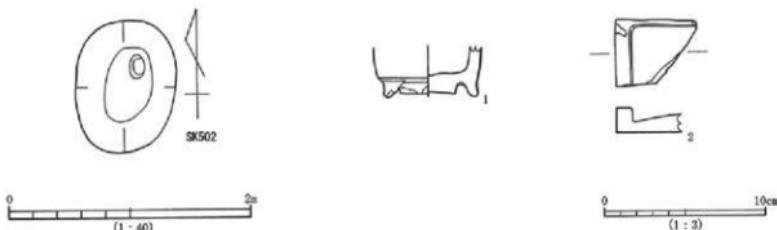
第260図 SK173

SK173 (第260図)

位 置 10 - 19 グリッド。

規模形態 長軸 1.51 m、短軸 0.88 m、検出面からの深さ 24 cm を測る。平面形態はやや崩れた橢円形を呈する。底面は平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。

出土遺物 瓦器系陶器壺 (1, 2)、鉄製縁 (3) などが出土した。年代は 13 ~ 14 世紀であると思われる。



第261図 SK502

SK502 (第261図)

位置 7-18 グリッド。

規模形態 長軸 1.08 m、短軸 0.82 m を測る。平面形態は橢円形を呈する。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 龍泉窯系青磁香炉 (1)、硯 (2) が出土した。龍泉窯系青磁香炉 (1) は脚が 3 足で、漆緋ぎ痕が認められる。年代は 14 世紀であると思われる。

SK1445 (第262図)

位置 5-14 グリッド。

規模形態 長軸 2.54 m、短軸 2.41 m、検出面からの深さ 78 cm を測る。平面形態はやや崩れた方形を呈する。底面はやや起伏を帯び、壁面は急に立ち上がる。

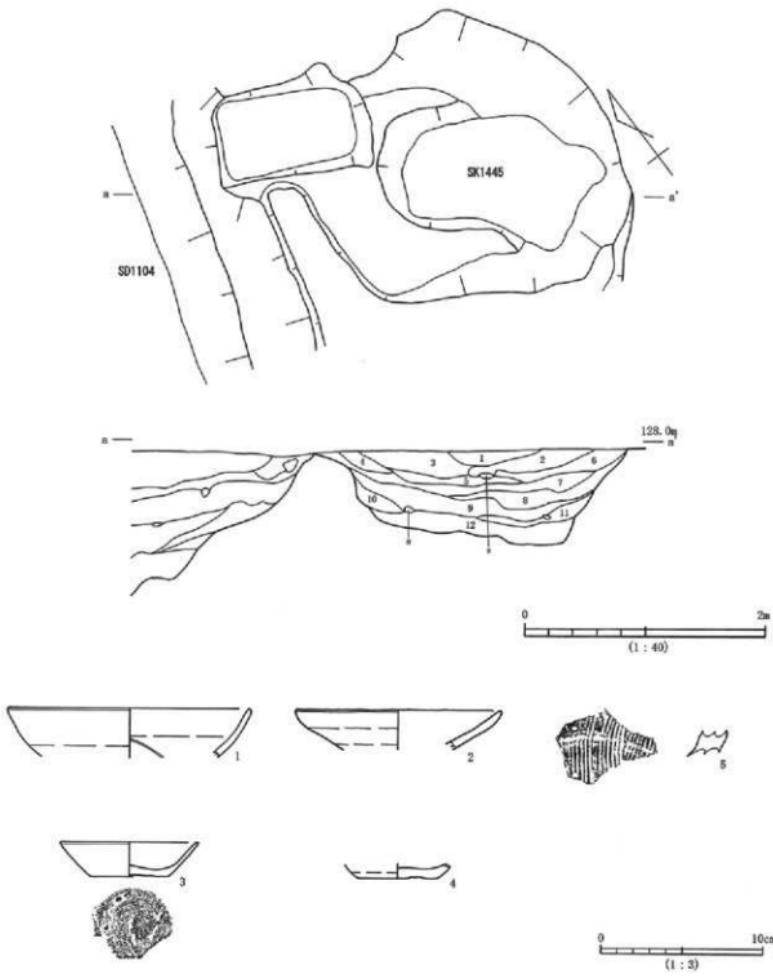
出土遺物 白磁碗 (1)、手づくねかわらけ (2)、ロクロかわらけ (3, 4)、瓷器系陶器擂鉢 (5) などが出土した。白磁碗 (1) は内面に片彫文が認められる。年代は手づくねかわらけ (2) は 12 世紀後半から 13 世紀の所産であると考えられるが、瓷器系陶器擂鉢 (5) などそれより新しい年代観を示す遺物も含まれ、時期は特定できない。

SK1450 (第263図)

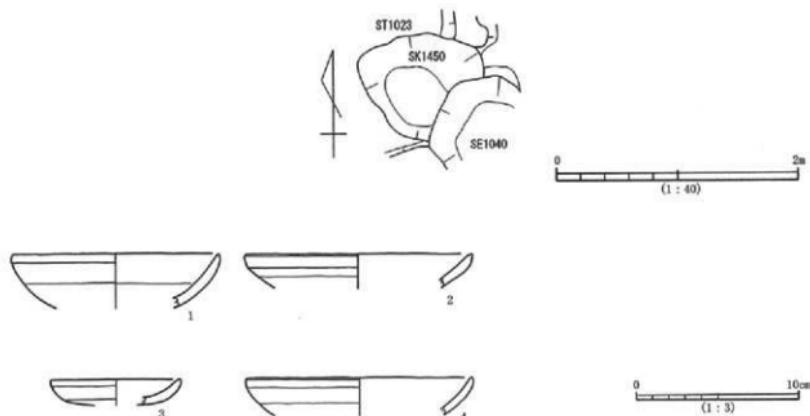
位置 4-15 グリッド。

規模形態 長軸 0.86 m、検出面からの深さ 10 cm を測る。SE1040 に切られる。ST1023 を切る。平面形態はやや崩れた円形を呈する。底面は平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。

出土遺物 手づくねかわらけ (1 ~ 4)、および混入と思われる古代の土師器、須恵器などが出土した。手づくねかわらけ (1 ~ 4) は、口縁部外表面がナデにより面取りがなされる、いわゆる 2 段ナデが施される。年代は 12 世紀後半から 13 世紀前半であると思われる。



第262図 SK1445



第263図 SK1450

SK1465 (第264図)

位置 5-15 グリッド。

規模形態 長軸 3.50 m、短軸 3.01 m、検出面からの深さ 127 cm を測る。平面形態は橢円形を呈する。底面は平坦で、壁面はテラスを 2 段有する。

出土遺物 白磁碗(1)、手づくねかわらけ(2)、ロクロかわらけ(3~5)などが出土した。手づくねかわらけ(2)は口縁部と内面に軽くナデが施される。ロクロかわらけ(3)は底部が台状に高く作られ、坏部は非常に浅い。ロクロかわらけ(4)は磨滅しているが、底部に板状圧痕が認められる。年代は 13 世紀頃であると思われる。

SK4005 (第265図)

位置 11-6 グリッド。

規模形態 長軸 0.83 m、短軸 0.79 m、検出面からの深さ 63 cm を測る。平面形態は円形を呈する。底面はやや丸みを帯び、壁面は急に立ち上がる。土坑で登録したが、井戸である可能性がある。

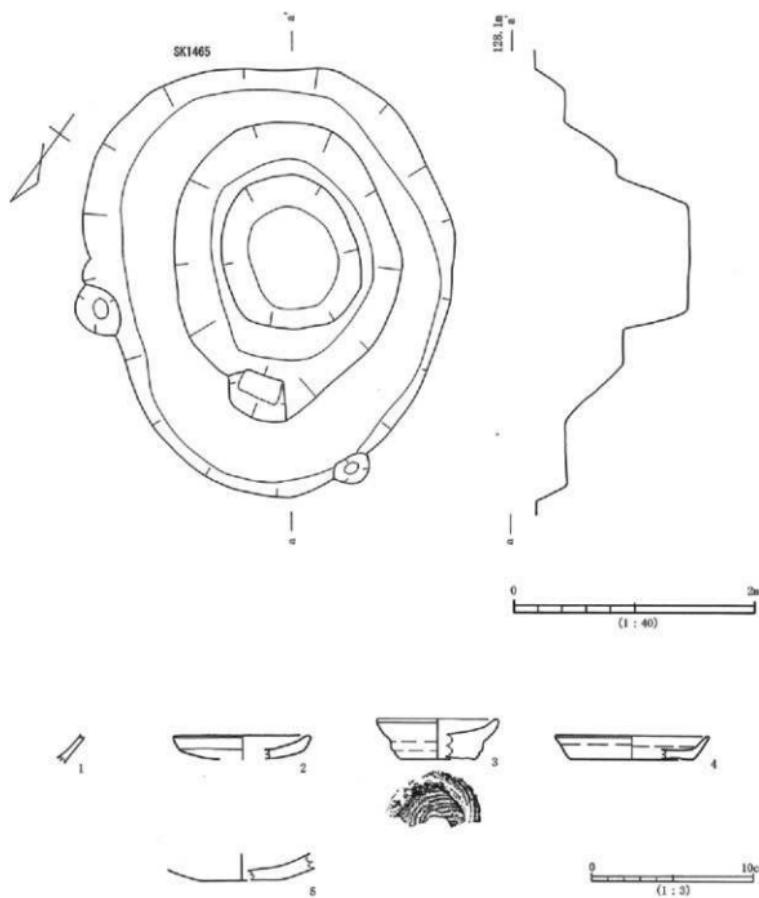
出土遺物 古瀬戸天目茶碗(1)のみ出土した。古瀬戸後期段階の製品であり、15 世紀の年代観が与えられる。

SK6019 (第265図)

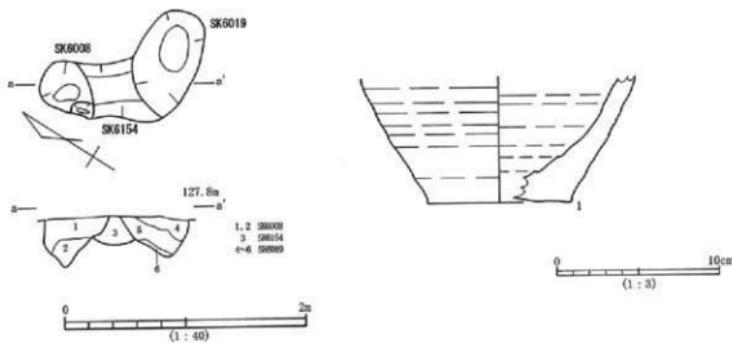
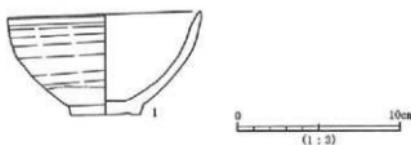
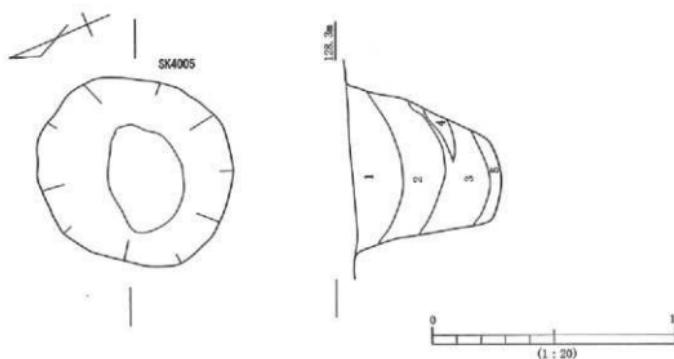
位置 10-7 グリッド。

規模形態 長軸 0.90 m、短軸 0.51 m、検出面からの深さ 31 cm を測る。平面形態は橢円形を呈する。底面は狭く、断面形態は三角形を呈する。

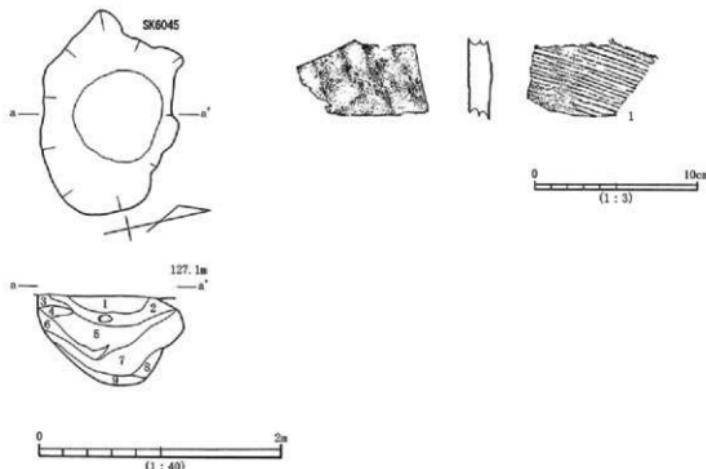
出土遺物 須恵器系陶器(1)のみ出土した。底部切離しは静止糸切りで、内面に強いナデが施される。



第264図 SK1465



第265図 SK4005・SK6019



第266図 SK6045

SK6045 (第266図)

位 置 12-7~12-8 グリッド。

規模形態 長軸 1.49 m、短軸 1.11 m、検出面からの深さ 73 cm を測る。平面形態は崩れた楕円形を呈する。底面は平坦だがやや狭く、壁面はオーバーハングする。

出土遺物 須恵器系陶器 (1)、および混入と考えられる古代の土師器、須恵器が出土した。

SK6067 (第267図)

位 置 12-8 グリッド。

規模形態 長軸 2.08 m、短軸 1.10 m、検出面からの深さ 42 cm を測る。SD6035 を切る。平面形態は楕円形を呈する。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。完形の瀬戸美濃系陶器皿 (1) が遺構底面から出土しており、これを埋設するための遺構であると考えられる。

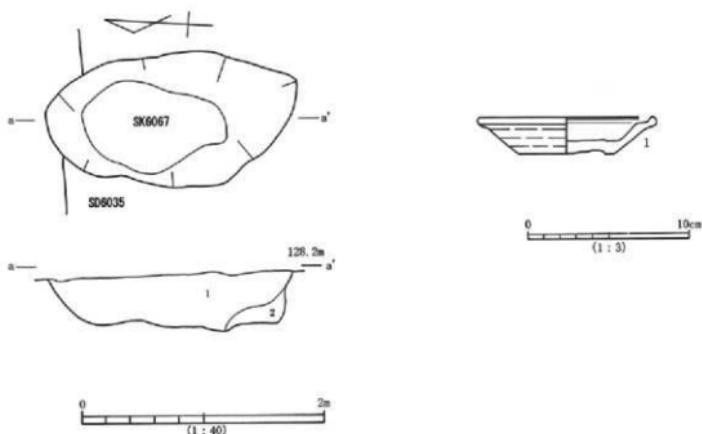
出土遺物 瀬戸美濃系陶器皿 (1) のみ出土した。いわゆる折縁皿で、大窯第3段階後半から第4段階前半の製品である。年代は 16 世紀後半であると思われる。

SK6080 (第268図)

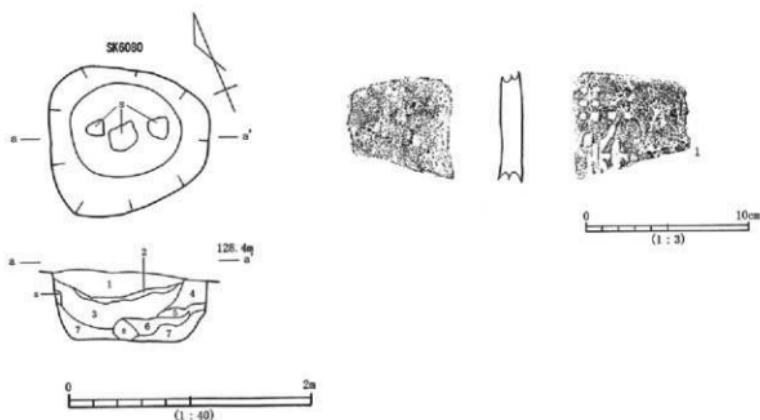
位 置 13-9 グリッド。

規模形態 長軸 1.31 m、短軸 1.14 m、検出面からの深さ 57 cm を測る。平面形態は円形を呈する。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。

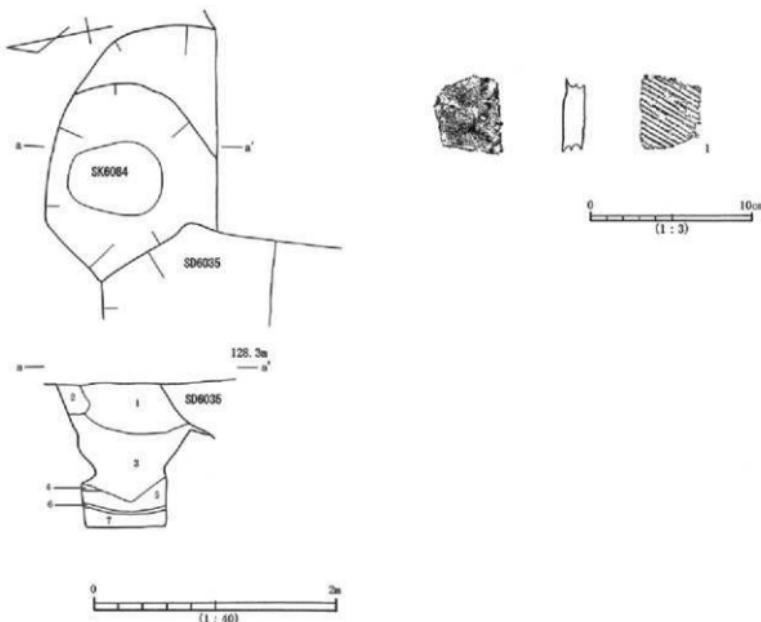
出土遺物 瓷器系陶器甕 (1) のみ出土した。



第267図 SK6067



第268図 SK6080



第269図 SK6084

SK6084 (第269図)

位 置 12-8グリッド。

規模形態 長軸 2.26 m、短軸 1.50 m、検出面からの深さ 117 cmを測る。SD6035に切られる。平面形態は橢円形を呈する。底面は平坦で、壁面は垂直に立ち上がる。土坑で登録したが、井戸の可能性がある。

出土遺物 須恵器系陶器甕(1)などが出土した。

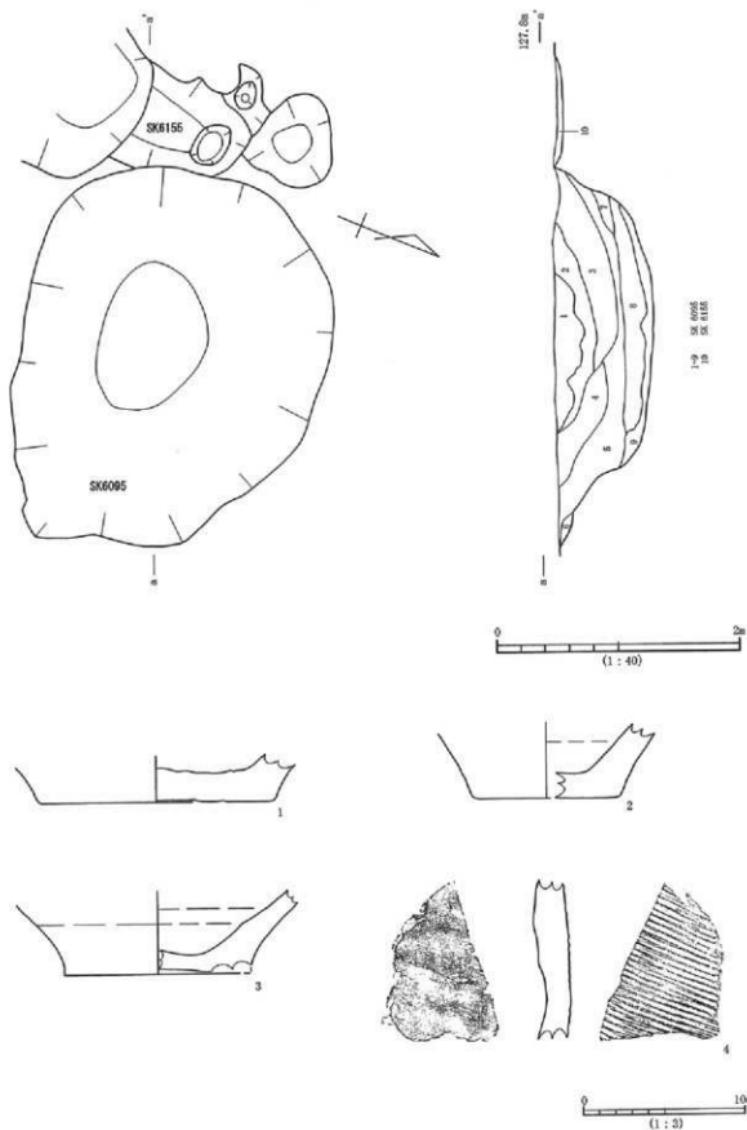
SK6095 (第270図)

位 置 9-8~10-8グリッド。

規模形態 長軸 3.10 m、短軸 2.50 m、検出面からの深さ 81 cmを測る。平面形態は橢円形を呈する。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。

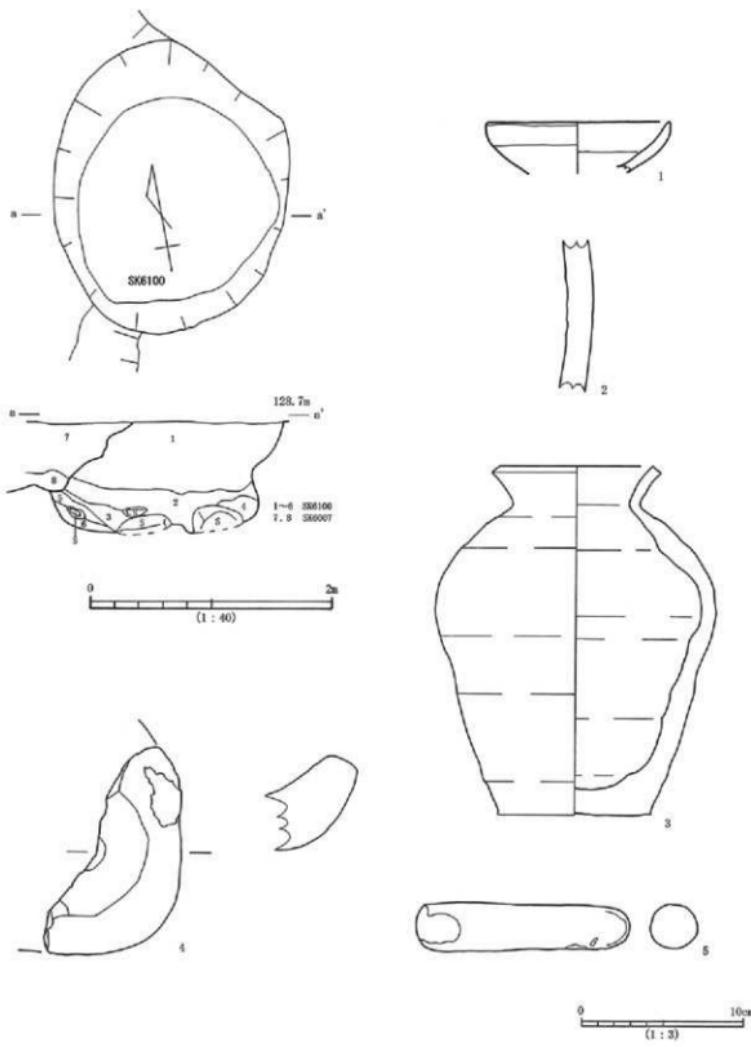
出土遺物 須恵器系陶器甕(1, 4)・壺(2, 3)、手づくねかわらけなどが出土した。年代は13世紀であると思われる。

IV 検出された遺構と遺物



第270図 SK6095

IV 検出された遺構と遺物



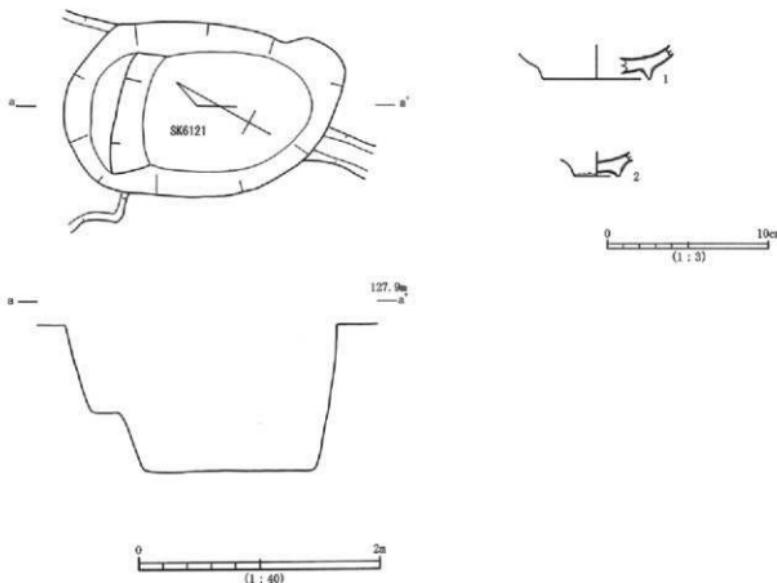
第271図 SK6100

SK6100 (第271図)

位置 10-7~10-8グリッド。

規模形態 長軸 1.93 m、短軸 1.82 m、検出面からの深さ 85 cmを測る。SD6007に切られる。平面形態は円形を呈する。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。土坑で登録したが、井戸である可能性がある。

出土遺物 手づくねかわらけ(1)、瓷器系陶器(2)、須恵器系陶器(3)、石皿(4)、棒状石製品(5)などが出土した。手づくねかわらけ(1)は口縁部と内面に軽くナデが施され、口縁部に若干煤が付着している。須恵器系陶器(3)は、肩がやや張り底部切離しは静止系切りであり、珠洲編年のII期に相当すると考えられる。年代は、13世紀であると思われる。



第272図 SK6121

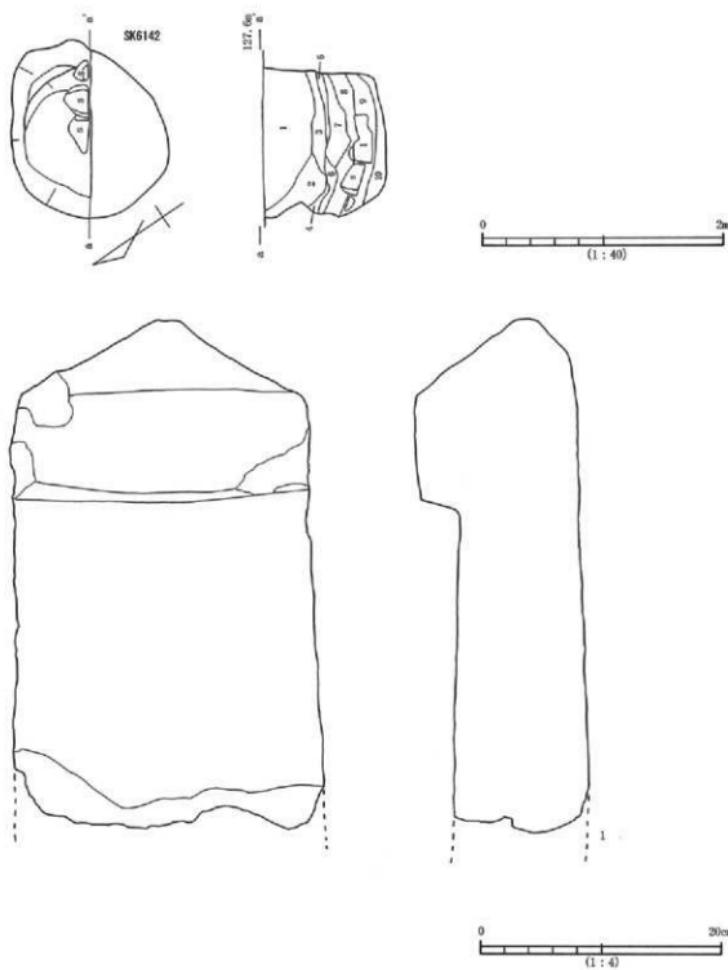
SK6121 (第272図)

位置 13-10グリッド。

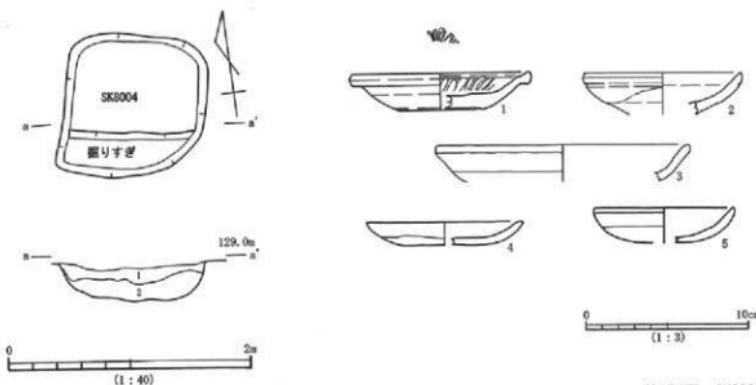
規模形態 長軸 2.31 m、短軸 1.41 m、検出面からの深さ 125 cmを測る。平面形態は橢円形を呈する。底面は平坦で、壁面は北壁に1段テラスを作り、そのほかは急に立ち上がる。

出土遺物 龍泉窯系青磁碗(1, 2)、および混入と思われる古代の土師器、須恵器が出土した。

IV 検出された遺構と遺物



第273図 SK6142



第274図 SK8004

SK6142(第273図)

位 置 14-9 グリッド。

規模形態 長軸 1.51 m、短軸 1.25 m、検出面からの深さ 101 cmを測る。平面形態は円形を呈する。底面は平坦で、壁面は垂直に立ち上がる。土坑で登録したが、井戸の可能性がある。調査期間の関係で、完掘することができなかつた。

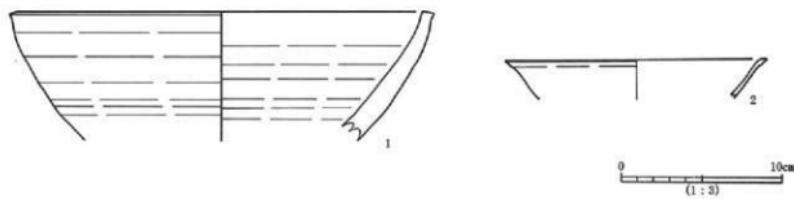
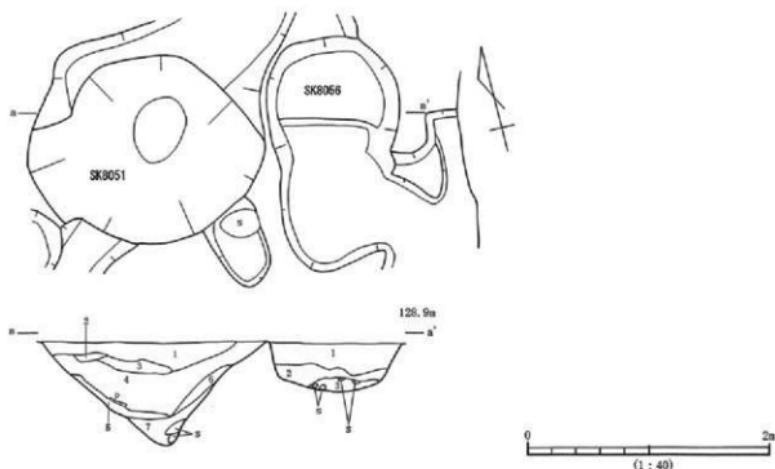
出土遺物 板碑(1)のみ出土した。頭頂部が三角形を呈する、いわゆる置型板碑である。9層から出土した。

SK8004(第274図)

位 置 16-20 グリッド。

規模形態 長軸 1.18 m、短軸 1.16 m、検出面からの深さ 28 cmを測る。平面形態は隅丸方形を呈する。底面はほぼ平坦で、壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 濑戸美濃系陶器皿(1)、肥前系陶器皿(2)、手づくねかわらけ(3~5)などが出土した。瀬戸美濃系陶器皿はいわゆる折縁皿で、大窯第3段階後半から第4段階前半の製品である。手づくねかわらけはナデにより口縁部が面取りされるタイプ(3)と、(3)と調整は同様だが小型のタイプ(5)、ナデが簡略化され浅く、かつ器壁が薄いタイプ(4)がある。年代は幅があり、手づくねかわらけは13世紀、陶器類は16世紀後半の所産であると思われる。



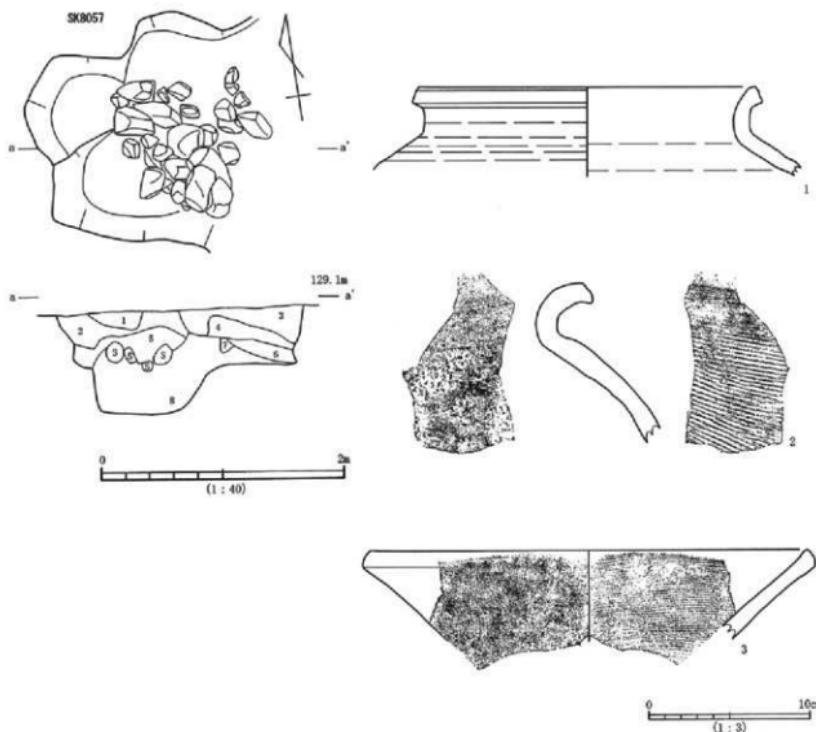
第275図 SK8051

SK8051 (第275図)

位 置 16-19 グリッド。

規模形態 長軸 1.95 m、短軸 1.53 m、検出面からの深さ 84 cmを測る。平面形態は円形を呈する。底面は非常に狭く、断面形態は三角形を呈する。

出土遺物 須恵器系陶器鉢 (1)、白磁碗 (2)、および混入と思われる古代の土師器が出土した。



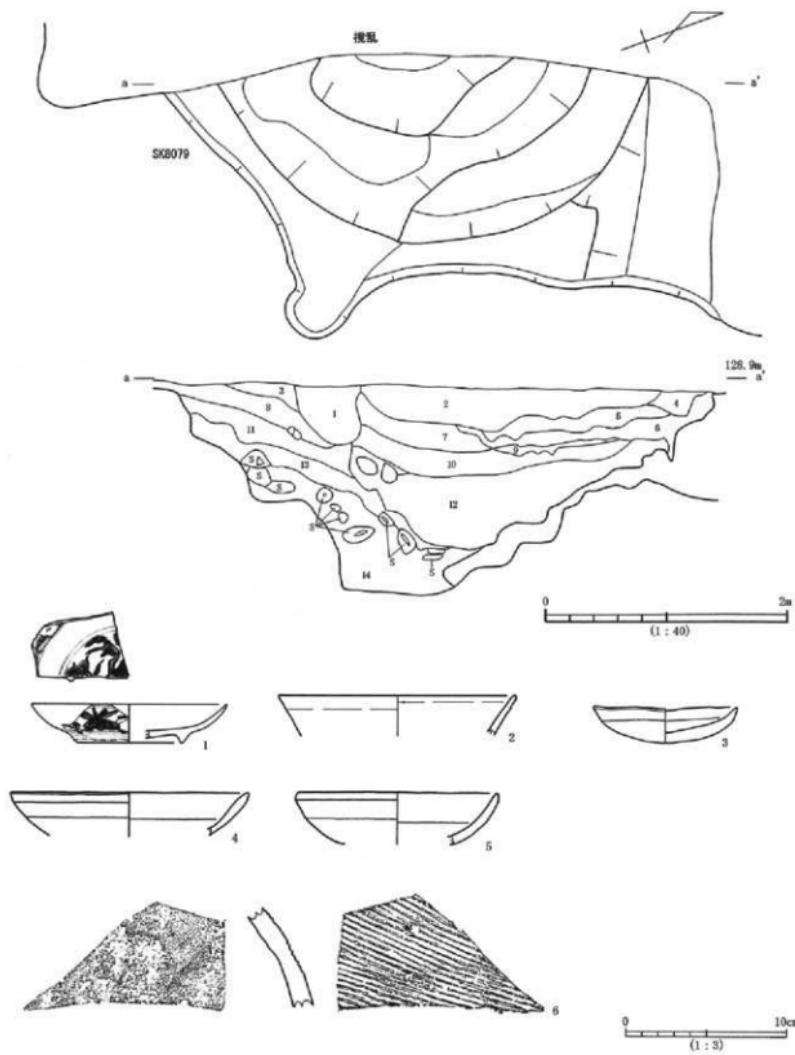
第276図 SK8057

SK8057 (第276図)

位 置 16-19 グリッド。

規模形態 長軸 2.05 m、短軸 1.84 m、検出面からの深さ 85 cmを測る。平面形態は不整形である。検出面付近で、拳から人頭大ほどの大きさの礫が検出された。底面は起伏に富み、壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 須恵器系陶器壺 (1)・甕 (2)、瓷器系陶器鉢 (3)、手づくねかわらけ、および混入と思われる古代の土師器、須恵器が出土した。



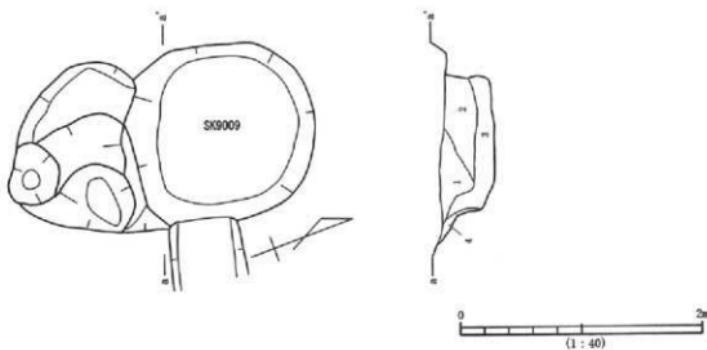
第277図 SK8079

SK8079 (第277図)

位 置 16-19グリッド。

規模形態 長軸3.54m、検出面からの深さ172cmを測る。西側が攪乱に切られる。平面形態は円形を呈する。底面は狭く平坦で、断面形態は三角形を呈する。

出土遺物 景徳鎮系磁器皿(1)、龍泉窯系青磁碗(2)、手づくねかわらけ(3~5)、須恵器系陶器壺(6)などが出土した。手づくねかわらけは、比較的ナデが丁寧に施され口縁部が面取りされ段を有するタイプ(4、5)と、ナデが簡略化され底部が厚く丸みを帯びるタイプ(3)がある。年代は、13世紀であると思われる。景德鎮系磁器皿(1)は、本遺構を切る近代以降の攪乱から出土した遺物を混同して取り上げてしまったものと考えられる。



0 10cm
(1 : 3)

第278図 SK9009

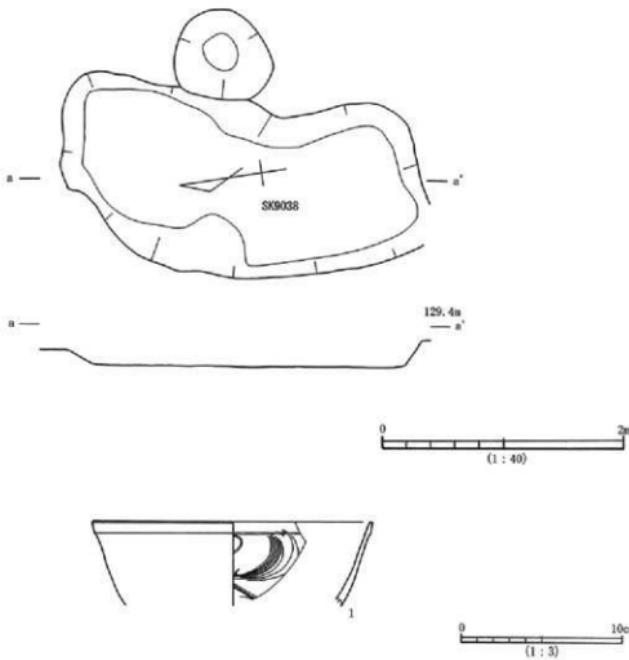
IV 検出された遺構と遺物

SK9009 (第278図)

位置 17-11 グリッド。

規模形態 長軸 1.51 m、短軸 1.45 m、検出面からの深さ 42 cm を測る。平面形態は円形を呈する。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 龍泉窯系青磁碗 (1)、および混入と思われる古代の土師器、須恵器が出土した。龍泉窯系青磁碗 (1) は内面および見込みに片彫による施文が認められる、龍泉窯系青磁碗 I 類である。年代は 13 世紀であると思われる。



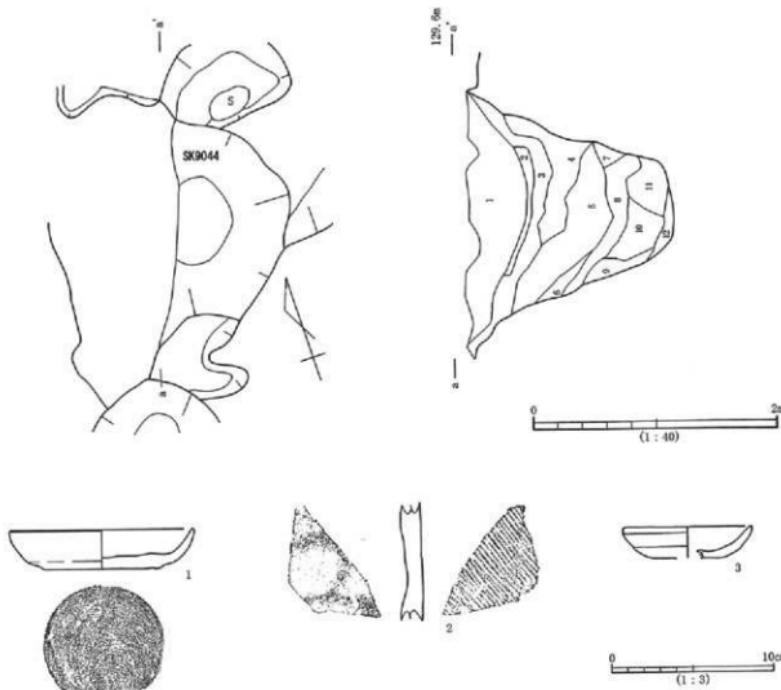
第279図 SK9038

SK9038 (第279図)

位置 16-11 グリッド。

規模形態 長軸 2.94 m、短軸 1.45 m、検出面からの深さ 16 cm を測る。平面形態はやや崩れた隅丸方形を呈する。底面は平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。

出土遺物 龍泉窯系青磁碗 (1)のみ出土した。内面に片彫による施文がなされる、龍泉窯系青磁碗 I 類である。年代は 13 世紀であると思われる。



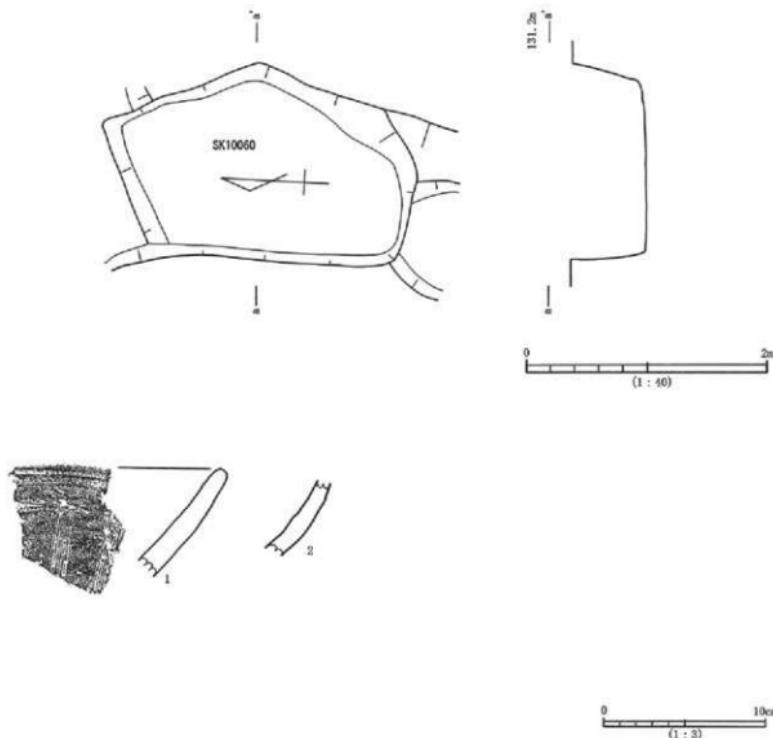
第280図 SK9044

SK9044 (第280図)

位置 17-11 グリッド。

規模形態 長軸 1.90 m、検出面からの深さ 168 cm を測る。平面形態は円形を呈する。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。土坑で登録したが井戸である可能性がある。調査期間の関係で完掘することができなかつた。

出土遺物 ロクロかわらけ (1)、手づくねかわらけ (3)、須恵器系陶器甕 (2) などが出土した。



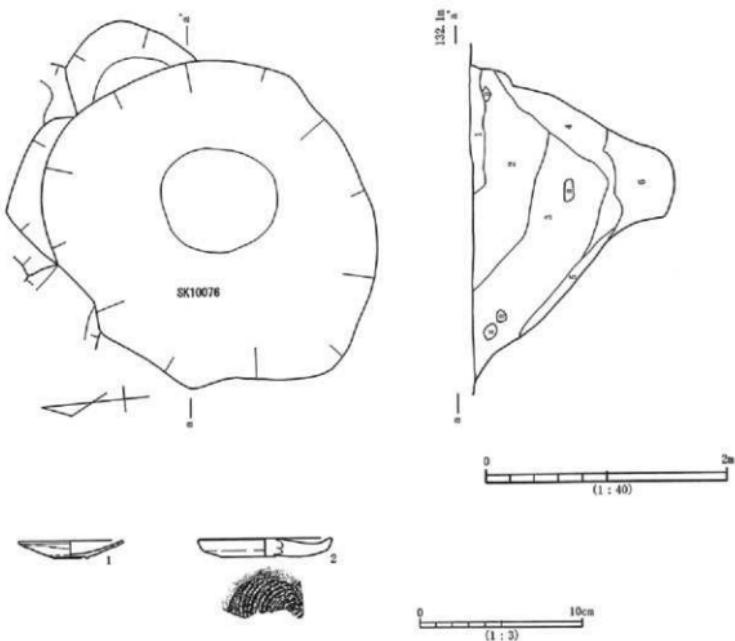
第281図 SK10060

SK10060 (第281図)

位置 17-17 グリッド。

規模形態 長軸2.60m、短軸1.56m、検出面からの深さ58cmを測る。平面形態はややくずれた方形を呈する。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 变器系陶器擂鉢(1)、古瀬戸瓶子(2)などが出土した。



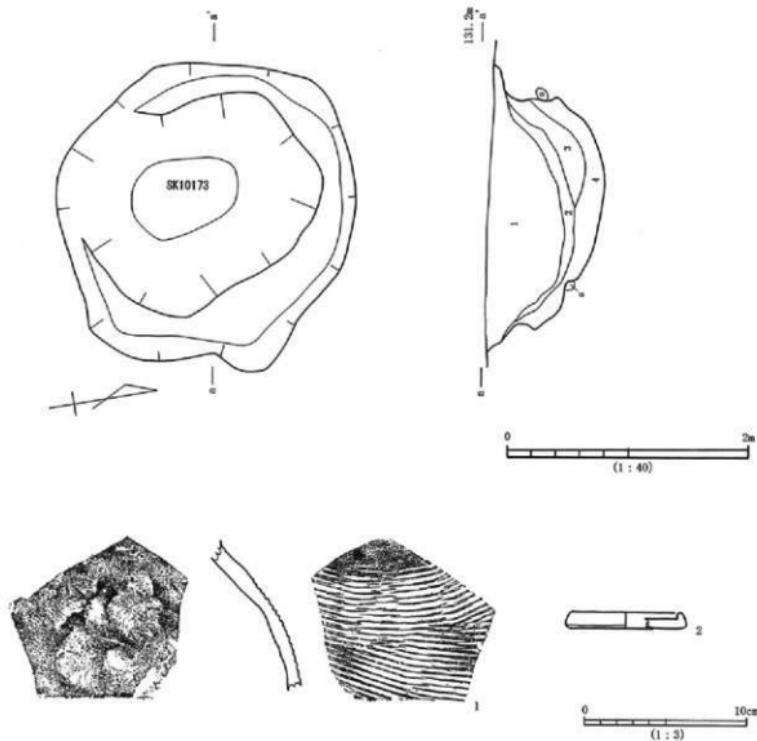
第282図 SK10076

SK10076 (第282図)

位置 16-17 グリッド。

規模形態 長軸 2.80 m、短軸 2.57 m、検出面からの深さ 164 cmを測る。平面形態は円形を呈する。底面は狭くやや丸みを帯び、断面形態は三角形を呈する。土坑で登録したが、井戸である可能性がある。

出土遺物 白磁皿 (1)、ロクロかわらけ (2)、龍泉窯系青磁、および混入と思われる古代の土師器、須恵器等が出土した。白磁皿 (1) は器壁が非常に薄く、高台が小さく低い。ロクロかわらけ (2) は、皿形で底部はやや厚く、深さが浅い。年代は 13~14 世紀であると思われる。



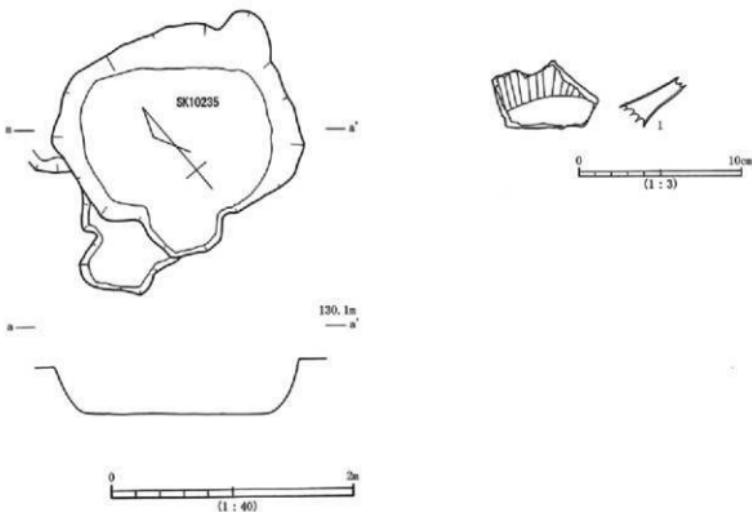
第283図 SK10173

SK10173 (第283図)

位 置 12-16 グリッド。

規模形態 長軸 2.73 m、短軸 2.34 m、検出面からの深さ 94 cmを測る。底面は丸みを帯び、壁面はややオーバーハングしながら立ち上がる。

出土遺物 須恵器系陶器甕(1)、手づくねかわらけ(2)、ロクロかわらけなどが出土した。手づくねかわらけ(2)は、底径が大きく口縁部の断面が三角形を呈する、いわゆるコースター型かわらけである。図化していないが、他の手づくねかわらけはナデが比較的丁寧で口縁端部が面取りされているタイプが多い。年代は13世紀であると思われる。



第284図 SK10235

SK10235 (第284図)

位置 12-16 グリッド。

規模形態 長軸 1.93 m、短軸 1.82 m、検出面からの深さ 39 cmを測る。平面形態はやや崩れた円形を呈する。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。

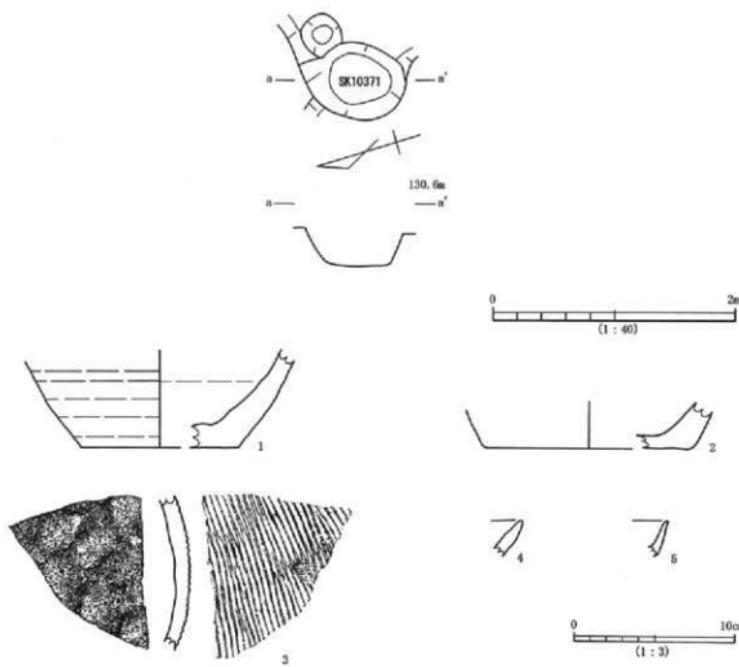
出土遺物 龍泉窯系青磁盤 (1) のほかは、混入と思われる古代の土師器 1点が出土しているのみである。

SK10371 (第285図)

位置 14-14 グリッド。

規模形態 長軸 0.84 m、短軸 0.62 m、検出面からの深さ 32 cmを測る。平面形態は橢円形を呈する。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 須恵器系陶器壺 (1, 2)・壺 (3)、ロクロかわらけ (4, 5) などが出土した。



第285図 SK10371

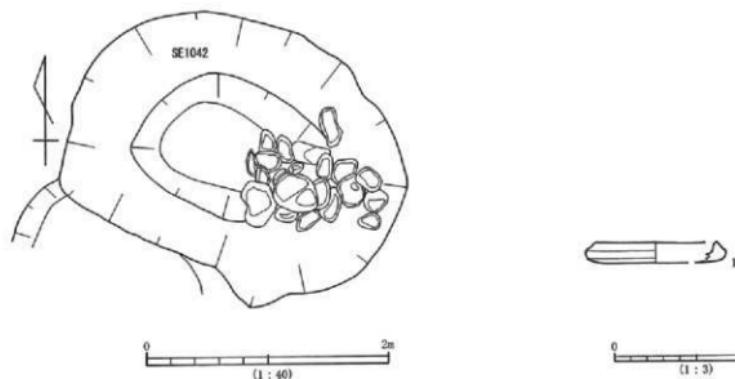
(3) 井戸

SE1042 (第286図)

位置 3-16~4-16 グリッド。

規模形態 長軸 2.86 m、短軸 1.20 m、検出面からの深さ 89 cm を測る。平面形態は梢円形を呈する。東よりの底面から壁面にかけて、10~30 cm の礫が検出された。これは、井戸に付属する施設ではなく、廃棄された礫であると思われる。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 手づくねかわらけ (1)、須恵器系陶器壺、および混入と思われる古代の土師器、須恵器が出土した。手づくねかわらけ (1) は、底径が大きく口縁部の断面形態が三角形を呈する、いわゆるコースター型かわらけである。年代は 13 世紀であると思われる。



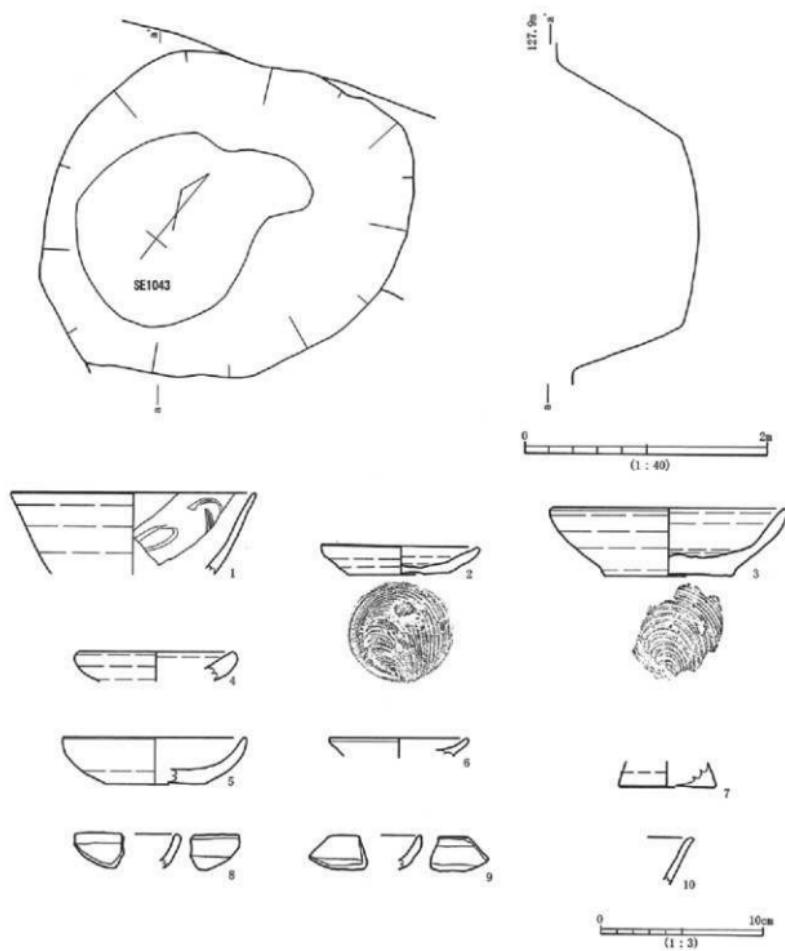
第286図 SE1042

SE1043 (第287図)

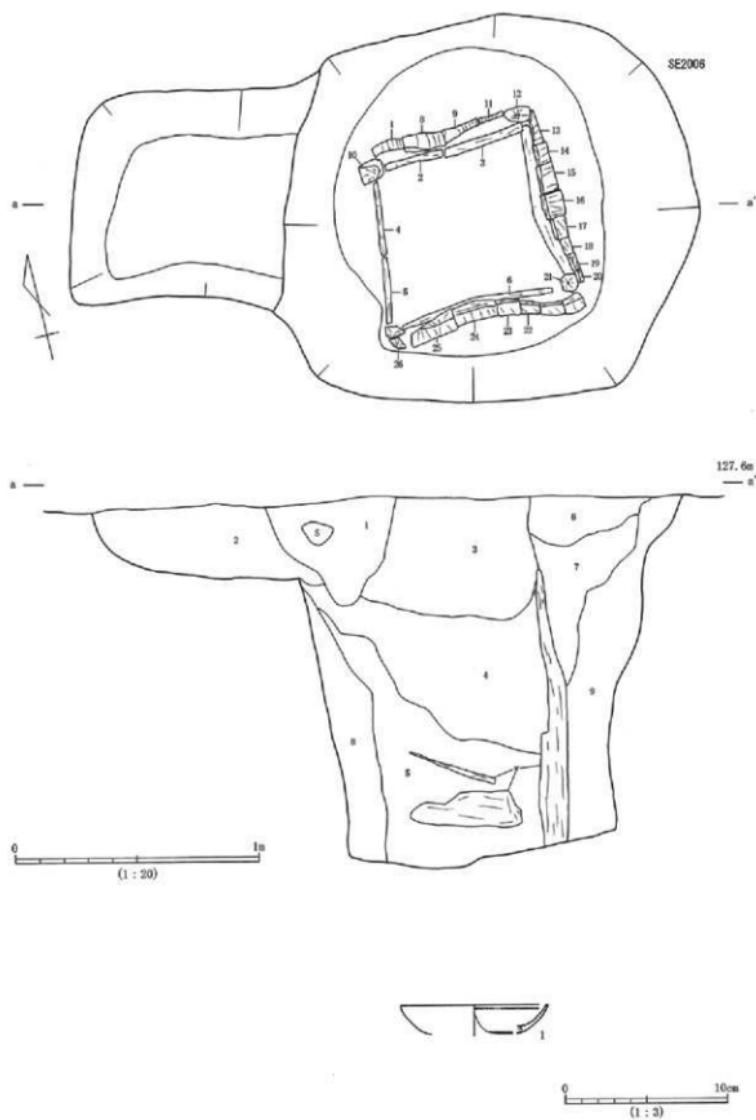
位置 3-15 グリッド。

規模形態 長軸 3.24 m、短軸 2.68 m、検出面からの深さ 109 cm を測る。平面形態はやや崩れた梢円形を呈する。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 龍泉窯系青磁碗 (1)、ロクロかわらけ (2~6)、柱状高台 (7)、手づくねかわらけ (8, 9)、および混入と思われる灰釉陶器碗 (10) などが出土した。龍泉窯系青磁碗 (1) は、内面に片影で劃花文を描く龍泉窯系青磁碗 1 類である。ロクロかわらけは、厚手で口径が小さいタイプ (4)、薄手で口径が小さいタイプ (2, 6)、底部が厚く口径が大きく内底面に強いナデを残すタイプ (3)、法量や厚さで (2, 6) と (3) の中間に位置するタイプ (5) など、バリエーションが豊富である。手づくねかわらけは口縁端部が面取りされるタイプ (9) と、ナデが比較的簡略化されたタイプ (8) がある。年代は 13 世紀であると思われる。

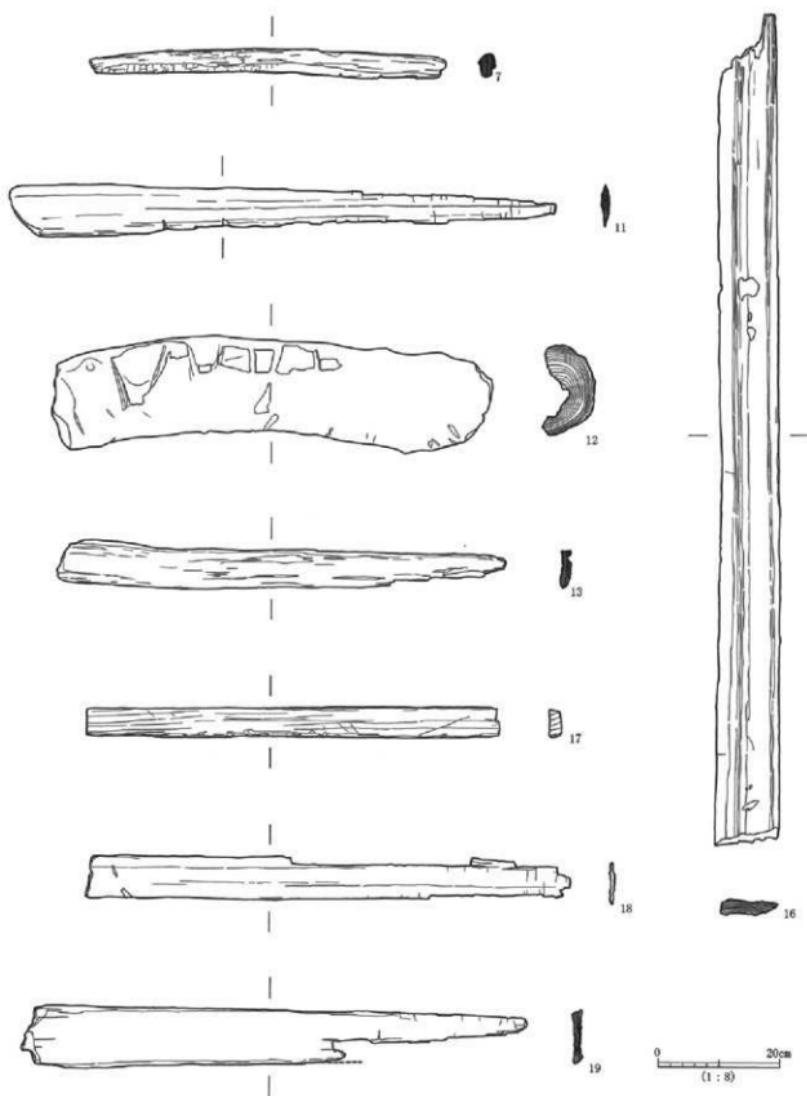


第287図 SE1043

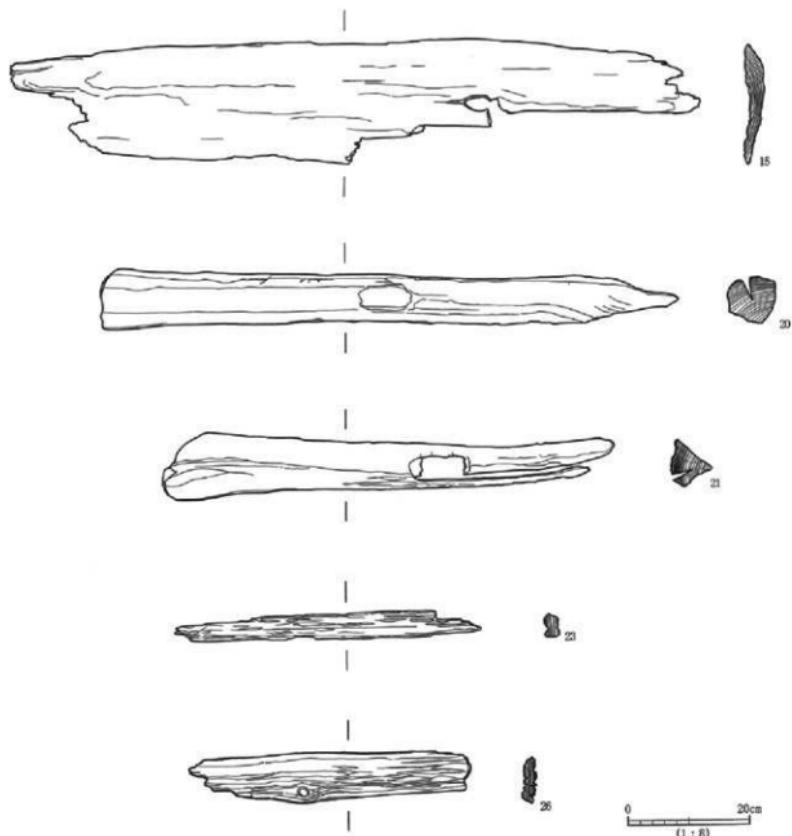


第288図 SE2006(1)

IV 検出された遺構と遺物



第289図 SE2006井戸枠部材(1)



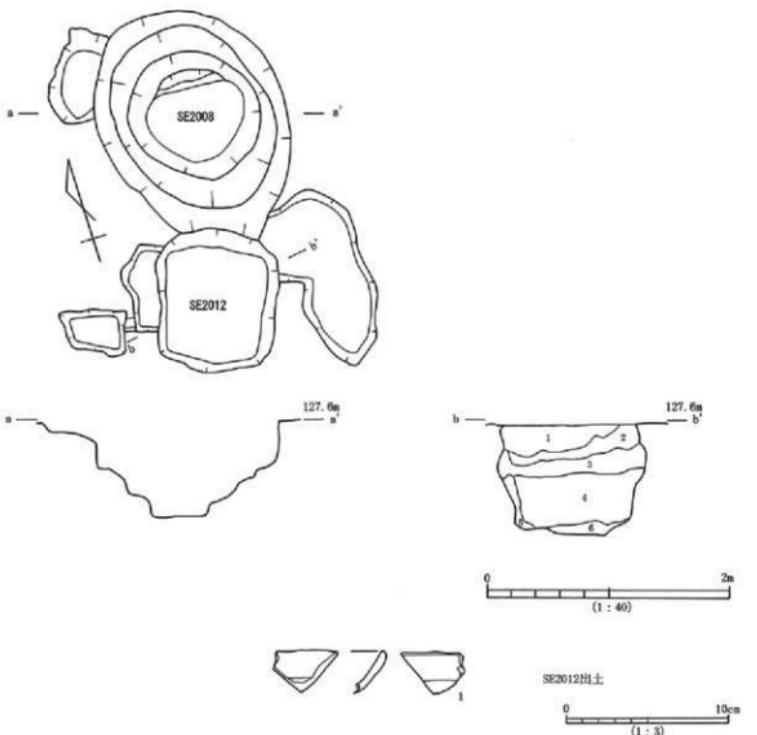
第290図 SE2006井戸枠部材(2)

SE2006(第288~290図)

位置 2-19 グリッド。

規模形態 挖り方 $3.43\text{ m} \times 3.18\text{ m}$ 、木組 $1.24\text{ m} \times 1.18\text{ m}$ 、検出面からの深さ 150 cm を測る。平面形態は隅丸方形を呈する。木組みの井戸で、部材は縦方向に組まれ、隅柱に横棟をわたして縦材を固定する構造が認められる。

出土遺物 景徳鎮系磁器皿(1)や肥前系陶器、および混入と思われる古代の土師器、須恵器が出土した。景德鎮系磁器皿(1)は掘り方から出土し、内湾する小皿で内面に界線が2本めぐらされる。図化しなかつたが出土した肥前系陶器は、形状や釉薬の特徴から胎土目段階の製品であると考えられる。年代は16世紀末であると思われる。



第291図 SE2008・SE2012

S E 2 0 0 8 (第291図)

位 置 2-19グリッド。

規模形態 長軸 2.04 m、短軸 1.51 m、検出面からの深さ 78 cmを測る。平面形態は楕円形を呈する。底面は平坦で、壁面はテラスを 2段作りながら立ち上がる。

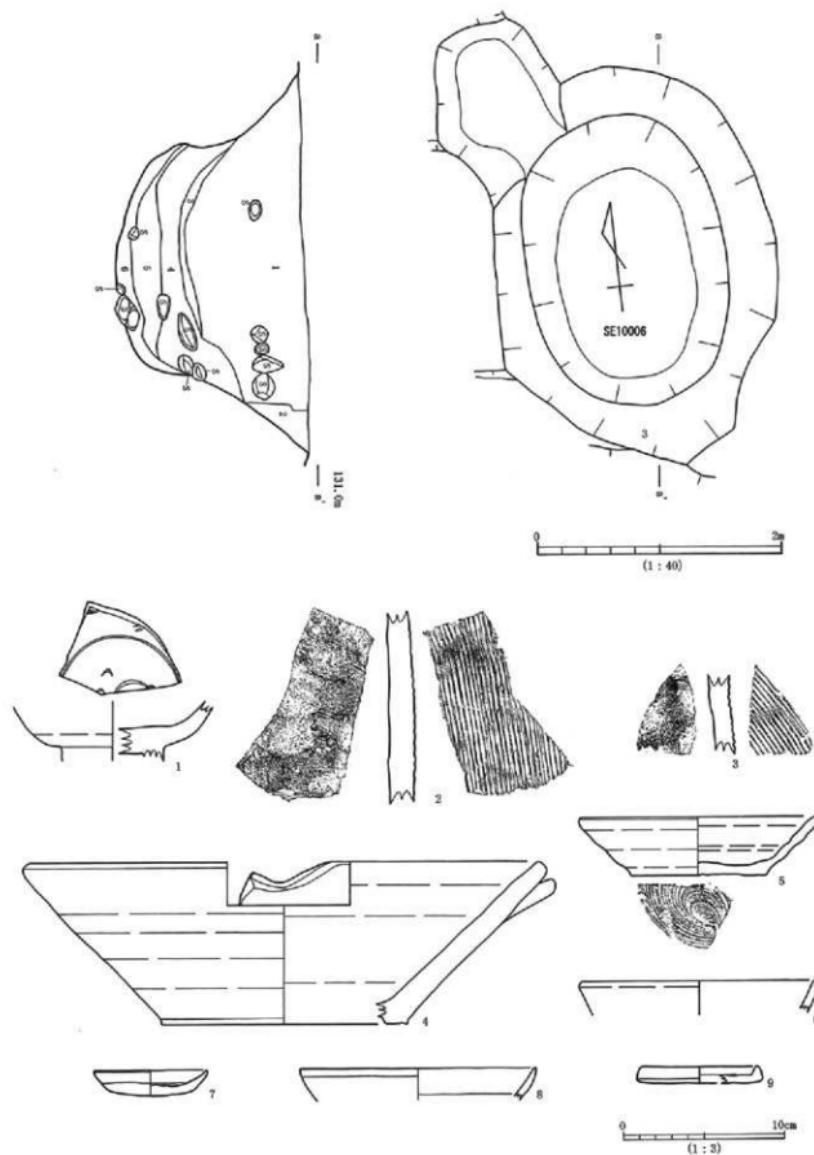
出土遺物 出土遺物はない。詳細な年代も不明で、便宜的に中世の項目に掲載した。

S E 2 0 1 2 (第291図)

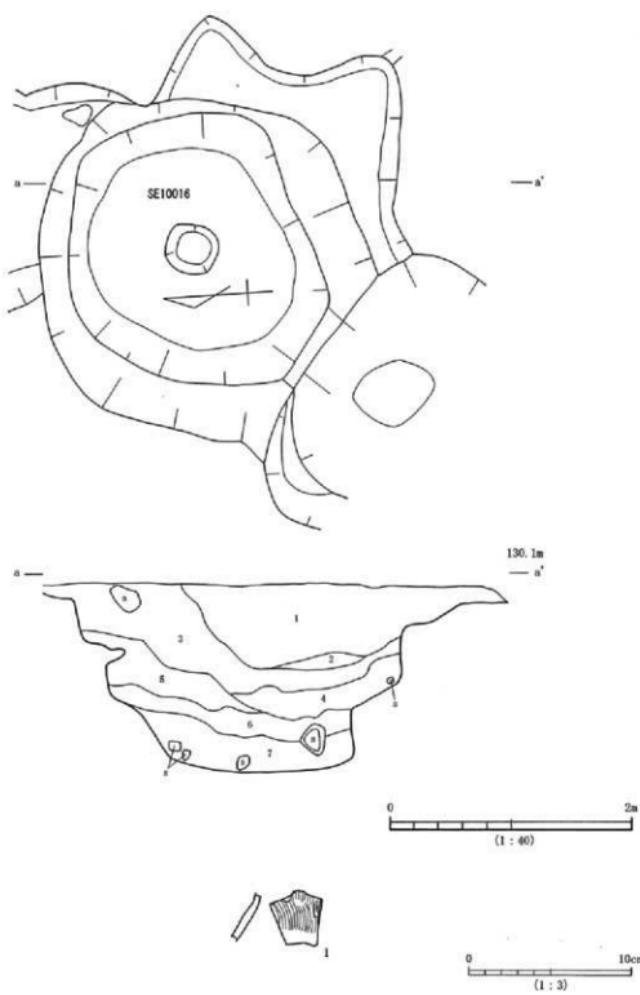
位 置 2-19グリッド。

規模形態 長軸 1.18 m、短軸 0.94 m、検出面からの深さ 90 cmを測る。平面形態は方形を呈する。底面は平坦で、壁面は垂直に立ち上がる。

出土遺物 手づくねかわらけ(1)、および混入と思われる古代の土師器、須恵器が出土した。手づくねかわらけ(1)は、口縁端部がナデにより面取りされる。年代は13世紀であると思われる。



第292図 SE10006



第293図 SE10016

S E 1 0 0 0 6 (第292図)

位置 16 - 17 ~ 17 - 17 グリッド。

規模形態 長軸 2.18 m、短軸 1.13 m、検出面からの深さ 163 cm を測る。平面形態は梢円形を呈する。底面はやや丸みを帯び、壁面は急に立ち上がる。土層中には廃棄されたと考えられる礫が目立つ。

出土遺物 龍泉窯系青磁碗 (1)、須恵器系陶器壺 (2, 3)、瓷器系陶器片口鉢 (4)、ロクロかわらけ (5, 6)、手づくねかわらけ (7 ~ 9) などが出土した。龍泉窯系青磁碗 (1) は、内面に片彫で劃花文が描かれる龍泉窯系青磁碗 I 類である。瓷器系陶器片口鉢 (4) は外面にケズリが施され、高台が貼り付けられる。ロクロかわらけ (5) は、外面に強いナデが認められる。手づくねかわらけは、ナデが簡略化され浅いタイプ (7) と、前者よりナデが丁寧で口縁端部が面取りされるタイプ (8)、底径が大きく口縁部の断面が三角形を呈するいわゆるコースター型かわらけ (9) がある。年代は 13 世紀であると思われる。

S E 1 0 0 1 6 (第293図)

位置 12 - 16 グリッド。

規模位置 長軸 2.84 m、短軸 2.64 m、検出面からの深さ 156 cm を測る。平面形態は円形を呈する。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。

出土遺物 同安窯系青磁碗 (1) などが出土した。年代は 12 ~ 13 世紀であると思われる。

(4) 溝

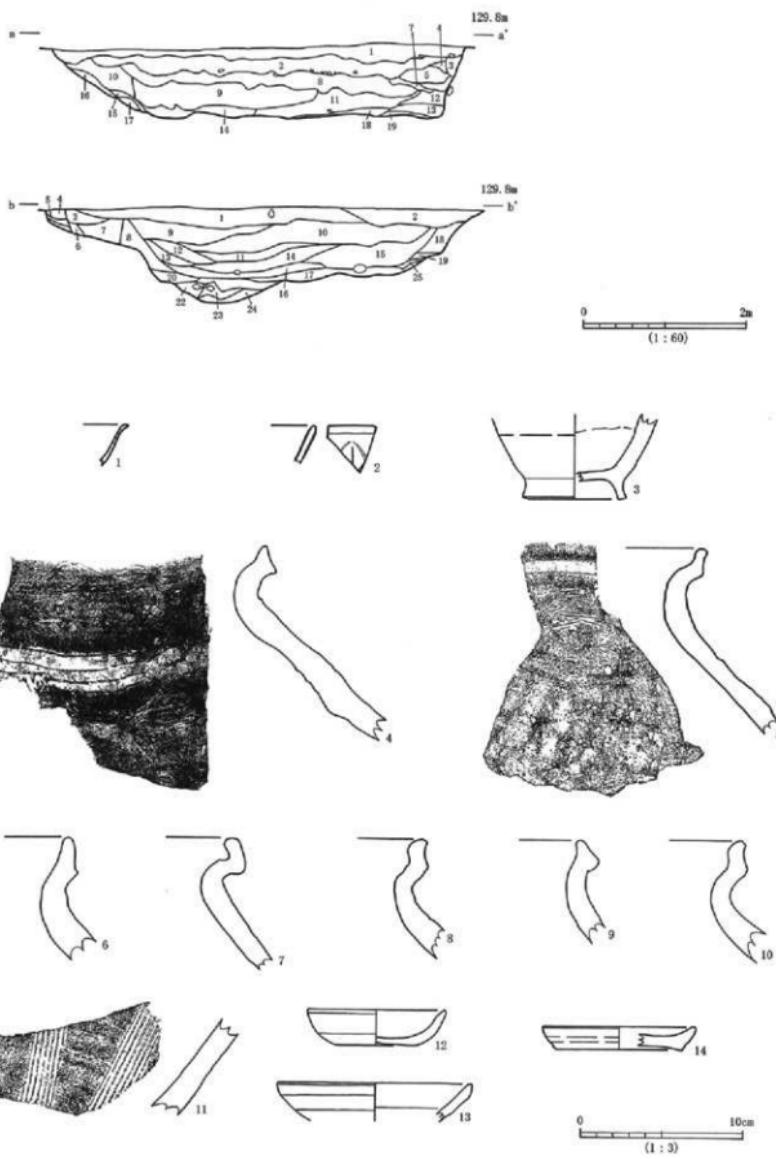
S D 1 2 0 (第294~296図、遺構平面図は付図参照)

位置 9 - 18 ~ 10 - 21 グリッド。

規模形態 検出された長さ 東西 25.8 m × 南北 64.3 m、幅 4.8 m 前後、検出面からの深さ 90 ~ 120 cm を測る。L 字状に屈曲する溝である。西側と南側は調査区外にかかる。底面はほぼ平坦で、壁面は急に立ち上がる。調査期間の関係で完掘することができなかった。

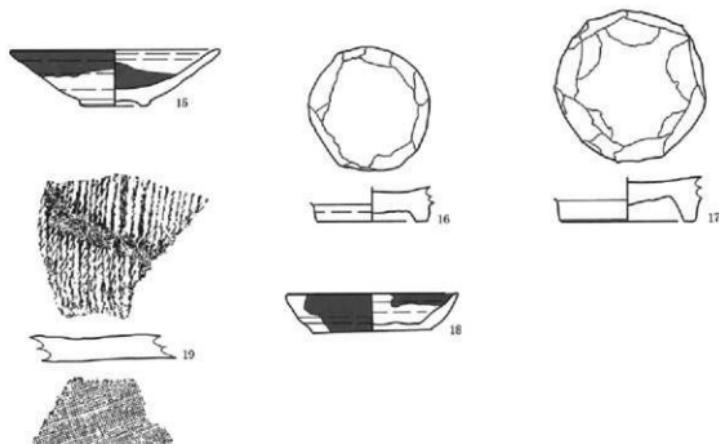
出土遺物 白磁皿 (1)、龍泉窯系青磁碗 (2)、古瀬戸四耳壺 (3)、瓷器系陶器壺 (4 ~ 10, 23 ~ 25)、瓷器系陶器擂鉢 (11)、手づくねかわらけ (12, 13)、ロクロかわらけ (14, 18)、肥前系陶器皿 (15 ~ 17)、平瓦 (19)、古銭 (20, 21)、釘 (22)、五輪塔空風輪 (26 ~ 29)・水輪 (30, 31) などが出土した。白磁皿 (1) は蠟反の皿で、白磁皿 E 群である。龍泉窯系青磁碗 (2) は、外面に鎬蓮弁文が描かれる、龍泉窯系青磁碗 II 類である。瓷器系陶器壺は口縁部が受け口状を呈するタイプが多い。手づくねかわらけは、口径が小さく底部がやや盛り上がるタイプ (12) と、ナデにより口縁端部が面取りされるタイプ (13) がある。ロクロかわらけは、底径と口径の差がありなく浅いタイプ (14) と、前者より深くやや厚手で内底面に強いナデが施されるタイプ (18) がある。肥前系陶器皿はすべて砂目で、高台のみ円形に意図的に打ちかかれているものがある (16, 17)。五輪塔空風輪はすべて空輪と風輪の間に区画する溝が走り、空輪がややつぶれた五角形を呈するタイプ (26) と、空輪がやや丸みを帯びるタイプ (27, 28) と、細身で空輪と風輪の径にあまり差がないタイプ (29) に細分できる。年代は幅があり、13 世紀から 17 世紀前半であると思われる。

IV 検出された遺構と遺物

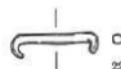


第294図 SD120(1)

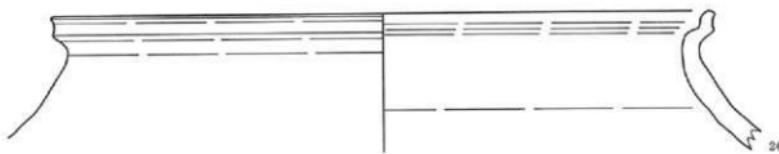
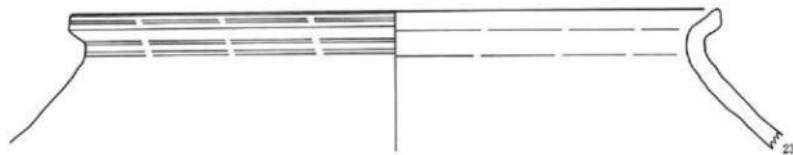
IV 検出された遺構と遺物



0 (15~19) 10cm
(1 : 2)

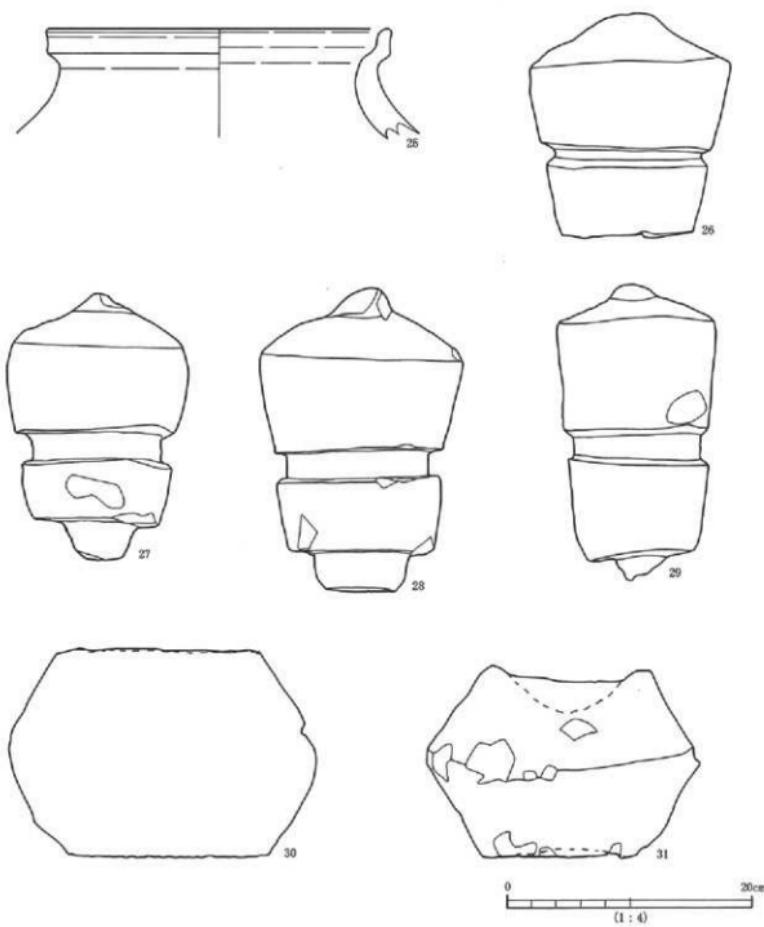


0 (20~22) 10cm
(1 : 2)

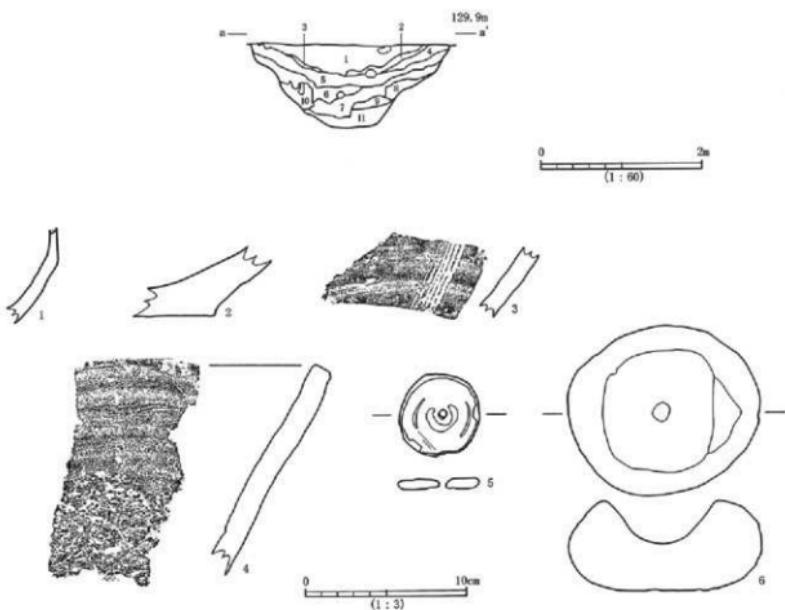


0 (23 : 24) 20cm
(1 : 4)

第295図 SD120(2)



第296図 SD120(3)



第297図 SD1001

SD1001 (第297図、遺構平面図は付図参照)

位置 7-10~9-10グリッド。

規模形態 検出された長さ40.6m、幅2.3m前後、検出面からの深さ90~110cmを測る。東西に直線的に走る溝である。東側は擾乱に切られる。底面はほぼ平坦で、壁面は急に立ち上がる。調査期間の関係で完掘することができなかった。

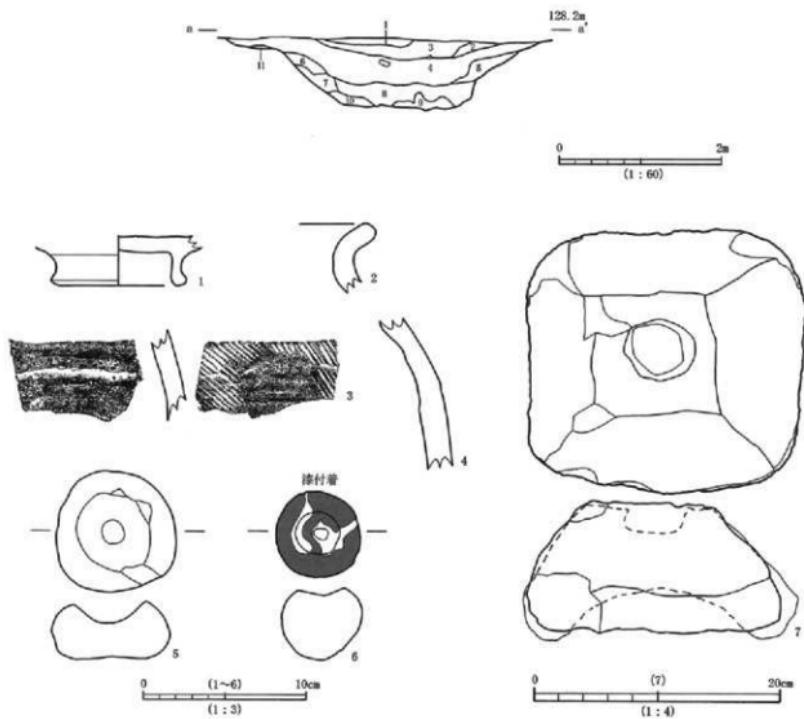
出土遺物 濑戸美濃系陶器天目茶碗(1)、須恵器系陶器鉢(2)・擂鉢(3)、瓷器系陶器鉢(4)、円盤状土製品(5)、石鉢(6)などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は14~16世紀であると思われる。

SD1005 (第298図、遺構平面図は付図参照)

位置 6-10~7-10グリッド。

規模形態 検出された長さ28.7m、幅4.0m前後、検出面からの深さ80~100cmを測る。東西に直線的に走る溝である。東側は調査区外にかかる。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。SD1001とは約5mの間隔の土橋状の施設を隔てて同一線上にあるので、なんらかの関係があると推定できる。調査期間の関係で完掘することができなかった。

出土遺物 古瀬戸花瓶(1)、須恵器系陶器甕(2~3)、瓷器系陶器甕(4)、石鉢(5, 6)、五輪塔火輪(7)などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は14世紀頃であると思われる。



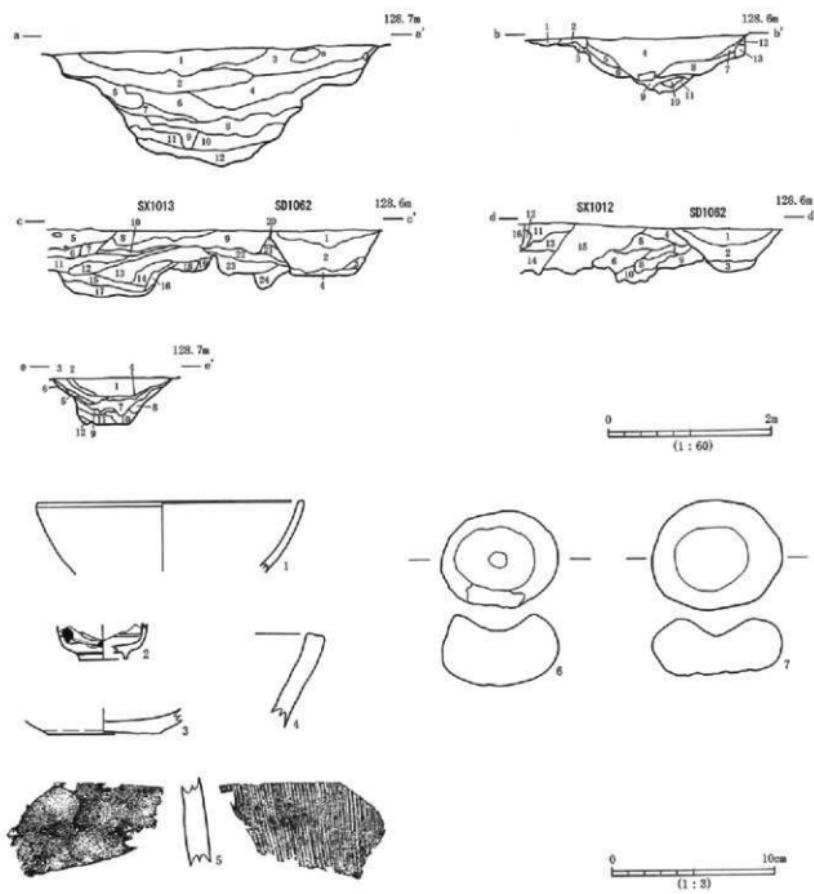
第298図 SD1005

SD1062 (第299~300図、遺構平面図は付図参照)

位 置 7-12~8-12グリッド。

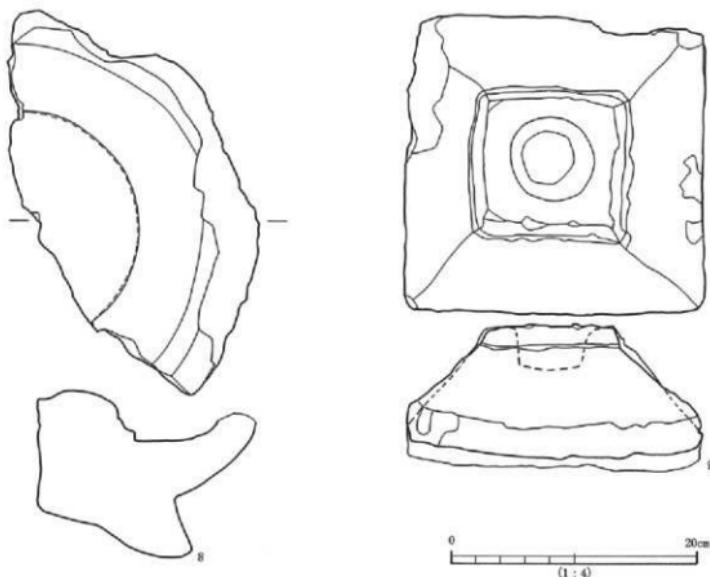
規模形態 検出された長さ 39.0 m、幅 1.3 m 前後、検出面からの深さ 50 ~ 140 cm を測る。東西に直線的に走る溝である。SX1013 を切る。底面はほぼ平坦で、壁面は急に立ち上がる。調査期間の関係で完掘することができなかった。

出土遺物 龍泉窯系青磁碗 (1)、景德鎮系磁器小壺 (2)、瀬戸美濃系陶器志野丸皿 (3)、瓷器系陶器鉢 (4)、須恵器系陶器壺 (5)、石鉢 (6, 7)、茶白 (8)、五輪塔火輪 (9) などが出土した。年代は幅があり、13世紀から17世紀初頭であると思われる。

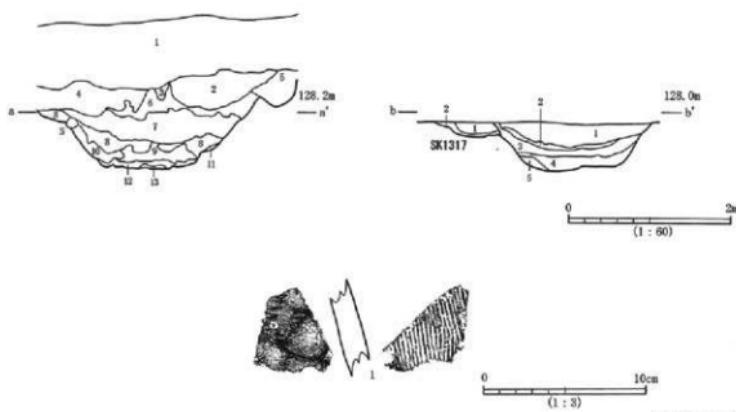


第299図 SD1062(1)

IV 検出された遺構と遺物

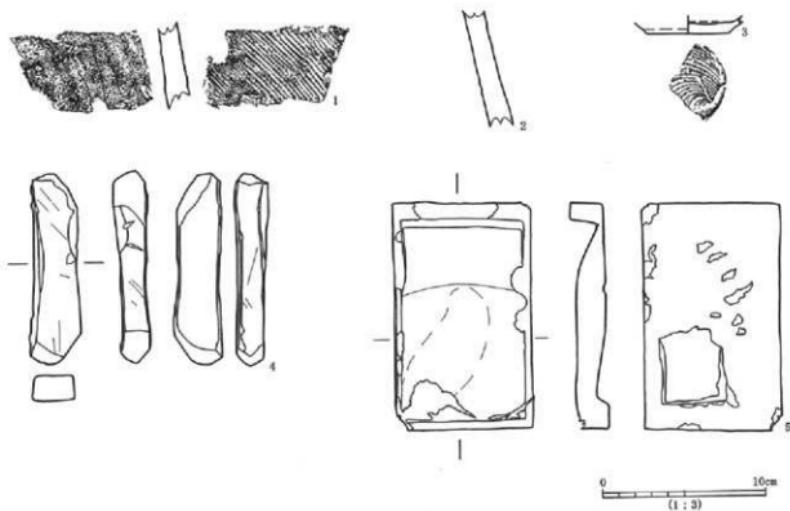
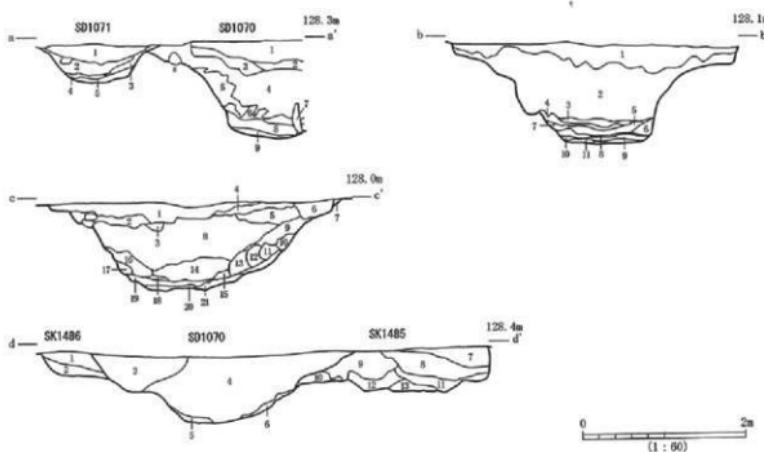


第300図 SD1062 (2)



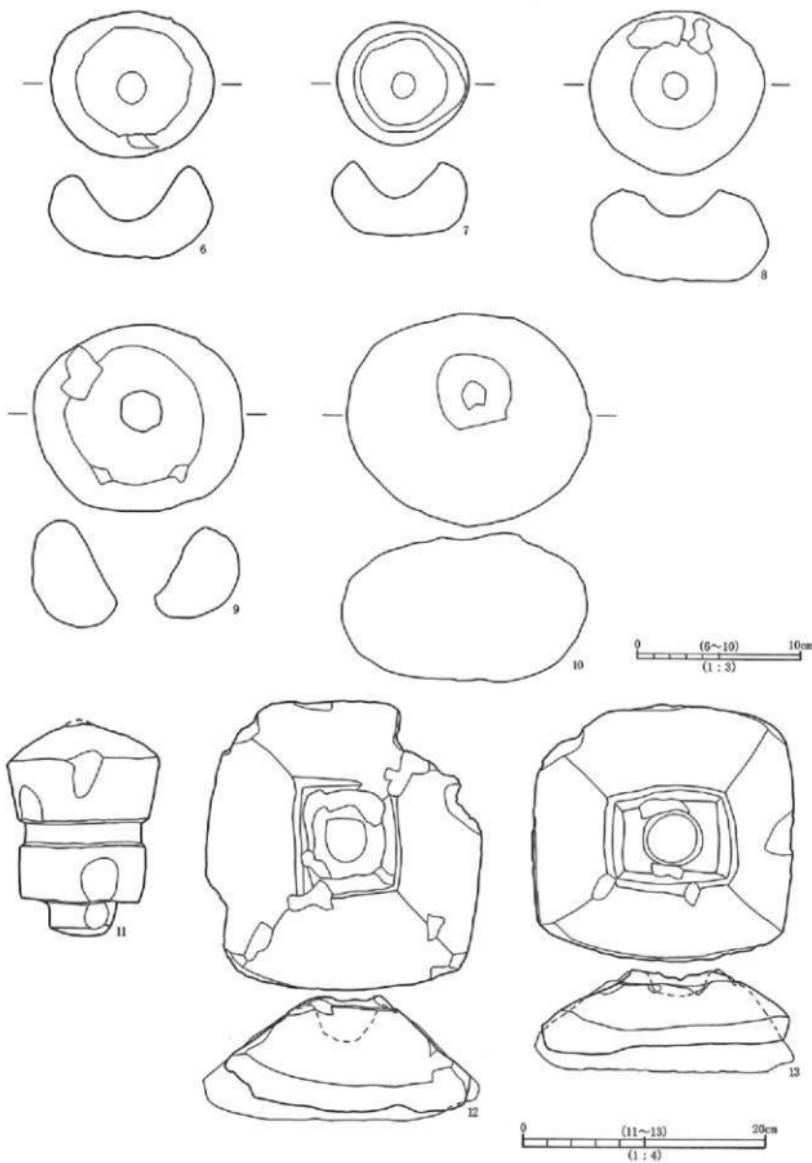
第301図 SD1068

IV 検出された遺構と遺物



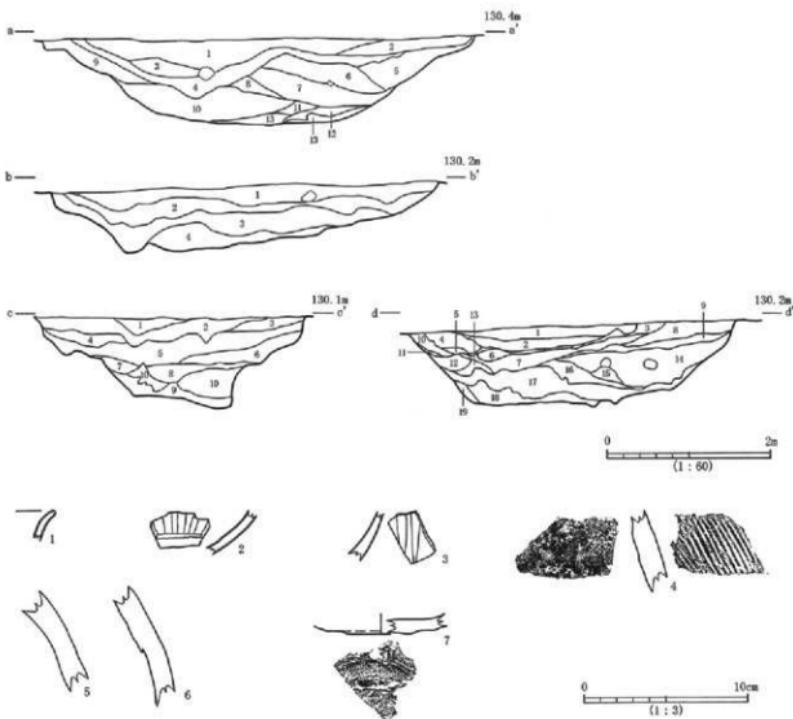
第302図 SD1070(1)

IV 検出された遺構と遺物



第303図 SD1070 (2)

IV 検出された遺構と遺物



第304図 SD1068

SD1068 (第301図、遺構平面図は付図参照)

位置 6-12グリッド。

規模形態 検出された長さ 8.5 m、幅 2.3 m 前後、検出面からの深さ 50 ~ 60 cm を測る。南北に直線的に走る構である。北側は調査区外にかかる。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。調査期間の関係で完掘することができなかった。

出土遺物 須恵器系陶器壺(1)、および混入と思われる古代の土師器、須恵器が出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。

SD1070 (第302~303図、遺構平面図は付図参照)

位置 6-13 ~ 6-15グリッド。

規模形態 検出された長さ 48.8 m、幅 2.4 ~ 3.5 m、検出面からの深さ 80 ~ 120 cm を測る。南北に直線的に走る溝である。南端で SD1092、SD1104、SD1115 と交差する。ST1041、ST1046、SD1118 を切る。底面はほ

IV 検出された遺構と遺物

平坦で、壁面は急に立ち上がる。調査期間の関係で完掘することができなかった。

出土遺物 須恵器系陶器壺（1）、瓷器系陶器壺（2）、ロクロかわらけ（3）、砥石（4）、硯（5）、石鉢（6～10）、五輪塔（11～13）、龍泉窯系青磁などが出土した。出土遺物は少なく、また五輪塔以外は破片資料が多く全体の形状がわかるものは少ない。年代は13～15世紀であると思われる。

SD1085（第304図、遺構平面図は付図参照）

位置 11-14～11-17グリッド。

規模形態 検出された長さ64.3m、幅3.1～5.2m、検出面からの深さ70～110cmを測る。南北に直線的に走る溝である。南端は削平されている。SE1025、SE1026、SE1027、SE1035に切られる。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。調査期間の関係で完掘することができなかった。

出土遺物 龍泉窯系青磁皿（1、2）・碗（3）、須恵器系陶器（4）、瓷器系陶器壺（5、6）、ロクロかわらけ（7）などが出土した。出土遺物は少なく、全体の形状がわかるものはない。年代は13世紀後半から15世紀であると思われる。



第305図 SD1085

SD1090（第305、遺構平面図は付図参照）

位置 6-15～8-15グリッド。

規模形態 検出された長さ 東西25.7m×南北56.7m、幅1.8m前後、検出面からの深さ20～30cmを測る。L字状に検出された溝である。南端は削平されている。SE1051に切られる。ST1033を切る。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がる。調査期間の関係で完掘することができなかった。

出土遺物 古瀬戸鉢皿（1）、および混入と思われる古代の土師器、須恵器が出土した。古瀬戸鉢皿（1）は古瀬戸戸前期段階の製品である。年代は13世紀であると思われる。

SD1092（第306～307図、遺構平面図は付図参照）

位置 6-15～6-16グリッド。

規模形態 検出された長さ55.3m、幅2.3m前後、検出面からの深さ50cmを測る。南北に直線的に走る溝である。南端は削平されている。中央付近を搅乱に切られる。底面は平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。調査期間の関係で完掘することができなかった。

出土遺物 瓷器系陶器壺（1）、石鉢（2）、古鏡（3～10）、五輪塔空風輪（11）、水輪（12）、地輪（13）、火輪（14、15）、龍泉窯系青磁などが出土した。図化しなかったが、龍泉窯系青磁は外面に蓮弁文が描かれた龍泉窯系青磁碗II類である。古鏡は、初鏡年が1078年から1408年までの製品である。年代は13世紀後半から15世紀であると思われる。